

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 新千葉		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	38,961	
	高齢者人口	9,380	
	高齢化率	24.08%	
担当圏域 地区課題	地域づくりの必要性や具体的な支援体制づくりに対する住民の理解や意識差があり、担い手確保も含めた地域活動や資源の創出に地域差がある。既存の活動や地域に出向いての活動提案、地域課題や情報の共有による地域コミュニティの形成が期待できる。		
活動方針	<p>1. 既存の活動や地域諸団体及び生活支援コーディネーター等も交えた定期的な意見交換、情報共有の機会を継続し、地域課題と必要な資源、予防的な地域の関わりについて理解を深め、具体的な取り組み方法の提案や活動の後方支援を行う。</p> <p>2. 介護予防・日常生活支援事業への移行に伴い、適宜適切に丁寧な説明を行うと共に、高齢者自身も活動の担い手として地域に参加できるよう、自治会や社協地区部会等との交流を深める。</p>		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 対象者のおかれている地域特性や心身状態、課題のアセスメントを十分に行い、介護予防支援と地域活動への参加を一体的に活用できるようセンター内ケース会議にて支援の方向性を検討する。 センター職員全員が、介護予防・日常生活支援総合事業ならびにインフォーマルサービスの内容について適切に理解し、対象者への提案を行えるよう定期的な情報共有を行う。 対象者も含む、地域住民に向けた勉強会を開催（担当圏域内、各中学校地区を目安に年1回）し、介護予防への取り組みや地域コミュニティの形成を働きかけ、活動機会の増進を促す。 生活支援コーディネーターと連携し、地域の社会資源の把握や掘り起しを行い、個々のニーズに応じた効果的な活用につなげる。 	<p>介護予防ケアマネジメントについては、担当圏域に於ける通いの場等住民主体のサービスが十分確保されているとは言えない状況であり、今後生活支援コーディネーターと連携し資源の把握や発掘等に努める必要がある。予防プランの委託事業所に対しても情報提供等通じてインフォーマルサービスの活用や、自己決定の尊重、主体的な生活を送れるよう自立支援の計画立案を支援した。総合事業への移行については住民向けの説明も行う事が出来、委託事業所との連携の下、制度へのスムーズな移行が実現できた。</p>
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に向けた勉強会や認知症サポーター養成講座等の活動を開催（担当圏域内、各中学校地区単位を目安に年2回）し、予防的な介入や自立支援に向けた相談・助言、地域コミュニティの形成について理解を働きかける。 民生委員や地域諸団体等の連絡会議への継続参加、及び地域ケア会議の開催（担当圏域内、年2回）を提案・実施する。 既存の朝礼やセンター会議において、初動時の課題整理、リスク予測を確認し、センターとしての支援方針をより明確に共通認識する。 アセスメントの視点、相談援助におけるアプローチ理論など支援者としての技術向上に向けて、センター内でのケース検討会、内外研修への参加、日常業務におけるOJTを行う。 	<p>総合相談への対応について、スクリーニングによる対応方針の決定を行い、困難ケースについてもケース会議等を行いセンターでの方針決定を行い対応出来た。地域課題の把握については、地域ケア会議や聞き取りによる調査等活用し課題把握から解決に向けた取り組みを強化する必要がある。また、センター内で職員の移動があり、新人職員に対して職場内研修やチューター制による指導を行い、職員の資質向上への取り組みも年間を通じ実施した。</p>
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待防止に関する勉強会の開催（地域諸団体等を対象に年2回、圏域内居宅介護支援事業所を対象に年1回）。 消費者被害防止、成年後見制度に関する勉強会の開催（担当圏域内、各中学校地区単位を目安に年1回）。また、消費生活センターと連携し、出前講座等の情報提供を積極的に取り入れる。 認知症サポーター養成講座の開催（自治会等の地域住民を対象に年5回、企業やボランティア活動団体を対象に年3回）。 訪問等による実態把握ならびに、区高齢障害支援課との連携を保ち早期対応を図るほか、定期的な事例検討会やセンター内外勉強会による対応技術の向上を行う。 	<p>地域住民に対する認知症講座や、地域ケア会議での消費者被害等に関する意見交換を実施し、地域での権利擁護意識を高めることが出来た。今後は活動を他の地域にも広げ「地域ぐるみでの権利擁護」が実現できるよう、引き続き地域に出向いての権利擁護に関する普及啓発活動を継続する。また、総合相談での虐待や消費者被害への対応についてはマニュアルに沿った対応が出来ており、今後も市との連携やセンター内でのケース検討を行う事で迅速且つ適切な対応が取れるよう、関係機関との連携強化も目指す。</p>
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 中央区あんしんケアセンター主催の介護支援専門員を対象とした質の向上に関する研修の開催（年2回）。 制度改正に伴う周知活動に向けた研修会や勉強会、交流会の開催（担当圏域内、年2回）。 新人ケアマネ育成を目的とした研修会の開催（年1回）。 中央区主任介護支援専門員連絡会を奇数月に開催し、主任介護支援専門員のあるべき役割や、地域の中における主任介護支援専門員の自主的な活動を働きかける。 行政も含めた多職種による地域ケア会議を開催（担当圏域内、年1回）し、垣根を越えた関係づくりが促進出来るよう取り組む。 センター内外の勉強会や研修会への参加。 	<p>介護支援専門員を対象とした質の向上に関する研修や制度改正に伴う周知活動に向けた研修会・勉強会、また新人ケアマネ育成を目的とした研修会については、計画に沿って開催できたと思う。中央区主任介護支援専門員連絡会を奇数月に開催し主任介護支援専門員のあるべき役割や地域の中における主任介護支援専門員の自主的な活動を働きかけたこと、次年度に繋がる活動になっている。しかし圏域内での勉強会や研修会、事例検討会などの実施には至らなかった。至らなかった原因は、新体制での未熟さゆえに時間的余裕がなかったことがあげられるが次年度に向けて計画的に実施したいと考えている。</p>
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防、日常生活支援事業の開始時に使用される新しいツールの使い方を、介護予防教室等で指導、及び共同での作業を行うようにする。 既存の介護予防教室等について、内容の見直しや助言を行い、自主活動に向けた活動支援を行う。 地域交流会の自主活動に向けた企画、実施。 登戸、汐見丘町、春日を重点対象とした新たな活動の提案、企画、実施。 	<p>チェックリストや測定は、自身を知る機会となり、意欲の向上に繋がったのではないかと考える。体操教室を定着させるため、内容を固定化したことにより、参加者の記憶に残り始めている。今後自主化に繋げるためにも継続予定とするが、マンネリ化による意欲低下を防ぐため少しずつ異なる内容も入れていきたい。要支援・要介護レベルの方の参加者もあり。介護予防の重要性を感じると共に、障害があっても地域活動に参加できる体制づくりに努めたいと考える。</p>
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 地域課題をテーマとした地域ケア会議を開催（担当圏域内、年2回）し、地域住民との意見交換の場を確保することにより、地域特性に即したかたちの高齢者を見守る体制づくりに繋げる。 自治会等を中心とした認知症サポーター養成講座や介護予防講座を開催し、活動の基盤となる年齢層にも参加を呼びかけ理解を深めることにより、地域での見守り活動につなげる。 既存活動や生活支援コーディネーターとの連携を図り、異世代交流や高齢者自身が役割を担う事の出来る活動を企画、実施に取り組む。 	<p>介護予防、特に認知症への意識は高い印象で、依頼も多かった。毎年依頼を下さる地区に対しては、内容の変更も検討が必要。また、自主的な介護予防活動に向けた取り組みが必要だと考える。元気かい？については、自主活動として行って頂いているが、参加者からの要望を受け、あんしん参加時のみ、追加で体操やミニ講座を行うこととなった。自主化の後必要時に支援することで、継続促進に繋げたい。</p>
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修への参加ならびにセンター内での定期的な評価や指導・助言（OJT含む）を行う。 支援者としての客観性、倫理性を意識したリスク管理を行うことができるよう、内部勉強会や個別指導を行う。 	<p>積極的な職員研修の実施、事業所内での三職種による協議の場を活用し、総合事業への移行支援、制度説明等を開催する事が出来た。また、積極的に地域に出向くことで住民や関係機関と顔の見える関係も構築されつつある。</p>

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 中央		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	43,421			
	高齢者人口	8,238			
	高齢化率	18.97%			
担当圏域 地区課題	担当圏域内の町丁が多く、それぞれの町丁で地域課題や地域特性、ニーズが異なる。地域課題やニーズが異なることから地区部会単位での活動が難しい地域もあり、地区部会の分割が行われる地区もある。あんしんケアセンターとしてこれまでの活動を通じて把握した地域課題、地域特性・ニーズについて地域住民や関係機関と共有し、その解決のための話し合いが行われるように働きかけていく必要がある。				
活動方針	○三職種がこれまでの活動の中から把握した地域課題、地域特性、地域ニーズを統合し、地域の特性やニーズに合った支援を展開していく。 ○センターが把握している地域課題を、地域ケア会議の他にも既存の会議を活用して地域住民や関係機関と共有し、課題解決のための会議の開催や連携強化に努める。				
項目	具体的な活動計画		自己評価		
セ ン タ ー 業 務	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の介護支援専門員から総合事業に関する質問が複数寄せられているため、研修会等を開催し、これまでの制度との違いや運用方法について説明を行う。 民生委員や社協地区部会の定例会等に参加し、総合事業が始まったことについて周知を行う。 住民主体のサービス等をどのように考えていくか、社協地区部会や自治会等と一緒に検討する機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業開始にあたり、3月・4月と居宅介護支援事業所向け研修を開催したことで、制度の理解を深めることができた。緩和された基準のサービス情報が乏しいため、年度当初は全サービス事業所にFAXでアンケート調査を行い、圏域内にサービス提供可能な事業所を探してケアマネジャーに情報提供した。そのため大きな混乱は無く順次移行できたと考えている。 住民主体の支え合い活動について、圏域内の地域ケア会議や地区部会定例会、民生委員定例会等でも必要性について説明を行った。すでに地域で何らかの役を担っている人々は必要性について十分理解してくれているが、場所や予算、担い手の確保が難しく、広く住民に知らせて実際の活動に結びつけるのは難しいと感じている。地域ケア会議を開催したことで、ボランティア等の地域活動に参加してもらえ人が増えるように啓発活動を続けていくことは大切だが、それと並行して、都市部ならではの市場サービスをどのように活用するかも合わせて検討していく必要があることがわかった。 		
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 職員各々が活動した中で把握した地域特性や地域ニーズについて、もれなく共有できるように、センター内の情報共有体制を見直す。 活動中に把握できない情報については計画的に地域診断を実施する。 民児協や地区部会等の定例会、圏域内研修等の場でセンターが把握した課題について説明し、関係機関と課題の共有を行う。 老人会、自治会、民児協、地区部会等に対し、周知活動を行う。 センター広報紙を発行してセンターの周知を行い、早期相談に結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> センター内会議を活用し、職員それぞれが把握した地域の情報や課題等を共有する体制を構築することができた。また、情報共有のツールとして地区ファイルを作成したため、総合相談や課題の分析に活かせるよう内容を充実させていきたい。 毎月、町別・相談内容別に総合相談の集計を行い、結果をセンター内で回覧することで、相談傾向の共有を行うことができています。 民児協や社協地区部会等に参加した際に、センターで把握している地域課題の説明を行い、情報共有することができた。 民児協や社協地区部会等に参加した際に、センターの周知活動を行うことができたが、広報紙の作成・配布には至らなかったため、次年度は作成・配布についての計画を立て、実施にあたっていく。 		
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害情報について、担当者が定期的に情報収集し、センター内で共有する。 消費者被害情報について、広報紙等を活用し、地域住民や居宅介護支援事業所等の関係機関に周知する。 地域住民向けの講座や関係機関への周知活動の際には、高齢者虐待の早期発見に協力してもらえよう周知活動を行う。 虐待が疑われるような相談を受け付けた際は区担当者へ報告し、適切な支援ができるように連携して対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活センターと連携して消費者被害の情報収集を行い、居宅介護支援事業所向けに消費者被害情報の周知を行うことが出来たが、広報紙を活用しての地域への周知が行えず、センター内での情報共有も定期的に行うことが出来なかった。 高齢者虐待の早期発見に協力していただけるよう、居宅介護支援事業所向けに高齢者虐待研修を実施できたが、地域住民向けの周知活動は不足していた。 高齢者虐待が疑われるような相談には、区の担当者と連携して対応にあたることができた。また、事実確認を行う際に情報収集の漏れが無いように社会福祉士会のチェックシートを活用することが出来た。 		
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 区内の介護支援専門員の研修会の開催 圏域内の居宅介護支援事業所や介護保険事業所を対象とした勉強会の開催。 居宅介護支援事業所を対象とした定期的なアンケートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内事例検討会について、手続きを簡略化したことで支援の方向性や実際にやってみた方が良いこと等について話し合う時間を多く持つことができた。事例検討会をテーマに開催したが、参加者が12名程度と少なく、事業所からは「事例検討」がテーマだと業務内での研修参加が会社から認められない（すでに社内で行われているため）ことがある等、参加しにくさについて相談された。勉強する気持ちがある人が参加できるようにするために、どのような工夫ができるか次年度に向け検討する必要があると感じた。 圏域内多職種連携会議では、参加者の選定に苦慮した。ある職能団体は「あんしんの圏域に限って仕事をしているわけではない」という理由で圏域外から参加されていた。圏域内の地域資源に応じた多職種連携について話し合いたかったが、テーマがぼやけてしまった。多職種連携に含まれる職種が多く、圏域ごとにしても参加人数が膨れていくのであれば、圏域ごとにしても区単位との差別化がはかれないように感じた。 地域ケア会議の開催について、民生委員や行政機関と一緒にケース検討会を行ったが、個別の地域ケア会議の開催は数回しかできなかった。 		
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防を目的とした講座や教室を開催する際には、参加者に介護予防の大切さについて説明し、目的を持って参加できるように働きかける。 社協地区部会と連携し、地域のニーズに合わせた講座や教室の開催、活動支援等を行う際に、介護予防の大切さについて説明し、普及啓発を行う。 区健康課と連携し、各地域の実情に合わせた普及啓発を行う（講座の開催、老人会でのミニ講座、介護予防サークルの訪問等）。 圏域内の老人会等を訪問し、介護予防の大切さについて説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリストやミニ講座等などを行い、介護予防の大切さについて目的をもって参加できるように働きかけた。 地区部会、老人会、自治会などと連携し、アンケートをとったり話し合いを重ねることで地域のニーズを把握しながら、教室を開催することができた。 今後、今までアプローチしていない地域に出向き、介護予防普及啓発活動を行う必要がある。 		
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防サークルの活動の支援にあたり、前年度に確認した参加者のニーズをもとに支援内容を検討し、参加者が主体的に介護予防に取り組めるように活動の支援を行う。 介護予防サークル活動の中心となる地域住民と連携し、継続して活動に取り組めるような後方支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の団体（お元氣かい）では、中央区の3センターが毎月一度、順番に活動状況を把握し、参加者が主体的にできるよう支援を続けている。 筋トレや脳トレ体操等を行い活動が継続できるよう、団体への定期訪問を行った。 新規の事業では地域支援活動が主催者側だけでなく、地域の参加者主体の介護予防活動となるように、民生委員と協力したり、ボランティアさんへの声かけ、役割の確認など行なった。 今後は、健康課や社協等の関係機関と情報交換をしたり、地域の方々と連携をとりながら自主的な活動に移行できるように働きかけていく。 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の開催。 圏域内中学校での認知症キッズサポーター養成講座の開催。 配置されている認知症地域支援推進員は、行政と連携して千葉市の認知症施策の推進に取り組む。 紹介する居宅介護支援事業所が偏らないように、アンケートやチェック表を活用し、公正中立に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座やみかんの会の活動を通じ、認知症になっても安心して暮らせるまち作りを進めている。認知症があっても必要なサービスとつながることが難しい人は、認知症初期集中支援チームと協力してアプローチしている。 みかんの会については、予定していた達成目標まで到達できなかった活動もある。センターの本来業務の合間に行っているため、なかなか事業を進めることが難しいところもあると感じている。 公正中立について常に心がけ、利用者が自ら選べるように配慮して案内することができた。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千葉寺		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,018			
	高齢者人口	7,225			
	高齢化率	22.57%			
担当圏域 地区課題	①子世代の流出や集合住宅の増加により、互助関係が縮小し、独居高齢者や高齢者世帯が孤立しつつある。そのため介護が必要な状態になっても気づかれないまま重度化しやすい。 ②各地区には自治会館等の施設はあるが、自治会・老人会の加入者や役員のなり手が少なく、活動が減少している。 ③住民の認知症に対する関心は高まっているが、地域の課題として捉えられていないため支援活動に結びついていない。				
活動方針	①関係機関と連携し、実態把握を進め、早期に適切な支援に繋ぐとともに、継続的な支援体制を整える。 ②生活支援コーディネーターと協働し、ネットワークの構築と活動支援及び人材育成を行う。 ③地域の住民や企業・商店等に、認知症の人の見守り等の支援について働きかける。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支	<ul style="list-style-type: none"> 既存の地域の集いの場の把握、情報収集。 シニアリーダーや「ちばし いきいき体操」を活用し、新たな集いの場を立ち上げる。 地域にある社会資源、またその活用法について地域住民に発信。 既存のサロンや老人会等の活動内容が、介護予防により効果的なものとなるよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー体操教室立ち上げに向け、自治会とシニアリーダー事務局との顔つなぎを行って、開催にむけた支援を行った。 既存の老人会やサロンへ適宜情報提供や講師派遣を行い、自主活動としての継続を支援した。 生活支援コーディネーターの役割や活用方法等わからないことが多く、情報共有や相互に協力して地域情報を収集する機会が中々持てなかった。 千葉寺・青葉町町内会域における、支え合い活動立ち上げに伴う会議に出席した。隣接する地域でも支え合い活動について興味があるという声があり、取り組み状況についての情報提供を行ない、活動への取り組みのための種まきを行なった。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 全ての相談を受け止めアセスメントを行い、課題を明確にし、適切な機関や支援に繋げることを常に意識しながら相談対応を行う。 積極的にアウトリーチの機会を持ち、地域の情報収集・実態把握に努める。 ケース会議の開催、要見守り高齢者のマップ作成を継続し、個別地域ケア会議開催の必要性について検討し、必要度の高いケースは地域ケア会議を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ワンストップの相談窓口として全ての相談に対応し、適切にスクリーニングを行った。週1回ケース会議を実施し、三職種で検討を行いながら、必要時には各関係機関に繋げた。 相談件数が増加する中、全ての相談に対しスピーディに対応することを努めた。対応については逐次、三職種で検討を行ない、複数担当者で支援に当たる等して、効果的な支援が提供できるようにした。 117地区地域ケア会議開催に向けての話合いや千葉寺青葉町の地域支え合い活動にて自治会や社協とのネットワーク構築を図った。潜在的なニーズ発見や要見守り高齢者の把握が十分に行えていない為、構築してきたネットワークを活用し、支援に繋げていきたい。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待ケース等の早期発見・早期解決の為に、日頃より行政や関係機関との情報交換・情報共有を行い、連携を図る。 高齢者虐待等の通報や相談を受けた場合は、速やかに状況を把握し、関係各機関と連携を図り、適切な対応を行う。 圏域内の事業所に向けて、高齢者虐待に関する勉強会を開催する。 権利擁護に関する勉強会(消費者被害、成年後見制度、認知症サポーター養成講座等)を地域住民・組織や企業等に対して行う。 圏域内の中学生を対象にキッズサポーター養成講座を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待の早期発見、早期解決に向けて、行政を初めとする関係機関と連携を密に図り、迅速に状況を把握し適切な対応に努めることができた。 認知症サポーター養成講座を中学生、企業、団体を対象に行い、地域での認知症についての理解を深めた。 	
	包括的・継続的ケアマネ	<ul style="list-style-type: none"> 民児協定例会や社協地区部会への参加。 多職種連携会議の開催。 地区社協や民児協、自治会等と総合相談内容や実態把握から抽出された地域課題を共有・潜在化したニーズの発見のための地域ケア会議を開催。 個別ケースの地域ケア会議の開催。 研修会・事例検討会の開催。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合相談の内容をもとに分析した地域課題を地域の町内会や民児協と共有する機会を設けることで、既存の地域団体とのネットワーク構築、課題解決の一助とした。 圏域内の居宅介護支援事業所からのケアマネジメント相談対応を行いながら、地域の実態把握・ネットワークの構築に努めた。ケースの複雑化や利用者の生活する地域特性、ケアマネジャー個々のスキル差等があるため、それぞれのケアマネジャーの置かれている状況に応じたケアマネ支援を行なっていきたい。 区内あんしんケアセンターの主に介護支援専門員と協働し、区内のケアマネジャー向けの研修の企画・運営は実施できたが、圏域内の居宅介護支援事業所向けの研修や事例検討等の開催には至っていない。次年度は、圏域内の居宅介護支援事業所向けの研修や事例検討会の開催等を行いたい。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談や各種教室等で基本チェックリストを実施し、自身の現在の健康や生活について振り返るきっかけを作る。 開催中の介護予防教室について情報発信。 活動がさかんではない地域で重点的に介護予防教室を開催し、楽しさや必要性を実感できる機会を作る。 既存の活動団体について、生活支援コーディネーターと協力し情報発信する。 圏域住民を対象に年3回(4月、7月、10月)近隣の県立公園でウォーキングを開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 中央区ふるさとまつりや公民館祭り、地域の防災訓練等の各種イベントや町内会・老人会主催の体操教室、地区社協のサロン等への参加を通して、地域資源の把握、地域住民に向けて介護予防についての啓発活動を実施した。 センター主催で地域住民に向けてウォーキング企画を2回開催した。当初は、年3回の開催を想定していたが、職員の入退職、総合相談対応の増加等により、年2回の開催にとどまった。ただ、2回の開催を通じ、地域住民に向けて介護予防の楽しさや地域での取り組みについて情報発信を行なうことが出来た。また、参加者同士がコミュニケーションを図れるような機会を設け、地域間での介護予防活動の情報共有が行えた。 いきいき活動マップ、生活支援サービス活用ガイドの利用、センター内での意見交換を通して、地域住民の介護予防の必要性についての意識付けや働きかけを行った。 	
	地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 『元気かい?』『稲荷町さくら会』の活動支援のため、体操指導や介護予防資料の提供等を行う。 これまで活動継続を支援してきたサロンや老人会等の団体については、必要時支援を行う。 自主活動グループについて、開催場所や活動内容について地域住民や生活支援コーディネーター、シニアリーダー等と協力し、新規立ち上げを目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> 他のセンターと協力しあい、地域の既存の活動団体へ体操講師派遣や活動継続支援を行った。活動団体が自主グループとして活動継続が出来るよう、体操指導や介護予防の情報提供を行なった。 中央区内のあんしんケアセンターの保健職で定期的に会議を開催し、地域の介護予防活動支援のための地域資源や各種制度について、情報・意見交換を2ヶ月毎に継続して行なった。会議を通し、区内での保健職のネットワーク構築をはかり、日々の業務へ活かしている。 稲荷町のサロンが自主グループとして活動維持できるよう、体操指導や介護予防の情報提供を行った。その関わりを通して、団体や地域の実態把握を行い、今後の活動支援における課題について検討をした。今後も引き続き自主グループとして活動が維持できるよう、団体の現状や地域性などを踏まえたうえで、センターの支援方法について検討し、実践に繋げることを来年度の課題としたい。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 市の委託事業であることを十分に理解し、常に公正・中立性の確保に努める。 各々が専門性を高め業務に従事できるよう自己研鑽に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> 常にセンターの機能について職員間で確認を行ない、公正・中立の立場であることを意識しながら業務に従事した。 個人情報の取り扱いについて、職員間での確認・声かけを行ない、漏洩に注意し対応を行なった。次年度以降も定期的に個人情報の取り扱いについて確認する機会を設け、職員の意識啓発に取り組みたい。 センターに起こり得るリスクについて話しあい、センターとしてどのようにリスクに対応するか、リスクをどう考えるか等意見を交わした。ケース対応やセンター業務を行なっている際に生じる、または生じると想定されるリスクについて、随時意見交換を行なう機会を設けていきたい。 研修計画を個々に作成し、計画的に研修参加出来るよう業務の調整を行なった。研修参加後は、センター内で情報共有が行えるように心がけたが、資料回覧での共有が主となったため、センター内での共有方法については工夫が必要である。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 松ヶ丘		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(3) 人	(4) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	67,256			
	高齢者人口	15,776			
	高齢化率	23.46%			
担当圏域 地区課題	高齢者人口の増大に伴って独居及び高齢者世帯も増加している。老々介護や認知介護、経済的困窮、精神障害が原因となって日常生活に支障を及ぼす相談が増加している。地域の見守り体制も整いつつあるが、閉じこもりの問題や社会的交流が必要だと思われる相談もあり、今後は関係機関と連携し、地域のネットワークづくりに重点を置いた支援が必要だと思われる。				
活動方針	地域包括ケアシステムの構築を目指し、関係機関との連携・協働を更にすすめていく。高齢者一人一人が地域の中で安心して暮らせる街づくりを目指す。また、圏域変更に伴い広域圏域となるが、住民の利便性を考慮し、松ヶ丘センター、白旗出張所、ともに同じ業務を担い、地域の相談窓口としての機能を果たせるよう連携していく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価		
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者本人が自身の心身機能の状況を把握できるよう基本チェックリストを利用しながら適切なアセスメントを行う。 自らが目標を設定し達成するための必要なサービスを一緒に検討しケアプランを作成を行う。 適切で効果的なサービスの利用につなげるようインフォーマルサービスに繋げていく。 生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、住民主体のサービス活用と情報の発信を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は総合事業への移行があった。移行にあたっては、事業内容の理解と多様なサービスの把握、サービス利用者に対する丁寧な説明に努めた結果、スムーズに移行が行えたことと評価する。特に生活支援コーディネーター等の協力により、介護予防に関する地域の活動拠点が明確となり、支援事業を行う上で役立っている。 地域の老人会や体操教室にて基本チェックリストを実施し、心身の状況を確認していただくと共に、いきいき活動手帳を交付し活用を開始した。地域の介護予防活動支援事業やミニ講座の実施などで地域の実情把握を行う事ができた。今後の運営の手掛かりを得ることができた。 		
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 講演会や地域活動の場を通してあんしんケアセンターの周知活動を行い、地域の身近な相談窓口としての定着を図る。 相談援助技術の向上や必要な知識、情報の取得を図るために積極的に研修に参加し、自己研鑽を進めていく。 支援困難事例に関しては、地域ケア会議を活用し、多様な機関や職種と連携し、多方面から支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合相談では、各職種、行政、各関係機関と連携しながら対応することができた。また、毎月開催の総合相談ミーティングでは継続ケースのスクリーニングを行い、複数の職員での評価、検討を行い、今後の支援について話し合い、ケースの取りこぼしがないようにファイリングを行い継続支援をしている。 独居の認知症の方のケースでは、認知症初期集中支援チームをはじめ、医療機関、サービス事業所、民生委員と連携しながら対応することができた。 総合相談から各地区毎のデータ作成をしているため、地域の特性や相談内容の傾向データを読み取って、地域ケア会議や社会資源の開発に生かしたい。地域住民に対しても相談しやすい環境を作ることができた。ワンストップサービス拠点として身近な相談窓口としての機能を果たすことができた。 		
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 各地域で消費者被害や高齢者虐待防止の講座を開催し、普及啓発活動を行うとともに住民の注意喚起を図る。 虐待の相談、通報、情報提供等に対して行政や事業所と連携を図りながら、慎重かつ迅速に対応する。 認知症の方含め必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の活用を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活センター、警察、成年後見支援センターと連携し、出張講座を開催し、地域住民の方への普及啓発活動ができた。 虐待対応については、関係機関との連携を図りながら対応してきた。次年度も継続して行っていきたい。 認知症徘徊模擬訓練を松ヶ丘、白旗出張所2か所で開催した。地域住民の理解や協力があり、開催できたと感じている。次年度は開催していない地域で行ってきたい。 		
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域特性や状況に応じたネットワーク構築を図り、関係機関等との相互の繋がりを日常的に築いていく。 支援事業所向けの研修会、事例検討会を開催し、介護支援専門員への情報提供、資質向上に努める。 多職種協働による地域包括支援ネットワーク構築に向け「地域ケア会議」「多職種連携会議」を開催し、連携体制の構築・強化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年からの新しい取り組みの一つである圏域内事例検討会は3回実施し、圏域ケアマネの資質向上、ケアマネ同士の仲間づくりの場を提供する事ができた。また、新しい取り組みである圏域内居宅介護支援事業所個別訪問も実施し、ケアマネの悩み、ケアマネが捉える地域課題や不足している社会資源等、紙でのアンケートでは聞き取る事のできない細かな意見についても把握する事ができた。後方支援を行っている主任ケアマネ連絡会ではケアマネサロンの開催を昨年より引き続き実施。ケアマネサロンにおいては昨年より実施回数を重ね、今年度はより一層なごやかでケアマネ同士何でも話せる場となってきている。中央区あんしんケアセンター主任ケアマネで研修会を今年度3回開催。今年度は今まで取り上げていない内容での研修を実施する事ができ、多くの中央区内ケアマネの参加があった。 多職種連携会議は中央区全体で1回、圏域内で1回実施。地域住民も参加して頂き、専門職以外から意見も聞くことができ、より地域状況に沿った多職種連携会議を開催する事ができた。 蘇我地区で地域ケア会議を今年度も開催し、行政・警察・学校・地域住民等の参加があり、地域に合った連携体制構築に向けて話し合いを行う事ができた。また、星久喜地区では、地域ケア会議の準備をすすめてきた。次年度はケア会議か地域運営委員会の開催ができるようすすめていく。 		
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> センター主催の介護予防教室を継続開催する。 サロンや地域活動支援の際はあんしんケアセンターの周知、基本チェックリストの活用、実施を行い対象者の抽出を行う。 健康増進、感染予防などのポスターやチラシの作成、配布を行い啓発に役立てる。 センターや近隣施設を利用しながら、ミニ講座や体操教室を行い、ネットワーク作りや交流の場の提案、提供を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当圏域が広がり、社協主催のいきいきサロン、中央区保健センターとの共催による健康イベント、ふるさと祭り参加でのあんしんケアセンターの周知、24時間薬局モデル事業に参加したことによる介護相談や薬についてのミニ講座の開催など、多様な連携を行いながら多方面での周知活動を行う事が出来た。 要介護状態の発生を遅らせる、悪化を予防する、軽減している、自立に向けているなどの評価を定期的に行う事が出来なかった。 基本チェックリストの積極的な実施と事業対象者把握に努めていく事を再認識している。 		
	地域動介支援予防	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンや地域活動への参加、中央区保健センター健康課や生活支援コーディネーターとの連携により、介護予防教室の開催(いきいき百歳体操)や通いの場の立ち上げ、情報提供など行っていく。 シニアリーダー教室の立ち上げとリーダー育成を支援し、自主活動の支援を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 現行の自主活動グループ支援の継続や新たな教室立ち上げを地域の方と協働しながら行う事ができた。 要介護状態の発生を遅らせ、悪化を予防し、または軽減できるよう、自立に向けての評価を定期的に行う事ができなかった。 基本チェックリストの積極的な実施と事業対象者把握に努め、いきいき活動手帳の交付と活用を開始することができた。 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 市の委託事業であるという公的な立場を常に意識するよう、職員間で周知徹底する。公正・中立性を確保するため、特定の事業所に依頼が集中しないように専用ファイルを活用する。 新しく開設する出張所の周知活動を行い、地域の相談窓口としての定着や事業所とのネットワーク構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンター職員として公正・中立性を保つ運営を行うため、日頃から職員教育を行い、理解を深めていった。 高齢者に提供されるサービスが特定の種類やサービス事業所に偏ることなく、複数事業所を提案し、選択できる状況を確認することができた。 あんしんケアセンター業務に関わる自己評価の基準を作成し、客観的に業務評価ができるよう今後取り組んでいく。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 浜野		
	主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,157	
	高齢者人口	6,129	
	高齢化率	25.37%	
担当圏域 地区課題	この圏域は、緑区に隣接する山側と市原市に隣接する海側に分けられるが、どちらの圏域にも入院できる病院や医療機関、大型スーパーといった生活に密着した施設が少ないことが課題となっている。特に山側については、JR浜野駅までが遠いため、車を運転しなくなった高齢者は公共交通機関であるバスでの移動となるが、利用者が減っていることから本数が減少傾向にあり、日常的な移動にも不便になってきている。もともと農業を主産業としていた地域のため、国民年金受給のみの低所得者や高齢者世帯も多く、サービス利用に関しても閉鎖的である。海側である浜野駅周辺では、マンションや分譲住宅が増えており、人口も増加しているが、自治会加入率が50%程度となっており、今後の町内活動に課題がある。また、町内自治会館はあるものの町内が広すぎて、身近に集まれる場所が少ないことも課題である。東日本大震災以降、地域全体で防災活動には積極的で、年1回生浜地区全体の防災訓練を実施しているが、避難行動要援護者の避難誘導に課題を感じている。		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が住みなれた地域でできる限り元気で生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、介護・予防・医療・住まい及び生活支援サービスを継続して提供していただけるための「地域包括ケアシステム」の構築を推進するために、関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。 ・新たに浜野駅前に事業所を開設しての事業運営となるため、まずは地域の方にセンターの場所を覚えていただけるように、周知活動を積極的に実施する。 		
項目	具体的な活動計画		自己評価
センター業務	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業の利用対象者を適切に把握するために、地域活動や総合相談の際には、基本チェックリストを実施する。 ・介護予防ケアマネジメント向上のために、外部研修への参加や内部研修を実施する。 ・町内自治会単位での住民活動の情報収集を行うため、町内自治会長との連携強化に努める。 ・社協地区部会と連携して開催している勉強会で、必要な支援について、住民から意見を直接聞く機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当利用者の総合事業への移行が適切にスムーズに行えるように情報収集に努め、必要な支援を効果的に導入することができた。 ・民生委員の困りごとアンケート調査の結果を地域ケア会議にて共有した。生浜地区部会と連携し、地域課題の把握・共有のための勉強会を実施したことで、生浜地区における地域課題を明確にすることが出来た。また、その課題についても町内自治会や民生委員、地域住民にも情報発信、共有しているところであり、地域包括ケアの大きな一歩であると評価している。 ・外部研修には積極的に参加して、内部研修等で情報共有し、自立支援を目標とした介護予防ケアマネジメントに努めた。 ・総合相談の受付場面での基本チェックリストの実施ができなかった。相談の多くは、心身機能の低下による介護保険サービス利用希望となっており、受付時点での基本チェックリストの実施は難しいと感じている。来年度は、地域活動の場面で基本チェックリストを実施していきたい。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・新事務所のPRとあんしんケアセンターの広報活動を兼ねて、民生委員や地区社協、地域住民に向けて「あんしんケアセンター活用術講座」を実施し、地域になくはならない存在としての周知を図る。 ・地域活動では地域の社会資源についての情報収集を行う。 ・寄せられた相談に対して迅速に適切に対応できるよう、職員の資質向上に努める。 ・民生委員の定例会や老人会、町内行事等に積極的に参加する。また、社協地区部会の活動を理解し協力することで、支援の必要な高齢者を早期発見し、適切な支援に繋げていく。 ・センター会議室を活用して、地域住民や関係機関との連携を目的としたサロン活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員との町別意見交換会を開始したことで、個別ケースの進捗状況の確認や、センターの活動内容を詳しく説明し理解を深められる機会にもなり、関係性の強化が図れている。また、今後2回の定期開催の体制が図れたことは、今年度の活動の中でも大きな成果であったと評価したい。顔が見える関係性が築けたことによって、支援が必要な高齢者の早期発見や情報共有にも活かされている。 ・サロン活動を行うことで、センターに気軽に立ち寄っていただけるようになり、センターの周知にも繋がっている。また、地域課題にも挙がっている「気軽に立ち寄れる居場所作り」としても役割を担うことができた。 ・町内自治会長の個別訪問の成果もあり、定例会にて「あんしんケアセンター活用術」開催の機会をいただいたことは、地道な活動に効果があったと評価したい。年度末が近いこともあり、来年度以降に開催を予定している地域もあるが、全町内自治会で実施できるように努力したい。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の相談窓口の周知を図るため、あんしんケアセンター活用術等の講座を積極的に開催する。支援の場面では、高齢障害支援課をはじめとする関係機関との情報共有と連携に努める。 ・消費生活センターと連携し、消費者被害のチラシ配布や講演会等で普及啓発活動を実施する。 ・千葉市成年後見センターと連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業の普及啓発活動に努める。 ・認知症の正しい理解を深めるため認知症サポーター養成講座を開催する。 ・「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」の必要性について、地域の理解を求めるために、認知症徘徊模擬訓練の実行に向けて、協議を重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を推進するため、地域の障害者施設の協力のもと、認知症カフェの開催ができた。回覧板や掲示板、介護予防教室等で開催の案内を行い、認知症の方やその家族、地域住民に多く参加していただき、認知症についての理解を深めることができたと感じている。 ・生浜中学校1年生を対象に、キッズサポーター養成講座を開催。学校の先生にも寸劇に参加してもらうことで、中学生にも興味深く聞いてもらえることができ、認知症についての理解を深めることができた。 ・消費者被害について、消費生活センターに講師を依頼し、「悪徳商法と対処法」について講演会を開催。地域住民へ啓発活動を行うことができた。 ・徘徊模擬訓練開催について、社協地区部会や町内自治会に提案するも実現には至らなかった。地域に徘徊するような認知症の方が住んでいるといった認識がないため、センターで受付けた認知症の方の相談事例を具体的に示しながら、来年度以降も開催実現に向けて働きかけていきたい。
	包括的・継続的ケアマネ シメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生浜地区地域ケア会議、中央区多職種連携会議を継続開催し、様々な関係機関との連携を深め、地域包括ケアシステムの構築を推進する。 ・圏域内において個別地域ケア会議を定期開催していく。 ・圏域内の居宅介護支援事業所へ対する個別訪問の継続、ケアマネサロンの開催、事例検討会を実施する。 ・中央区主任ケアマネ連絡会の運営を後方支援する。 ・中央区介護支援専門員研修会を年3回、新人ケアマネ育成研修を年1回開催する。 ・総合相談の内容を基に町名別に地域診断を実施し、地域課題を把握し、民生委員、社協地区部会及び町内自治会や福祉事業所等と課題解決検討のための、地域ケア会議を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域内多職種連携会議では多くの福祉事業所に参加頂き、「顔が見える連携作り」のはじめの一歩は達成できた。生浜地区地域福祉連携会議における関係性構築の土台作り、圏域内福祉事業所への個別訪問等の効果だと感じている。今後は会議の継続・充実化が課題と考えている。 ・毎年区合同で新人ケアマネ研修を開催。新人ケアマネガイドブックを更新し、区内の居宅介護支援事業所の知識格差が発生しないよう後進育成に取り組んでいる。また、中央区主任ケアマネ連絡会においても、昨年作成した「新人育成マニュアル」を元とし、指導者向けの指導の標準化となるマニュアルを作成し、区内の居宅介護支援事業所へ配布し、区内事業所内でのOJTに役立ててもらえるよう環境整備を図っている。 ・個別地域ケア会議は随時開催を行ったが、定期開催までには至らなかった。様々な会議が多々あるため、参加者も会議の差別化がはかりにくく、会議開催の目的や意図がはっきりと理解できない状況となってしまった。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館を利用してセンター主催の介護予防講座を開催し、介護予防の啓発を図る。 ・介護予防等に関する広報誌を作成し、地域の掲示板を活用し地域との繋がりと情報の発信の機会を設ける。 ・センター会議室で介護予防教室を開催し、通いの場を提供し地域住民の健康増進を図る。 ・定期的にラジオ体操を開催し、地域の見守りと通いの場の提供を行う。 ・いきいきサロンへ参加しチェックリストを実施し、介護予防や健康増進のミニ講座を開催し、介護予防に関する普及啓発を行う。 ・地域資源の情報提供や情報共有が図れるよう、データの整理や更新を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの会議室兼地域交流スペースを利用して、いきいき百歳体操サークルや木よう憩の広場など、集いの場を充実させることができた。地域住民の介護予防に繋がっていると感じている。 ・短期リハビリ型通所サービスがなかなか決定せず、B型サービスも圏域内にはなく、繋がられるサービスがないため、チェックリストはあまり実施できなかった。来年度は、地域の既存の活動などを活用してチェックリストを行い、対象者の把握を行っていきたい。 ・町内自治会や老人会等に積極的に出向き、あんしんケアセンターの周知活動及び介護予防に関する啓発を行った。講演の依頼をいただいたり、ラジオ体操の場所を提案していただくなど、住民の意向に沿った介護予防活動に繋げることができた。 ・センター主催の介護予防教室だけでなく、公民館からの依頼を受けて健康講座を開催することで、介護予防普及啓発に繋がっている。来年度も公民館と連携した活動を実施していきたい。
地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・町内自治会や老人会の集まりには積極的に参加し、地域住民へ向けた健康講座を3回開催して、ネットワークの構築に繋げる。 ・いきいきサロン等地域活動に参加し、総合事業や介護予防に関する提案や関係機関との連携を図る。 ・シニアリーダーと共に体操教室開催場所の検討と、町内自治会や老人会へ協力依頼を行う。 ・いきいき100歳体操を開催し、地域住民へ通いの場の提供と自主活動グループの立ち上げを図る。 ・圏域内にある福祉事業所の地域資源を活用して、介護予防教室を開催し、地域住民への周知及び活動の活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社協生浜地区部会が奇数月に開催しているいきいきサロンの偶数月開催を提案し、浜野町、村田町で試験的に実施。役員の負担軽減のため、体操や脳トレを主としてセンター職員が指導した。参加者からも好評を得て、来年度は全ての地域のいきいきサロンで偶数月も開催することになった。既存の介護予防活動の拡充を図ることができたことと評価したい。 ・センター会議室を利用した「いきいき100歳体操」をきっかけに、体操の自主サークルを立ち上げることができた。活動が継続できるように今後も後方支援を実施していきたい。 ・地区部会が実施している地域活性化支援事業による「気軽に集まれる場所作り」を推進するため、活動の担い手作りの一環として、健康課にヘルスサポーター養成講座を依頼した。地域の要望に適切な助言や対応をすることで、信頼関係の構築にも繋がっている。 ・地域の既存の活動にも積極的に参加し、あんしんケアセンターの周知及び活動の支援を行うことができた。 ・福祉事業所の空きスペース貸出マップを関係機関の協力を得て、作成できたことは評価したい。来年度、集いの場を増やすために活用していきたい。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議等でサービスの偏りがないか検証し、公正中立性を確保する。 ・利用者アンケートを実施し、事業運営の見直し、職員の資質向上に活用する。 ・介護予防自己点検表や実績報告、実地指導の機会を通して、適正な事業運営が実践できているか検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅アンケートの実施により、各事業所の職員体制の把握ができた。主任介護支援専門員の配置や基礎職種を表にまとめることで、ケースの引継ぎや紹介、困難ケースの依頼先等の参考とし、ケースに応じた依頼がスムーズに行なえた。また、紹介事業所に偏りが出ないように職員間で情報共有できた。 ・介護予防自己点検表を活用して業務の見直しを実施。また、サービス事業所の利用状況を確認することで、公正・中立性のある事業運営を実践することができている。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター こてはし台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	18,751			
	高齢者人口	6,605			
	高齢化率	35.22%			
担当圏域 地区課題	高齢化率が高い地域であり、単身や高齢世帯の割合も多い。また地域の支援者側も高齢化が進んでいる。				
活動方針	民生委員や町内会、老人会、ボランティア、社会福祉協議会等との連携を図りながら、まだ活動の不十分な地域での介護予防支援等の普及活動を行っていく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを実施し、住民主体の集いの場やインフォーマルサービス等も含め適切な支援に繋げていく。 ・シニアリーダーとの連携を図り、シニアリーダー体操の普及・啓発を図っていく。新しい地域での活動が始められるように活動場所を探していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・総合事業について事業所内外での勉強会や研修会を行い、制度への適切な対応を図った。また、地域の住民に対しても訪問時や地域の集まり等で社会資源の活用とその情報提供を行った。来年度以降も総合事業の理解を深め、社会資源の情報収集や整理により事業所や対象者へ提案できるように進める。 ・あんしんさが丘と共同で花見川いきいきプラザのフェスタ（年2回）に参加した。来期もチェックリストの実施やインフォーマルサービス等の活用を対象者にアドバイスを行う必要があると判断した。 ・地域の通いの場については、ケアラズカフェ開催に向け、生活支援コーディネーターと情報交換等行っているが、場所や会場までの移動手段の確保が困難で実現には至っていない。今後も更なる情報収集と調整が必要と判断した。 	
	総合相談支援	<p>まだ関わりの少ない地域へ積極的に出向き、自治会、老人会等への周知活動を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・前期は相談件数の少ない地域に対して、自治会長宅訪問や回覧等で、あんしんの普及啓発を図った。目に見える相談件数の増加には繋がらなかったものの、自治会との関係づくりには意味がある活動であったと判断した。来期は対象地域すべての自治会を回ることにした。 ・後期はこてはし台地区部会の会報誌にあんしんの広報を掲載することが出来た。今後も継続して地道な普及活動が必要と考える。 ・地域ケア会議は、地域のケアマネから要請を受け、開催に繋げることが出来た。ケアマネに向け改めて、地域ケア会議の活用を促していく事が必要である。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員等に改めてあんしんケアセンターの活動の周知を図り、戸別訪問時に気になるケース等の早期発見に繋げていく。 ・早期対応が必要なケースは関係機関と連携し適切な対応を行っていく。その経過の必要な情報を民生委員等と共有し、次につなげていく。 ・消費生活センター等と連携を図り、地域へ消費者被害防止の講座等広報活動を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座は、小学生、高校生、地域住民へと実施し、年代に合わせた適切な内容で実施することを心掛け、対象者に合わせた資料を作成するなど工夫をしながら実施することが出来た。 ・29年度における社会福祉士会の権利擁護の勉強会は、内部に留まった形となったが、今後、蓄積したものを事業所や地域に向けて発信していく必要があると判断した。 ・みかんの会については、他センターと協力・連携を図りながらそれぞれの活動の検討がなされ、実施に移せた。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を開催し、地域の課題の分析等を行い、地域で解決に向けた話し合いが出来る様にしていく。 ・地域のケアマネジャーの研修会等を実施しスキルアップを図る。また地域ケア会議に参加し、地域のネットワークの一員としての自覚を促していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・主任ケアマネの会やケアマネの集いを実施し、ネットワーク作りが継続できている。 ・主任ケアマネの会では「ケアマネジメント」「権利擁護」「社会資源」の3部会に分かれ活動を行った。来期も研修会を企画する等それぞれの資質向上を図っていく。 ・合同連絡会は、ケアマネ向けに総合事業を中心に研修会を開催し、共に知識とスキルアップを図った。 ・多職種連携会議で認知症が疑われる高齢者や家族の支援をテーマに開催し、認知症初期集中支援チームや小規模多機能型居宅介護についての活用事例を学ぶことが出来た。今後も包括的・継続的ケアマネジメント支援に資する各種の研修や会議を企画していく必要がある。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況を把握し、近況に合った内容で広報誌等を作成する。 ・地域の回覧板・掲示板・自治会便り等での広報活動を行っていく。 ・シニアリーダー体操等の周知を活動地域の集まり等で行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の回覧板を通じ、初めて広報活動を行う事が出来た。今後も回覧内容の見直しを行い、介護予防への普及啓発となるように検討していく必要がある。 ・いきいき活動手帳は短期リハビリ型通所サービスを希望する方が見つからず、また地域支えあい型通所も圏域には無いため活用が全く出来ていない状況である。今後は地域のサロン等でも介護予防への動機づけとなるように活用していきたいと考える。 	
	地域活動介護予防	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、老人会等に出向き、まだ活動の少ない地域でのあんしんケアセンターの周知活動を行い、新たな通いの場を模索していく。 ・既にあるサロン等の会の支援を継続していく。 ・ボランティアの会・お元気確認事業の定例会に参加し、日頃からの連携を深めていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順で中止となったイベントも多かったが、地域に向けての介護予防に関する情報提供や普及啓発の支援を行う事が出来た。 ・シニアリーダー連絡会にも毎回参加し、新規教室の立上げ時の支援や地域に教室の案内をするなど、協力体制が維持できた。今後は会場の確保などシニアリーダー以外にも生活支援コーディネーターも協力しながら、活動が手薄な地域へ対応していく必要があると判断した。 	
	その他	サービス事業所の最新情報を把握し、相談者がサービスを選択できるようにしていく。		<ul style="list-style-type: none"> ・市の運営方針に基づき、公正中立を意識した業務が行えた。 ・個人情報管理規定以外にも漏えい時の対応マニュアルを作成し、取扱いに細心の注意を払い活動した。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花見川		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,755			
	高齢者人口	12,050			
	高齢化率	35.70%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症や精神疾患疑いが起因の居住トラブルや、経済的な問題を抱えた独居、また、世帯構成員そのものが絡む複雑な課題を抱えた世帯の増加がみられる。 ・課題の混在している相談内容が多くあるが、他者の介入を拒み、孤立化に向かいがち傾向の世帯が目立ち始めている。 				
活動方針	住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある暮らしができるよう、地域ニーズや実態把握に結びつくネットワークの維持拡大を図り、更にセンター機能を充実させる。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<p>様々な社会資源との連携を図り、利用対象者に向けては、その選択に基づいた適切なサービスが、包括的かつ効果的に提供されるよう必要な援助を行う。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・総合事業に切り替わった為、職員は制度を把握し対応をしてきた。利用者やサービス提供事業所へタイムリーに最新情報を提供し、制度の理解が得られるよう支援することが、連携体制の強化等にも必要と判断した。 ・社会資源の情報収集はできたが、その周知や利用における整備までには至らなかった。 ・プラン作成においては、利用者の意向や状況等を踏まえた上で、公正・中立の立場で特定の事業所やサービスに偏ることがないよう対応したことにより、事業所などから減算や苦情となることはなかった。 ・予防プラン委託先を探すのが対応してもらえる事業所が簡単に見つからないため、区や市をまたいで調整をしてきた。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的また緊急性判断等の的確な状況把握のもと、機関や制度、サービス等への適切な繋ぎ支援をする。 ・地域住民との触れ合いの機会や関係者等との更なる関係づくりに向け、地域の実態把握や情報収集に努めると共に、地域資源の周知拡大を図る。 ・個々職員の業務バランスを図り、センターの力量とする機能表示の維持に向ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、センター事務所を特別養護老人ホーム晴山苑の施設内から地域の花見川団地商店街内に移転した。その効果として、花見川団地住人は利便性が良くなり、団地住人からの相談件数の増加、特に来所の対応件数が伸びている。約3,800件の対応の半数は団地住人で、新規対応も前年度より600件近く増えているため、より身近な相談窓口としての効果がみられた。 ・相談内容について、複数の課題が混在するケースも多くなっているため、複数職員で対応できるよう、申し送りやケースカンファレンスをし情報共有や対応方針がずれないようにしてきた。解決に至るまで時間を要するケースも多いため、今後現在の体制を継続していく必要があると判断した。 ・今年度の前期に保健師職の入れ替わりがあり、制度やあんしんケアセンターの機能、専門職種業務の理解を実務を通して深めていく指導体制を図ったことで、早期に一人立ちして対応できるようになった。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関や関係者等との連携強化を図り、地域情報の周知に向けると共に、適切な支援対応を行う。 ・認知症高齢者への理解を深めてもらい、見守りや協力を求めることが可能な地域の拡大が図れるよう、関係づくりに努める。 ・対象者や地域層を広げた「認知症サポーター養成講座」の開催企画を行う。 ・消費者被害に関する情報提供のもと、地域住民向けの啓発活動の機会を増やす。 		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の予防や早期発見をめざし、社会福祉士を主に、チームで事業所向けの講座も開催した。これにより虐待について事業所と意見交換ができるなど、虐待への知識の普及と併せ、ネットワークの構築に有効であったと判断した。 ・認知症高齢者であっても地域で生活が続けられるような環境作りをめざし、サポーター養成講座の他、センター独自で認知症カフェを開催した。また、全職員がキャラバン・メイトの受講を終了し、誰でも養成講座に対応できるような体制を整えることができた。 ・消費被害の対応については、相談対応のなかで注意の呼びかけや、消費者センターの紹介等はしてきたが、地域に向けた具体的な活動まではできていなかったため、次年度はサロンや集会等に出向いた際、注意の呼びかけをしていく。 ・エンディングサポートの周知について、団地の自治会の理解で説明会の開催ができた。 	
	包括的・継続的ケアマネジメ ント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議や連絡会（研修会）等の内容充実化を図りながら、相互連携の強化拡大に向ける。 ・諸機関や地域関係者等との顔繋ぎ機会へは積極的な参加体制で臨み、地域資源の情報収集やそれぞれの地域の課題等特性の共有化に向ける。 ・困難ケース等に際しては、地域ケア会議を必要に応じ開催し、幅広い多様な機関や多職種による多方面からの検討が図れるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・個別ケア会議は、関係者や地域住民と顔の見える関係性を築ける機会となった。さらに、地域の課題を抽出した地域ケア会議の開催においても、地域で起きている問題や課題を把握し、地域住民が自分達の身の回りでおきている問題を意識してもらえる機会となったことから、開催に向け積極的に調整を図る必要があると判断した。 ・困難ケースを抱えているケアマネの支援について、役割等を決めて同じ方向性で対応をしようとしてきたが、解釈の違いや連携という点で十分に伝わらなかったケースもあり、所内や外部研修等で学習する機会を設け、対人援助技術のスキルアップの必要性があると判断した。 ・地域の介護支援専門員との連携や、顔の見える関係性の構築に向けての活動も、センター独自の方向性が明確になっていない点もあり、具体的な取り組みを掲げて実行していく必要があると判断した。 	
	介護予防普及啓 発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロンや集いの場での介護予防活動を継続すると共に、ミニ講演会等の開催に向けて、新規設定機会の開拓に努める。 ・基本チェックリスト、及びパンフレットや毎月発行のミニ広報誌等の活用機会の拡張を図り、セルフケアマネジメント手法を伝える場の広い確保に向ける。 		<ul style="list-style-type: none"> ・定例のサロンや地域の行事等には継続して参加し普及啓発活動に努めてきた。今年度より定例で参加するようにしたサロン等では、介護予防に関する内容を取り上げる事で、参加した方たちに予防の意識付けができた。引続き、予防意識が高められるよう、地域の集いの場等には継続的に参加し、説明をしていく必要があると判断した。 	
	地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催の体操教室の自主化に向けた支援、及び新規開催に至った予防教室の育成支援を継続する。 ・地域における活動組織の把握と抽出に努め、積極的な関係アプローチを図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の体操教室は、自主化へ向けての支援を掲げているが、参加者からセンター職員にも来てもらいたいといった要望もあるため、自主化が実現しておらず、見守りや顔だしを続けてきた。あんしんケアセンターが見守りをやめる事で教室が続かなくなるようでは困るが、あんしんケアセンター以外の者でも見守る事で存続可能か、見守りができる者がいるのか等々、参加者及びセンター職員で協議し、可能な限り自主化へ向けて調整を図っていく必要があると判断した。 ・事業対象者となる方の掘り起こしや、関係機関等との連携ということでは、声かけや事業等の説明に留まっている状態で、繋ぎまでは至っていない。センターとしての活動自体が積極的でないという事もあり、次年度は基本チェックリストから拾い上げた方々を繋いでいけるよう努めていく必要がある。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・諸機関との協働連携を深め、センター機能としての実践力を地域に向け発信表明していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から関わる頻度の高い関係者、関連機関等においては、あんしんケアセンターの機能の理解やお互いの協力体制も整っている。ただし、大きなくくりでシステムが機能しているかとなると課題が残り、引続き、システムの構築、あんしんケアセンターの機能周知が図れるよう、日頃の業務や連携会議等を通じて関係を強化していく必要がある。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター さつきが丘	主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	21,528		
	高齢者人口	6,764		
	高齢化率	31.42%		
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域全体の高齢化率が30%以上で、特に高齢化率の高い宮野木台3丁目は44%となっている。 ・さつきが丘はエレベーターのない5階建て集合住宅が立ち並び、犢橋町には住宅が点在、千種町は工業地域である等、現段階で把握している地域特性に加えて、圏域内各町丁の詳細な特性を把握して地域課題を明確にしていく。 			
活動方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既存センターから引継いだ活動内容を滞りなく実施し、地域住民や関係団体へセンターの周知を図り、地域諸団体・関係機関との顔が見える関係を構築する。 2. 地区特性や課題の共有を目的とした地域ケア会議を開催し、地域包括ケアシステム構築に繋げる。 			
センター 業務	項目	具体的な活動計画	自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと連携しながら、地域の社会資源の活動内容の把握や掘り起こしを行い、個々の状況に応じた効果的な利用に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や利用者に対し、制度の理解や適切なサービス利用が行われるよう周知活動を計画したが、実現できなかった。介護支援専門員に対しては、他センターとの協働事業として研修会の開催や、委託事業所とのかかわりの中で継続したプランの確認や指導を通じ、適切なサービスが提供されるよう支援を行った。 ・自立支援に向けた介護予防ケアマネジメントの実現には、介護支援専門員の他、利用者、関係機関による制度への理解が必要であり、次年度の取り組みとする。 ・生活支援コーディネーターとの連携により、地域自治会や老人会等、社会資源の活動内容把握を目的とした情報収集を開始したので、次年度には収集した情報を活用した取り組みを実施したい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員や地域諸団体等の連絡会に参加し、センターの周知を高め、協力を仰ぎながら高齢者の生活実態を把握し、より詳細な地域課題を明確にしていく。 ・自主活動グループや関係機関、各職能団体との地域ケア会議を開催することで地域包括ケアシステムの構築を目指す(年2回開催)。 ・朝礼やケースカンファレンスを開催し、三職種間の共通認識を図りながら、初動時の課題整理、リスク予測を確認し、センターとしての支援方針を明確にしたチームアプローチを実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター周知と、より詳細な地域課題把握のため、関係機関の連絡会等への参加を計画し実践した。これにより、センター周知については広げることが出来たと考えるが、詳細な地域課題把握については、把握方法等の検討も十分に行えていなかったため、引き続き課題としていきたい。 ・総合相談対応の効率的な実施とチームアプローチの実践については、後期から定期的なケース会議を開催するなどしたが、総合相談内容の統計的な分析は行っていないので、今後実施していきたい。 ・地域ケア会議は、前期では開催できなかったが、後期において個別課題ケースを総合相談対応ケースから実施することが出来た。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・各中学校単位中心に、権利擁護に関する勉強会を実施(最低年1回)し、権利侵害の予防を促進する。 ・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する正しい理解についてアプローチする。 ・高齢者の権利侵害に関する個別ケースについて、訪問による実態把握ならびに区保健福祉センターとの連携を図り、迅速かつ適切な支援介入を実施していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・権利侵害に関する対応については、関係機関との連携と迅速な対応を心掛けた。研修等に参加する機会は持ったが、実際の対応においては経過観察中としているものもあり、対応についての検討を今後の課題としたい。加えて、権利侵害に関する勉強会や講座等の開催は今年度実施できなかったため、取り組み課題としたい。 ・認知症サポーター養成講座については、前後期1件ずつの依頼があった。三職種全員がキャラバンメイトとなったので、引き続き役割分担しながら対応し、認知症についての地域理解が進むように努める。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域諸団体や関係機関の連絡会や催しへ参加し、センターの周知を図って顔が見える関係を構築し、相互の役割理解を深めながら日常的な連携を行い、地域の高齢者の実態把握の協力も仰ぐ。 ・地域ケア会議や多職種連携会議の開催により、高齢者を地域で支える支援体制作りを行う。 ・勉強会や連絡会を年3回開催し、介護支援専門員の資質の向上を図り、介護支援専門員同士の繋がりを作る支援を行う。 ・事業所訪問による相談支援、相談しやすい環境作りを行う。 ・困難事例等に対し、同行訪問や地域ケア会議(個別課題をテーマとした)を通じ解決に向けた後方支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の活動、その他地域活動への参加を通じ、あんしんケアセンターの周知や普及は継続的に行えた。活動を通じ各関係機関との関係構築も図れ、日々の業務において大きな力となっている。 ・介護支援専門員への支援は、圏域内の居宅支援事業所訪問を通じ、各事業所の現状や地域への取り組み、当方への要望等を伺う事ができ、各事業所の特徴を知る機会となった。 ・困難事例に対する支援としては、問題解決に向けた支援活動が中心となり、介護支援専門員自身への課題の明確化や克服に向けた指導には至っておらず、次年度への課題と考えている。 ・地域ケア会議は、個別課題と地域課題について各1回ずつ開催した。会議をとおり地域課題について地域特性に応じた検討が必要と確認できたので、次回開催に向け、引き続き情報収集を進めることとした。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の活動について前任のセンターからの引継ぎを行い、活動内容を理解する。 ・生活支援コーディネーターと協力し、既存の地域住民活動の把握と新たな活動の掘り起こしを行う。 ・定期的な活動が継続できるよう協力し、一定期間の見守りを行う。 ・認知症サポーター養成講座を開催する。 ・出前講座を開催し、高齢者のセルフケアの必要性、閉じこもり予防について周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンター周知活動に重点を置いて、既存の活動団体や老人会に参加し、活動内容の情報収集等、把握も合わせて行うことが出来た。犢橋南部地域など把握しきれていない地域もあり、今後の課題としたい。 ・出前講座についての具体的な企画を練り、実行までに至らなかった点は課題である。今年度に知りえた情報をもとに再度地域のアセスメントを行い、来年度の活動計画を立てたいと考えている。 	
	地域介護予防活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民組織等の集まりに参加し住民の声を聴き、意見交換の場を設けて、地域特性に即した高齢者見守り体制に繋げていく。 ・既存の活動や生活支援コーディネーターとの連携を図り、異世代交流機会や高齢者自身が役割を担うことのできる活動の企画及び実施を支援する。 ・広報誌等を活用して情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー講座の普及啓発活動が活発で、新たに千種町、三角町、さつきが丘に体操教室が立ち上がったことは大きな力となった。シニアリーダーの自発的な意欲を支えながら、地域に根差したものとしていけるよう、あんしんケアセンターとして協力体制を示す必要がある。 ・ふくふくいいきいきサロンやすずらん会の会、あじさいクラブ、ここカフェ、1-35ふれあい会への継続的な参加を通して、あんしんケアセンターさつきが丘の周知はできた。今後は見えてきた地域の特性、運営側の問題点等を整理し、主体性を損なわないように配慮しながらサポートする必要があると判断している。 ・犢橋町、さつきが丘2丁目に新たな体操教室を立ち上げることについては、介入方法の検討が甘く、対象者のターゲットを絞りきれなかったこともあり、実現には至らなかった。来年度の目標とする。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・既存センターから引き継いだ利用者や地域活動内容について滞りなく支援継続する。 ・新設センターを地域に周知頂けるように諸団体活動に定期的に訪問する。 ・センター内会議や勉強会を行い質の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存センターから引継いだ業務内容を確実に実践できるように努め、継続は出来ているが、センター周知や地域課題の情報収集を自治会単位等で行うことが出来るように引き続き課題とする。 ・センター全体の対応力向上の工夫も今後も検討していく。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター にれの木台	主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	17,515		
	高齢者人口	5,698		
	高齢化率	32.53%		
担当圏域 地区課題	<p>担当圏域は、東関東自動車と花見川河川に挟まれた東西に広い地域で、URの中高層住宅地域である「にれの木台団地」や「西小中台団地」には人口が集中し、朝日ヶ丘と西小中台の地区で圏域の約60%の人口を占め、高齢化率も33%と高い。また、圏域の半分の面積を有する畑町は、古くからの集落と新興の戸建て住宅が多い低層部と、広範な農村部となっている。</p> <p>圏域の課題としては、一人暮らしや高齢者夫婦だけの世帯等も多く見受けられ、閉じこもりも目立つことから、地域に埋もれている支援を必要とする高齢者を様々な情報からアウトリーチするとともに、自治会、老人会並びにUR都市機構との連携等、地域の関係組織との協働した支援体制を構築していく必要がある。</p>			
活動方針	<p>1. 前担当法人からの引継ぎを適正に実施するとともに、自治会並びに関係団体等と積極的に接触を図り、圏域内の実態把握による的確な支援体制を早急に確立する。</p> <p>2. 医療・介護等の関係機関のほか、民生委員、社協地区支部、自治会及び市の関係組織と連携し、地域包括ケアネットワークの構築を積極的に推進する。</p> <p>3. 地域ケア会議や事例検討会等を通じて、地域の課題を的確に把握するとともに、地域住民と共に課題解決に取り組む。</p>			
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<p>1 地域の介護予防・日常生活支援総合事業利用者の把握を行い、対象者の心身の状況及び置かれている環境等に基づく、適切な支援を実施する。</p> <p>2 委託事業所との連携及び実施状況等を把握し、介護予防支援が一体的に実施できるように、必要な援助を行う。</p> <p>3 住民主体の場を作るための趣味活動や健康活動を積極的に行い、社会参加できる環境作りを進める。</p>	<p>1 前期においては、新設センターとして利用者の把握及び介護予防・日常生活支援において十分な支援ができなかったことから、後期においては、住民主体の健康活動を積極的に行い環境づくりを進める。</p> <p>2 委託居宅介護事業者と連携し、必要時は居宅介護事業者と共にプランを検証してきた。今後は、介護予防支援が一体的に実施できるよう課題としていく。</p> <p>3 地域住民の支え合い活動の推進を継続していく。</p>	
	総合相談支援	<p>1 新設のあんしんケアセンターであることから、区地域振興課を通じた町内自治会への通知や区役所等の公的機関へのポスター掲示等、地域住民への周知を図る。</p> <p>2 民生委員、自治会及び社協地区部会等の関係機関との早期接触と関係会議への出席を通じた情報収集及び圏域内の支援を必要とする高齢者等の早期把握に努める。</p> <p>3 地域ケア会議や勉強会を定期的に開催し、圏域内のケアマネジャーやサービス事業者等との連携体制の早期構築を図り、適切な支援を行います。</p>	<p>1 前期においては、利用者が気軽に足を運べ、相談しやすい窓口となることを目標とする。</p> <p>2 民生委員、自治会及び社協地区部会等の関係機関との連携で、支援を必要とする独居で認知症の高齢者の早期把握ができ、迅速に適切なサービスに繋いだ。今後もより連携を強化していく。</p> <p>3 勉強会を定期的に開催し、ケアマネやサービス事業者等と連携してきた。必要時は個別訪問に同行し、適切な支援に繋ぐことができた。</p>	
	権利擁護	<p>1 自治会等の地域関係団体や介護サービス事業者を対象に、高齢者虐待防止に関する勉強会を定期的に開催し、理解と周知を図る。</p> <p>2 消費者被害防止、成年後見人制度に関する出前講座や講演会等を定期的に開催する。</p> <p>3 認知症サポーター養成講座を定期的に開催するとともに、民生委員、自治会等を取り込んだ地域ケア会議において、実態把握と事例検討を行い、早期対応に繋げていく。</p>	<p>1 自治会、民生委員等と連携し、情報収集に努め、高齢者虐待の早期発見・予防に繋げた。</p> <p>2 消費者被害防止、成年後見制度に関する講演の定期的開催及び参加者を募るため、引き続き広報による呼び掛けを継続していく。</p> <p>3 認知症養成講座の充実と継続的支援に努める。</p>	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<p>1 圏域内のケアマネジャーを対象とした勉強会（ケアマネ会議）を定期的に開催し、困難ケースに対する検討や意見交換等により資質向上を図る。</p> <p>2 医療機関などとの多職種連携会議を開催し、専門的助言体制による有機的なネットワーク構築を推進する。</p> <p>3 介護サービス事業者等との交流会による定期的な情報交換や意見交換を行い、圏域内の課題把握や解決に繋げていく。</p>	<p>1 区保健福祉センター、介護サービス事業者、医療機関、民生委員、社協地区部会及び自治会等の関係並びに地域の関係者との繋がりと連携が構築できた。</p> <p>2 圏域内のケアマネを対象とした勉強会を開催し、困難事例に対する検討会等により質の向上に努めた。</p> <p>3 多職種合同の研修などにも積極的に参加できた。</p>	
	介護予防普及啓発	<p>1 自治会や青少年育成委員会が主導する地域住民交流会等に継続的に参加し、健康づくりや介護予防啓発活動を推進していく。</p> <p>2 地域で開催されるコミュニティまつりや区民まつりにおいて、健康相談や認知症に関する広報活動を実施する。</p> <p>3 認知症サポーター養成講座を地域への出前講座や講演会等を通じて、定期的に開催する。</p>	<p>1 センター主催の健康教室等を通じ、地域の高齢者の健康づくりや介護予防について情報発信した。</p> <p>2 認知症サポーター養成教室を定期的に開催できた。</p>	
	地域介護予防活動	<p>1 自主的な介護予防の取組みに向けて、ボランティアの参加・協力・育成による地域活動のリーダー育成に努めるとともに、活動拠点づくりを推進する。</p> <p>2 地域主催の敬老会や社協地区支部主催のいきいきサロン等に積極的に参加し、健康づくりを含めた介護予防活動を啓発する。</p> <p>3 民生委員や自治会の会議等において、圏域での活動を紹介するとともに、課題等についても意見交換を行う。</p>	<p>1 自主的な介護予防の取組みに向けて、ボランティアの参加協力により地域活動の拠点づくりを支援した。</p> <p>2 圏域内の新たな活動拠点の発掘に取り組んでいる。</p> <p>3 毎月1回花見川区内のセンターとの報告会を通じ、生活支援コーディネーターと共に情報提供に努めた。</p>	
	その他	<p>1 研修会等への参加による職員のコンプライアンス確保に努める。</p> <p>2 介護サービス事業者の紹介に当たっては、利用者自らが選択できるよう支援を行う。</p> <p>3 アンケート等を用いた適正評価に努める。</p>	<p>1 センター職員の中立・公平性の確保に努めた。</p> <p>2 今後も積極的に各種研修会に参加していく。</p>	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 花園		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,825	
	高齢者人口	7,038	
	高齢化率	21.44%	
担当圏域 地区課題	JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅街が多い。駅の南側は昔からの住民も多く高齢化率も30%を超えている地域もある。毎月の新規の相談件数も40件～50件と多い。		
活動方針	新しく引き継いだ地域（南花園・検見川町）にも頼りにされるセンターとして、より一層、相談支援活動や顔の見える地域づくりに取り組みます。住民組織やサロン、事業所懇談会などにも積極的に顔を出し、地域の困難に耳を傾け一緒に考える姿勢を大事にします。		
センター 業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防・自立支援の視点で、心身の状況や環境に応じて利用者が自ら選択し、主体的に取り組めるように援助する。 認知症でも、障害があっても暮らしていける、住み易いまちづくりを行う。 居場所や生きがい作りに配慮して、インフォーマルサービスの把握、連携に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から総合事業が始まり、職員間でも不安があったが、積極的に説明会や学習会に参加し、正しい知識を得ることで対応ができた。所内会議や個別ケースの対応等により生じた問題は、利用者に不利益が生じないことを意識しながら、一人で抱え込まず、適宜事例検討等を行ったことにより早期解決に至ったと判断した。 おしゃべり昼食会やはなcaféに関しては、周知活動が実を結び、参加者が定期的に集まれる場所として定着することができた。このことから、周知活動が有効であったと判断した。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容を共有し、各職種の専門性を活かして対応する。 事例を通して、地域の課題を把握し、地域分析に活かす。 住民の立場に立った相談支援を続け、新しい担当圏域の住民からも信頼されるセンターを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 常勤職員（三職種）が6名から4名になったことの影響は大きく、全ケースの初回訪問を複数で行うことは困難であったが、ケースの状況から必要に応じて、複数の職員で対応をしたことはケースの課題を多角的に抽出でき有効であった。 個々のケースの相談内容やその傾向を所内会議や三職種会議で検討する中から、地域特性、地域課題の把握につなげることができた。 担当圏域外になった地域からの問い合わせや相談を含め、1件1件の相談に丁寧に対応すると共に、当センターのみの対応では解決が難しいケースについては、適切な相談機関につなぐことを心がけた。その結果、関係機関とのネットワークが構築されてきている。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待の予防と早期発見に努める。 成年後見制度、日常生活自立支援事業等の活用。 地域住民に消費者被害の防止のための情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待の予防や早期発見に関する普及啓発活動に、十分に取り組むことができなかった。しかし、住民や居宅支援事業所等から寄せられる相談について、虐待を見落とすことがないように三職種で情報を共有しながら対応したことは、課題の抽出ならびに課題解決に向けての動きをスムーズにするうえで有効であった。 ケースの状況に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の利用の検討・活用をし、結果として1件のケースが成年後見制度の首長申し立てにつながった。 地域の住民活動等に参加した際に、消費者被害の予防のための情報提供を行うよう努めた。
	包括的・継続的ケアマネジ メント支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域のケアマネジャー間や多職種との連携を深め、ネットワーク作りを今後も継続していく。 地域の方や、ケアマネジャーより相談のあった支援困難事例に対し、個別に地域ケア会議を開催し自立支援に向けた問題解決に努める。その中から地域の課題を抽出し、住みやすい地域づくりを目指す。 あんしんケアセンターの周知に努め、相談し易い環境を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から総合事業が始まり、所内会議や個別ケースを通して学習を行うことにより、正しい情報を内部でも共有ができるよう取り組むことができた。また、開始当初は居宅のケアマネからの問い合わせも多く、現場が混乱していた時期もあったが、合同連絡会等で総合事業に関する説明や意見交換を行ったことで、相談の増加を防ぐことができた。今後もタイムリーな情報提示や交換が必要と判断した。 支援困難事例に対して地域ケア会議を開催したが、個別ケースに留まり、地域課題を含めた地域ケア会議の開催はできなかった。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 基本チェックリストを活用し、積極的に介護予防に取り組めるよう働きかける。 地域の情報を把握し、提供できるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当圏域の変更に伴い、担当地域がコンパクトになり、地域の既存組織への参加も容易となる中で、「元気で長生きしよう会」を花園地域ばかりでなく、検見川地域でも複数回開催することができた。開催するにあたり、関係機関への協力を依頼することにより、健康課や生活支援コーディネーターとの協力、支援を受け継続し取り組むことができた。 朝日ヶ丘の地域婦人会の学習会では、在宅での具体的な介護について、「あんしんケアセンターにれの木」と実施し、22名の参加があった。今後も学習会の希望を把握し、継続的に取り組むことで、活発な地区組織活動の支援を図る必要があると判断した。 地域のサロンや認知症カフェの中で、定期的にミニ講座を開いたり、地域のボランティアとの交流を持つことができ、その後の地域活動への繋がりができてきたことから、今後も交流の機会を図る必要があると判断した。
	地域 活動介護 支援 予防 活	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防に関する地域活動を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> シニアリーダー体操は現在5か所となった。全会場に定期的に参加し、介護予防や健康問題についての相談を行うことで、参加者の状況の把握とリーダーとの連携が図れた。 日常の相談活動から、居場所や生きがいづくりの場として、地域の体操教室や認知症カフェ、地域サロンへの紹介を行い、住民同士のつながりを支援した。 いきいき活動手帳の普及は十分できなかった為、次年度の課題と考える。
その他	新しく引き継ぐ圏域にもセンターを知ってもらえるよう周知活動や顔の見える関係づくりのための活動を行います。相談支援の質を向上させ「相談してよかった」と言われるセンターを目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 「花園だより」は定期発行ができず、1回のみ発行になってしまった為、来年度は定期発行し、参加している地域のサロンや自主組織に向けて配布を目標にしたい。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター—運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幕張		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(2) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	52,191	
	高齢者人口	9,402	
	高齢化率	18.01%	
担当圏域 地区課題	昭和40年代～50年代に構築されたマンション群があり、建築当初に入居された方々は高齢者年齢を迎える方が多い。独居高齢者や高齢者世帯、単身で未就労の子供と高齢者の世帯が増加し、経済的な問題や認知症介護の問題等複合的な課題を抱えた相談が増加している。自治会や老人会の他、小集団での自主的なグループは活動しているが、参加者の高齢化と運営や企画の役割分担・引継ぎが円滑に進んでいない集団もあり、活動を継続していく事が難しくなっている集団もでてきている。		
活動方針	地域包括ケア実現を目指し、地域の住民組織や多機関・多職種との連携を強化し顔の見える関係での繋がりを広げ、様々なネットワークの構築を進める。その為にも圏域内での地域ケア会議を開催し、地域課題の分析をおこない地域住民の自主活動支援を常に意識して取り組む。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	地域住民や活動組織からの情報収集に加え、生活支援コーディネーターの協力も得ながら圏域内の社会資源を活用する。	総合事業に移行後、今まで予防訪問介護や予防通所サービスを利用していただいていた要支援認定者に、生活援助型訪問サービスや地域支え合い型訪問支援、ミニデイ型通所サービス、地域支え合い型通所支援事業所を位置づけた際、受けて頂ける事業所が見つけられず難航し、多くの時間を費やした。担当圏域の社会資源は、公的なサービス以外は民間の有料サービスばかりで高額な為、経済的な理由から利用を位置付けていく事が困難なケースが多かった。身近な地域で無料（定額）・定期に利用できる通いの場所を見つけることが難しく、興味があっても移動手段が無い為に参加できないケースも少なくなかった。 生活支援コーディネーターや総合相談、自主組織への訪問等で入手した情報から、予防活動と介護状態へ至る経過について住民の興味・関心を引く事が不十分な現状にあったことや、自立支援に向けた幅広い情報の提供も十分でなかったことが要因と考えられる。
		総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 郵便局の出張相談を継続する。 広報紙を定期発行し、従来の自治会掲示板以外にも範囲を拡大し、センターの周知活動を展開する。 民生委員による高齢者訪問において、支援が必要な高齢者の早期発見ができるよう、具体的な視点について伝える機会をもつ。 総合相談で対応した困難ケースにおいて地域ケア会議を開催し、地域組織や個人のつながりを構築できるよう支援する。 総合相談を分析し、具体的なアプローチ方法を検討する。 地域課題の自主的な解決に向け積極的に地域ケア会議を開催。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェの活動内容の充実を目指す。 小学生や地域住民、関係機関等に向け認知症サポーター養成講座を開催する。 権利侵害や被害が発生しやすい事例等を紹介し、深刻な事件の発生予防や回避を図れるように取り組む。 虐待に関する研修に参加し、事例発生時は行政と協力しながら早期に対応できるよう研鑽する。 千葉市消費生活センターからの情報収集を定期的におこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種メディアの影響もあり、前年度に比べ認知症に対する世間の認知が広がり、認知症予防に対する意識は高まっているが、日々の活動に於いて、当事者が地域の中で当たり前に生活を送れるような意識は未だ薄いと感じられた。 「権利」に対する過剰な自粛と主張が極端な事案が少なくない。認知症のみならず精神疾患の患者等に関する権利擁護の普及啓発の必要が求められると判断した。 虐待疑いは介護支援専門員や民生委員児童委員など、虐待に対する知識を持つ方からの相談が主となっている。相談受理後は迅速に情報を把握し、行政に報告、協議をおこない協働で対応した結果、早期終結が図れている。 一方で、周囲が異変に気付いても自分自身への被害を心配し、適切な通報や相談に至らない場合も潜在している。根拠ある対応とその必要性について、職員全員の知識向上や地域住民への啓発が十分でなかったと感じている。
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 合同連絡会やCMのつどい、花見川区多職種連携会議等を企画。顔の見える関係づくりの圏域での充実を図り、定期的に相互の情報や意見交換をしながら共通理解や課題把握に取り組む。 地域の主任介護支援専門員有資格者の情報把握と結集の呼びかけ、主任ケアマネの会の運営自主化を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月から日常生活支援総合事業が開始し、千葉市から提供されたマニュアルを基に地域のケアマネに解かり易く説明することができた。センター間でも統一する事ができ、ケアマネや利用者の混乱は少なかったように感じる。また、事業開始後早い時期に千葉市包括支援課を招き、学習会開催へと繋げることが出来、良かった。 多職種連携会議は前期、後期で1回ずつ開催した。事例やミニレク等の内容を踏まえ、参加対象職種や医療機関等を検討した。徐々に地域の専門職間で顔の見える関係が形成されてきていると実感している。圏域内の医療機関との連携は個々の利用者を通じての連携に留まってしまう、圏域内の多職種との顔の見える連携・ネットワークづくりへは進展できなかった。クリニックや在宅診療専門医と地域内の多職種とのネットワークづくりが今後の課題となった。 ケアマネ視点からの社会資源については現状把握にとどまっているが、利用者への情報提供等については、区内の生活支援コーディネーターからの情報提供やインターネットなどの情報を共有し利用者へ提示できた。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、老人会、民生委員、生活支援コーディネーター、社協などと連携をとりながら介護予防の普及啓発に取り組めるよう働きかけていく。 地域で取り組んでいる自主グループの情報提供をおこなう。 自主活動グループが立ち上がるよう支援をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 老人会など関係機関と連携を図り企画、近隣住民宅へ職員全員でチラシを配布し介護予防教室を開催した。 健康長寿を目指すヘルスアップ教室等を公民館で実施することができたが、継続したグループ化に結び付けていくことが課題として残った。
	地域介護予防活動	<ul style="list-style-type: none"> 地域の既存のサロン等へ参加して「介護予防」の啓発をおこなう。 自治会や社協、民生委員などと連携をとりながら「介護予防」「認知症予防」などの普及啓発をおこなう。 センター広報紙を活用し、引き続き介護予防体操の紹介をおこなう。 三職種内で年間を通じた担当組織を決め、出張講座や教室開催の案内をおこなう。 地域の自主活動グループが生き生きと活動を継続できているか、定期的に訪問して活動状況や悩みを把握し、必要な助言をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の既存のサロン等へ参加して「介護予防」の啓発をおこなったり、自治会や社協、民生委員などと連携をとりながら「介護予防」「認知症予防」などの普及啓発をおこなってきた。 年間を通し、様々な機会を利用し出張講座や教室開催の案内をおこなったり、地域の自主活動グループへ定期的に訪問して活動状況や悩みを把握し、必要な助言をおこなった。 老人会や関わりのあるグループへの支援の継続はしているが、自治会単位での取り組みは少ないので今後増やしていくことが課題である。
	その他	区内のシニアリーダー同士がお互いの状況を把握できるよう懇談会を毎月開催することとなり、そこを通じて活動する場の情報提供など、連携を図りたい。また、参加者通しが周囲の方々の生活変化に気づく視点の育成ができ、できる限り早期に課題把握や解決に向けた行動へつなげられるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 地域にシニアリーダーの活躍場所を増やすことができた。生活支援コーディネーターと情報共有を図りながら地域の活動組織と繋がりを作っている。懇談会や出前講座等をきっかけに住民がどのような場を必要として取り組んでいるかを知る機会にもなった。今後は地域住民が集える場所を探し、シニアリーダーの活動とマッチングしていくことが必要と判断した。

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 山王		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(3) 人	(3) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	49,189			
	高齢者人口	14,062			
	高齢化率	28.59%			
担当圏域 地区課題	高齢化率が急速に上昇している。集合住宅地区では地域におけるネットワークが機能しているが、高齢化が進んでいる。一戸建て地区においてはサービスの利用に結びついておらず、地域との関わりが薄く、問題を抱えたまま生活している高齢者がまだまだ潜在していると思われ、地域住民や行政機関などとも連携を深めていく必要がある。				
活動方針	地域ケア会議などを活用し、地域住民や行政、医療機関等との連携・ネットワーク作りを進めていく。圏域が広がるため本センターと出張所が連携し、高齢者が地域で安心して生活していけるよう、地域包括ケアシステムの推進に努めていく。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・インフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供を行う。 ・サロンや介護予防を目的とした体操教室など、地域住民主体の通いの場作りの支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスの情報把握を行い、適切な情報提供を行うことができた。 ・介護予防を目的とした体操教室など、住民主体の通いの場作りの支援をシニアリーダーや関係機関と連携して行うことが出来た。30年度より介護予防に重点を置いたサロンの開催を目指しているグループと協働し、参加者への意識付けや内容についての意見交換などを行った。 ・総合事業対象者に短期リハビリ型通所サービスを積極的に利用することができたが、事業に対する理解不足から、手続きに関する不備があった。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な相談や課題に対し、3職種で連携し、チームアプローチを行っていく。 ・夜間休日の相談体制を整え、緊急時にも対応できるようにしていく。 ・体操教室の開催や出前講座の企画、地域の集まりへの積極的な参加等で、センターの周知をしていく。 ・相談内容から地域課題が抽出できるような体制を整えていく。 ・認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームと連携し、適正な医療が受けられるようにしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・相談内容に応じ、3職種で連携しチームアプローチを行うことができた。 ・緊急時の連絡体制を維持することができ、時間外の対応も行うことができた。 ・宮野木出張所ができたことで、自治会の集まりへの参加や、回覧板にてパンフレットを回してもらうなどの周知活動を行うことが出来た。 ・地域課題抽出のため、相談に対するスクリーニングを行った。 ・認知症が疑われる相談に対し、認知症初期集中支援チームと連携し、対応を行うことができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障害支援課とは随時、窓口・電話相談、ケース会議を行うことで迅速に対応できるようにしていく。 ・稲毛区あんしんケアセンターと高齢障害支援課、稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、生活支援コーディネーター、民生委員、自治会などと地域ケア会議や事例検討会を行い、連携を深める。 ・地域活動の中で消費者被害や成年後見制度の周知・啓発を行い、成年後見支援センターやNPO法人、消費生活センターと連携していく。 ・介護保険事業者や医療機関、民生委員を対象とし、権利擁護を目的とした研修会を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障害支援課とは困難・虐待事例について随時相談し、必要に応じて個別の地域ケア会議を開催するなど対応を行った。 ・高齢障害支援課や稲毛区社会福祉協議会、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛、生活支援コーディネーターと事例検討会を通じた連携会議を行い連携を深めた。 ・千葉西警察の電話詐欺における連携会議に参加し、地域活動の中で周知を行った。 ・地域活動の中で虐待や成年後見制度等の周知を行った。成年後見制度の利用が必要と思われるケースに対し、対応方法について千葉市成年後見支援センターに相談したり、つなげることができた。身寄りのないケースについては、行政と協力して市町村申し立てを行うことができた。 ・稲毛区のアんしんケアセンター合同で介護保険事業者向けに虐待に関する研修会を行った。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ連絡会を開催し、ケアマネジャーのスキルアップや情報交換を図っていく。 ・稲毛区ケアマネネットワークの会合を行い、更なるネットワーク構築を図っていく。 ・稲毛ケアマネ通信を発行し、情報発信を行っていく。 ・稲毛区主任ケアマネ会議、ケアマネジメント支援のための地域ケア会議の開催や事例検討会を行うことで、ケアマネジャーの支援を行っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ連絡会を4回開催し、ケアマネジャーのスキルアップや情報交換を図った。 ・稲毛区ケアマネネットワークの会合を1回行い、更なるネットワーク構築を図った。 ・稲毛ケアマネ通信を4回発行し、情報発信を行った。 ・稲毛区主任ケアマネ会議を3か月に1回開催、事例検討会を3回行うことで、地域のケアマネジャー支援を行った。 ・ケアマネジャーからの困難事例の相談について随時対応を行い、必要に応じて個別の地域ケア会議を開催した。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会ではあんしんケアセンターのPR、福祉制度、介護サービス、健康についてお話しする。 ・広報誌は年4回発行し、公共機関に配布する。 ・認知症サポーター講座の開催。 ・区民祭りへの参加。 ・緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催する。 ・介護予防イベントを年3回開催し、介護予防への啓発を行う。 ・健康課やいきいきセンターなどと会議を通じて連携を図っていく。測定会やイベントの共同開催を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流会にて、健康・介護予防について講演し、いきいき活動手帳の説明・配布を行った。 ・広報誌は準備が間に合わず、回数を減らしての発行となってしまった。 ・キッズサポーター養成講座を2回開催し、取り組みについて区を代表して研修会にて発表を行った。 ・イオン稲毛にて測定会・相談会を毎月開催。1月は薬局や認知症の人と家族の会などと『物忘れ相談会』に参加し測定と相談を行った。 ・みかんの会のキャラバンメイト班に所属。キャラバンメイトに対する基礎講座と交流会を開催し、ステップアップ講座開催についての検討を行った。また、ケアマネジャー向けの認知症サポーター養成講座を開催した。 ・緑ヶ丘公民館、山王公民館、長沼コミュニティセンターでの体操教室を月1回開催した。 ・地域住民、体操教室参加者、シニアリーダー体操参加者などを対象とした介護予防イベントを3回開催し、介護予防の啓発を行った。 ・健康課や高齢障害支援課、社会福祉協議会、生活支援コーディネーターと連携会議を行った。 	
	地域介護予防活動	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロンや住民主体の体操教室の運営支援を行う。 ・シニアリーダーの体操教室、いきいき体操への支援を行う。 ・シニアリーダー養成講座の協力やシニアリーダー連絡会へ参加し、連携を図っていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロンの開催内容について主催者と協議を行った。30年度より介護予防に重点を置いたサロンの開催を目指しているグループと協働し、参加者への意識付けや内容についての意見交換などを行った。 ・住民主体の体操教室、シニアリーダー体操へ定期的に参加し、意見交換や運営の支援を行った。 ・シニアリーダー養成講座の協力やシニアリーダー連絡会へ参加し、連携を図った。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・医療関係団体の会合や研修会へ参加する。 ・多職種連携会議を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・稲毛区全体での多職種連携会議を1回、あんしんケアセンター山王・園生圏域における多職種連携会議を1回開催した。 ・保険医との意見交換会を行った。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 園生			
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等	
	(1) 人	(2) 人	(1) 人	
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,781		
	高齢者人口	6,430		
	高齢化率	25.95%		
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率30%超えのエレベーターの無い団地がある。高齢者世帯及び独居高齢者も多く、なかには生活困窮世帯も多くみられる。 ・支援する方たちも高齢になってきている。 			
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民への周知活動を行っていくとともに、自治会、民生委員、地区社協と連携し、地域課題の把握に努めていく。 ・地域課題に対して解決を図るだけでなく、予防的な対応についても図っていく。 			
項目	具体的な活動計画	自己評価		
セ ン タ ー 業 務	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業対象者について適切にアセスメントを行い、明確な本人の目標を設定するうえで、介護予防手帳を活用していく。 ・住み慣れた地域で生活ができるよう、地域のサロンや自主サークル活動の把握に努め、必要時にはつなげることができるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防手帳を活用しながら、自立に向けた支援に努めることはできたが、フォローアップまでできなかったため、今後の課題と捉えている。 ・地域ケア会議が住民自身で地域を考える良い役割を果たすことができているため、今後更に発展させていきたいと考えている。 ・地域資源の把握についてはあまり関わりを持ってなかった地域もあるため、来年度はそういった地域を中心に資源把握に努めていきたい。 	
	総合相談 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・区高齢障害支援課、健康課、地区社協と事例検討会（年3回）や情報交換会（年3回）を行い、連携を強化していく。 ・毎朝3職種でミーティングを行い、問題に対して多角的にアセスメントを行っていく。 ・民生委員交流会（各地区1回以上）を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関やケアマネジャーと定期的に情報交換会や事例検討会を設けることで、密な関わりを持つことができている。 ・職種ごとに専門性を持って関係機関と連携を図ることで、チームとして一体となった時に、多くの情報や多角的なアセスメントを実施できている。 ・相談者に対し、的確な助言、支援をある程度行うことができたと考えている。今後も職員全体のスキルアップを図り、よりの確な助言、支援が行えるようにしていきたい。 	
	権利 擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・センターのお便りに消費者被害等の情報を載せて周知を図る（年1回以上） ・千葉市高齢者虐待対応マニュアルに従い、48時間以内に安否を確認し、必要時には区高齢障害支援課と連携して対応にあたる。 ・認知症サポーター養成講座を自治会及び地域関係者に対して行う（年4回以上） 必要時は認知症疾患医療センター及び初期集中支援チームと連携し、問題解決に取り組んでいく。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は虐待通報がなかったが、いつ起こるかはわからないので、引き続き関係機関と連携の強化を図っていきたい。 ・初めて中学生向けに認知症ジュニアサポーター養成講座を5センター協働で開催したが、概ねの評価は良かった。来年度も継続していく形なので、更に発展的なものになるように努めていきたい。 ・金融機関向けの講座も毎年依頼をされているものなので、今後も同様に行っていく。 ・今年度からの取り組みである認知症初期集中支援会議に年間を通して参加したが、まだこの会議を効果的に使うことができていないところもあるため、今後どのように会議を利用していか（ケース選定の仕方）を検討していきたい。 	
	包括的・ 継続的 ケア マネ ジ メ	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携会議、地域ケア会議を開催し、困難ケースに対しては速やかに関係機関と連携が図れるようにする。 ・介護支援専門員対象の研修会（年4回）、事例検討会（年4回）、を行いスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員や生活支援コーディネーターと情報交換を行い、地域の課題、必要なサービスを抽出し働きかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、多職種連携会議を2回、地域ケア会議を各地域2回開催した。多職種連携会議は、今年度より区内の圏域を分けて行った。より顔の見える関係を構築しやすくなったが、会議の内容などは反省もあるため、来年度はそういった反省点を活かしながら実施していきたい。地域ケア会議は継続性を持って開催できているので、来年度も変わらず実施できるようにしていきたい。 ・区内あんしんケアセンター共催にて、介護支援専門員対象の研修会や事例検討会を行い、スキルアップを図ることができたので、来年度も同様な形で支援を行ってきたい。 ・圏域内の介護支援専門員との情報交換を定期的に行っているが、出席者が減少傾向にあるため、今後内容を再検討していきたい。 	
	介護 予 防 普 及 啓 発	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員定例会、地区部会サロン、自治会定例会や区民祭り等地域での活動に積極的に顔を出し、広報活動を行う。また、自治会、地域住民に呼びかけ、体操教室などを開催していく。 ・既存センターより引き継いだ、センター主催の「いーね草野」の教室を月1回、継続していく。 ・認知症サポーター養成講座、また体操教室や行事時に、介護予防の必要性を説いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの依頼に応え、活動、行事（敬老会、百歳体操、サロン）などで、介護予防の話をしたり、手帳を配ったり、介護予防の大切さを説明したが、依頼されていない地域における活動は不十分になってしまった。 ・既存センターから引き継いだ体操教室（いーねの会草野）は継続し、10人前後は維持することができた。ただ、体操教室の開催に留まってしまっているため、今後はその教室への参加者について、評価をどのように行っていくかを検討していきたい。 ・把握した地域資源については、圏域内のケアマネジャーなどに積極的に情報提供を行ってきたい。 	
	地域 介 護 予 防 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防を目的としたボランティア団体への助言、活動状況の把握等を行う。 ・自主サークル活動などが速やかに立ち上げられるよう、情報提供や運営支援を行っていく。 ・シニアリーダーと連携を図っていく。 ・自主活動等の運営者や参加者と情報交換等を行い、必要時には、市や関係機関へ働きかけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー体操教室に全て関わりを持つことができたのは、シニアリーダー連絡会への参加や区健康課等との連携が大きいと考えているため、今後も継続して関わってきたい。 ・イベント等で地域住民や学生のボランティア育成を図ることはできたが、継続性といった部分では、そこまでつながらなかったため、来年度は継続した参加につながるようにしていきたい。 	
	そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自立支援に向け、適切にアセスメントを行い、特定の種類やサービスに偏ることのないようにする。 ・様々な機会をとらえて、地域に向けて周知活動を行う。（年4回のお便り発行） 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の事業所やケアマネジャーに偏ることないよう、公正中立を意識して業務を行えた。 ・年4回のお便り発行が、年1回しかできなかった。今後お便りのあり方を検討していきたい。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 天台		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	18,631			
	高齢者人口	5,387			
	高齢化率	28.91%			
担当圏域 地区課題	<p>1) 大型団地の高齢化(41%)率が高く、独居率も高い。エレベーターがないため、閉じこもりや買物・受診が困難な高齢者の相談がある。住民は高齢者の孤独死や衰弱を問題視しており、地域づくりが喫緊の課題である。</p> <p>2) 地域の見守り体制やサロン活動・自主活動が活発な地区と、高齢化が進み体制づくりまでいかない地区がある。</p> <p>3) 認知症や精神疾患、生活困窮者等世帯で問題を抱えている方が増加している。</p>				
活動方針	<p>1) 医療機関や介護事業所のマップを作成し、医療・介護の連携を図り地域包括ケアシステムの構築を地区単位で行う。</p> <p>2) 身近なところで高齢者が集い、介護予防を目的とした活動を継続的におこなう環境整備をする。</p> <p>3) 「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指し、認知症カフェや認知症サポーター養成講座等、全世代に対し認知症の理解を深めていく。</p>				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業対象者が自ら選択できるように、訪問型・通所型サービス、その他の生活支援サービスの特徴や利点を理解する。 ・介護予防手帳の活用方法を高齢者や事業対象者に解りやすく説明し、自立に向けた意思を引き出し継続するよう支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合い型訪問支援、通所支援事業の普及が思わしくなく、利用することができなかったが、健康課等の健康講座、センターの事業である介護予防教室、介護保険外の地域の地区部会サロンや介護予防教室の情報提供をすることで、事業対象者が自ら選択し参加することができている。 ・地域の交流の場で、介護予防手帳の活用を難しく捉えられないように、毎日過ごしている生活の中の些細なことから目標を見出せるよう説明した。介護予防手帳の配布対象者を意識し過ぎてしまい配布に躊躇してしまったが、配布対象者の基準を再検討し、他機関の協力を得て、効率的で効果的な配布を目指す。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝3職種でミーティングを行い、問題に対して多角的にアセスメントを行っていく。 ・区高齢障害支援課、健康課、地区社協と事例検討会(年3回)や情報交換会を行い、連携を強化していく。 ・民生委員定例会に参加(各地区1回以上)、個別地域ケア会議、健康測定会(年3回)を開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて、朝ミーティングおよびケース検討会議による3職種のチームアプローチの実践を展開している。 ・地区別地域ケア会議は、地域の担当者を決めることでスムーズな開催につなげることができた。次年度も引き続き同様の体制を継続していきたい。 ・個別地域ケア会議に関しても徐々に理解が深まっており、ケアマネからのみでなく民生委員からも開催を要望されることが出ている。今後も地域力に繋がる形での開催に努めていきたい。 ・センター単独の業務と並行して、他センターとの合同事例検討会(年2回)、事業所向けの地域ケア研修会(年2回)の開催により、多機関との連携を深めることができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止等の情報は会議やイベント、センターお便り等で情報提供を行う。 ・虐待についての知識を向上するため、事例検討会を開催したり研修会に出席し、区との連携を日ごろから図る。 ・後見支援センターや法テラスとの連携を深める。 ・認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームと連携を図り対応していく。認知症サポーター養成講座の開催。 ・中学生向けの認知症ジュニアサポーター養成講座認も開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護についての啓発は、センターお便りによる掲載か、事業所向けの合同地域ケア研修会に限られている。同様の事業は今後も継続していくが、住民向けの講演会開催につながるよう引き続き案内をおこなっていきたい。 ・関係機関との連携については、後見支援センターへは一時的な問い合わせのみとなっている。法テラスは、研修参加により1月から始まった特定援助対象者法律相談援助について学ぶことができた。 ・認知症初期集中支援チームとは、ケース依頼を出したり、その後の経過報告をおこなったりと連携を図れている。 ・認知症サポーター養成講座は、中学生向けについては予定通り実施できたが、住民向けに関しては案内のみにとどまっており、今年度は開催には至っていない。必要性を理解していただき、認知症サポーター養成講座を開催していく。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議(年3回以上)、多職種連携会議(年2回)、ケアマネジメント支援会議(年1回以上) ・介護支援専門員に対して、研修会(年4回)、事例検討会(年3回)開催。 ・介護支援専門員同士の情報交換(年1回) ・困難事例に対しては、個別地域ケア会議を開催し、関係機関や多職種からの多角的な意見を伺い問題解決と同時に地域の課題抽出を行う。 ・地域の医療機関と介護事業所の資源マップを作成や既存の地域医療連携パス等の情報共有ツールを整備し、介護支援専門員が連携しやすいよう情報提供を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を通じて、地域課題の抽出だけにとどまらず、課題の解決に向けて具体的取組を話し合う事まで行えた。来年度は実施に向けてさらに検討を進めていくと共に、地域ケア会議を行っていない地域の開催に向けても準備を進めていく。 ・年4回の事例検討会を実施、主任ケアマネと協働して開催準備を進め、当日は主任ケアマネが主体となって進行する事が出来た。また、困難ケースへの対応や共通する課題について、地域のケアマネが共有し、他のケアマネの支援方法を聞くことで違う視点に気付いたり、自己の支援を客観的に振り返ることが出来る機会を作ることが出来た。 ・年4回のケアマネ連絡会を通じ、外部講師を招いて研修会を開き、地域のケアマネの資質向上を図る事が出来た。 ・圏域のケアマネ連絡会にて情報共有を図り、圏域のケアマネジャーの現状把握に努めると共に、顔の見える関係づくりを行った。また、圏域ケアマネ連絡会に社会福祉協議会や生活支援コーディネーターを招き、圏域における地域課題の解決に向けて共に検討する機会を作った。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・い〜ねの会千草台体操教室(月2回)とGreen体操教室(月1回)の継続 ・い〜ねの会体操教室の1か所増設 ・基本チェックリストをおこない、必要な人には各種介護予防事業を紹介する ・い〜ねの会体操教室参加者に対し、開始前後の測定会・評価を実施する(年3回) ・シニアリーダー教室等、地域住民の声を聞き、地域にあった体操教室を紹介したり、立ち上げ支援をする。 ・イオン測定会(年6回以上)や区民まつり等に参加し、健康や介護予防の意識づけを行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や生活支援コーディネーター、健康課と会議を行い(年2回)地域資源や地域力等の情報交換をすることで、地域のキーパーソンや介入の方法等が共有でき、効率的に介護予防の啓発ができた。 ・介護予防教室については体操教室の立ち上げに取り組み、社会福祉協議会や地区部会、公民館のクラブ連絡協議会との連携から公民館の定期的な場所の確保ができ、来年度にも繋げられることとなった。また、シニアリーダーの方との連携を図ることで、シニアリーダー体操の場所の確保もでき、歩いて通える場を増やすことに協力できた。 ・イオン測定会は、稲毛区合同での事業として実施していたが、圏域内の住民への介護予防啓発・あんしんケアセンター周知活動としては効率的ではないと思われる。来年度、圏域内でのあんしんケアセンターの周知に力を入れていく。 	
	地域介護予防 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・い〜ねの会千草台(月2回)とGreen体操教室(月1回)の運動指導者への技術支援 ・Greenカフェ(介護予防の会・輝主催の認知症カフェ)の運営協力と新規認知症カフェ開催時の協力 ・ボランティア交流会を開催し、情報交換を行って、自主活動化の支援をする 		<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室を開催することでコミュニティーの場が増え、仲間づくりや健康意識を高める効果がある。地域の口コミにより情報の広まりが早く、かつ効果的な介護予防の推進になることを実感した。 ・Greenカフェ、い〜ねの会体操教室天台については、保健師職の括りではなく、センターでの活動として行えたので3職種の意見を得ることができ、今後の活動の充実が図れている。 ・ボランティア募集活動の推進が遅れてしまった為、ボランティアに負担をかけてしまったこともあったため、随時、ボランティア募集とチャレンジ運動講習会、理学療法士との連携により支援していく。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターは市の委託機関であることを理解する。 ・高齢者に選択していただけるような事業所やサービスの種類等情報提供を行う。 ・市の運営方針を職員全員で確認する。 ・個人情報取り扱いマニュアルを職員全員で周知する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・あんしんケアセンターは地域の中核機関として、市町村の委託を受け、公正・中立な立場で事業を行っていく事を理解する。 ・地域住民に対して情報提供を行う際には、公正・中立を意識し、偏りがないよう幅広い情報を提示した。 ・高齢者に対しサービス種別や事業所を紹介する際には、一覧表等を用いて、高齢者自身が自己選択、自己決定が行えるよう対応を行った。 ・個人情報保護については、マニュアルを職員全員で確認し、適切な情報管理を行うと共に、本人の求めによる情報の開示に対しても適切な対応を実施した。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 小仲台		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (1) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,096			
	高齢者人口	7,467			
	高齢化率	22.56%			
担当圏域 地区課題	戸建地域全体で住民間のつながりが図れている自治会組織や、高層の団地やマンションの中で階段や棟ごと等環境を活用した住民のつながりを作っている自治会組織においては、居住地の環境を理解し、その中で必要な活動が住民間合意で活発に行われている。しかし、地域での活動の中心となる担い手が高齢化しているのが現状である。他方で、自治組織のない戸建てやマンションにおいては、組織づくりを働きかける糸口がほとんどない状況である。				
活動方針	新センターの案内を含め、あんしんケアセンターの周知活動を行う。また、活動が活発な組織へ定期的に参加し、若い世代との交流を図り地域課題を共に考えるきっかけとしたり、住み慣れた地域で住み続けられるように住民主体の活動を組織化できるよう働きかける。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活や地域について考え介護予防に取り組めることを支援する。 心身の状況や置かれている環境に応じて多様なサービスの情報提供を行う。 既存の住民主体の集いの場や介護予防教室等の機会を利用し、住民に対し介護予防手帳の使い方について説明会を実施する。 圏域内の居宅介護支援事業所と介護サービス事業所に対し、周知活動を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合事業に移行する際に、これまで利用していたサービスの必要性を再検討し、適切な自費サービスや住民主体のサービス等の複数提案を行った。 サロン、講座等を通じ、いきいき活動手帳などを活用しながら、介護予防への意識づけを行うことができた。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員や自治会、地区部会等に小仲台便りの配布を行ったり、「地域の困った会議」開催等を通じ地域の相談窓口として周知させる。 所内会議を活用し、職員間の情報共有を図る。 第二稲毛ハイツの自治会館で行っている体操サークルの後に、月1回出張相談会を行う。対象者は第二稲毛ハイツ住民に限らず、近隣住民も含むため幅広い周知を行い実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> 「地域の困った会議」は、地域の相談窓口としての周知、地域課題の把握や検討を行うことを目標とし、広報を行ったが、地域からの問い合わせがなく、実施には至らなかった。来年度は、今年度の状況を踏まえ、ネーミングを変えるなどし、より身近で活用しやすいものにしていく。 第2稲毛ハイツ出張相談は、途中参加者が減ったことに伴い、ミニ講座を加えてあらためて周知したところ、参加者が増加した。 相談は丁寧に受け、所内会議で情報共有し、必要時関係機関と連携を図ることができた。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士連絡会を毎月1回開催し、社会福祉協議会職員と高齢者権利擁護の視点を持った研修会開催（年に2回）や地域作りについて検討を行う。 体操教室やサロンに参加し、消費者被害の情報の提供を行う。 年に2回、高齢者の権利擁護に対する事例検討会を開催し参加者との連携を考える機会を持つ。（健康課、高齢障害支援課、生活自立仕事相談センター、民生委員、区内のあんしんケアセンター等） 		<ul style="list-style-type: none"> 毎月、社会福祉士会議を開催できた。区内あんしんと高齢障害支援課、社会福祉協議会との情報共有が行えた。 講座を聞く対象を、住民向け、サービス事業所向けと分け実施した。対象者を分けることで、講座の伝えるポイントを絞ることができた。それぞれの立場で、高齢者の権利を考えられることができた。 特に、サービス提供事業者に対しての虐待対応の講座や消費者被害は、日頃の業務の中で対応を検討する機会になった。 情報提供として消費者被害や成年後見制度の住民向け講座をしたが、住民の中には既に情報を持っており、これからの生活にどのように活用するか具体的な内容を希望する声もあった。また、制度の講座をきっかけに、家族間の悩みを聞くきっかけもできた。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 会議などの機会や事例を通して、日頃から介護・医療などの関係機関や関係者との連携をはかり、地域の高齢者への適切な支援を行う。また、地域課題の把握・分析に努める。 地域ケア会議（ケアマネジメント支援、多職種連携、地域課題検討）を各年1回開催する。 ケアマネジャーを対象とした研修会（年4回）、事例検討会（年3回）を実施、主任介護支援専門員連絡会などを実施する。 		<ul style="list-style-type: none"> 日頃から地域の関係機関や住民組織などと連携をはかり、支援を求めている高齢者への対応につながっている。 地域ケア会議は、個別課題解決のための会議の開催数は少なかったが、事前に解決する事例が多かったため、会議開催の必要がなかったものとする。地域課題検討やケアマネジメント支援の会議開催に至らなかったことは今年度の反省点である。徘徊模擬訓練後の地域ケア会議は、住民らと認知症に焦点化した意見交換の場となり、有意義だった。 介護支援専門員を対象とした研修会などは年間計画通り実施したほか、圏域の主任ケアマネの実践力向上の場として連絡会等を開催することができた。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座を実施する。 自治会や民生委員、地区部会と連携しながら、健康測定会や講座、体操等の介護予防教室を実施する。 イオン稲毛店において、各月15日（8月と10月は除く）に稲毛区あんしんケアセンター合同で健康チェックを開催する。 稲毛区あんしんケアセンターの保健師、稲毛区健康課、社協、生活支援コーディネーターと定期的に会議を持ち、稲毛区内の健康づくり、介護予防に資する情報を整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> 講座参加者に対しては、健康や介護予防について考えるきっかけづくりを提供でき、セルフマネジメントの力を高めることができた」と評価する。 稲毛区初の徘徊模擬訓練を実施し、地域住民の認知症の方への支援の意識向上へとつながり、今後も訓練等を継続していきたいという意見も聞くことができた。訓練後の会議の開催も好評だった。 	
地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 誰でも参加できるあんしんケアセンター主催の体操教室（穴川集会所、小中台地域福祉交流館）を実施し、その中で住民主体の体操サークルへと発展していくよう支援する。 住民主体のサークル（第二稲毛ハイツ自治会、火曜会、木曜クラブ、轟サークル）への後方支援を行う。 シニアリーダーやヘルスサポーターと連携しながら、既存の地域の集まり等も活用し、住民主体の健康づくり・介護予防の場の育成や質の向上をはかる。 稲毛区あんしんケアセンターの保健師、稲毛区健康課、社協、生活支援コーディネーターと定期的に会議を持ち、住民主体の活動組織や通いの場について情報交換を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 講座や体操教室は、参加者の介護予防への意識は高まったが、住民主体の活動にはつながらなかった。参加者の要望を取り入れ、次年度へ活かしていく。 サークルへの後方支援は、情報提供や意見交換を継続し、各サークルの現状を踏まえた支援を行うことができた。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の給付管理時に委託事業所の確認と、ケアプランに位置づけた介護サービス事業所に偏りがないか確認を行う。また、総合相談や担当ケースから要介護の認定者の居宅介護支援事業所への依頼数の確認を行い、公正中立が保たれるようにしていく。 「みかんの会」の活動に沿って活動する。 		<ul style="list-style-type: none"> 委託事業所、介護サービス事業所の偏りがないか依頼数を書面にて管理し確認を行っている。 みかんの会の活動では、「メイト・認サポ」班、「キッズ認サポ」班、「徘徊模擬班」のメンバーとして、それぞれの計画に沿って活動に参加した。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 稲毛		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(1) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	32,023	
	高齢者人口	6,515	
	高齢化率	20.34%	
担当圏域 地区課題	高齢者人口が約6,000人を超え高齢化率約20%となり、大型住宅街やマンションに団塊世代が多く居住しているため、今後急速に高齢化が進む地域。それに伴い認知症の相談も増加してきているが、認知症の普及啓発が進んでいない現状があり、高齢者を取り巻く様々な問題が起こる恐れがある。また地域において他者と交流を持てる場が少ないため、孤立する高齢者も増加傾向にある。認知症対策や、高齢者の孤立化を防止するための対策が必要となってきている。		
活動方針	介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴い、第1号介護予防支援事業の周知や質の向上を目指す。高齢化が急速に進む地域であるため、認知症の増加が見込まれることから、認知症対策の取組みを強化していく。また介護保険の改正が介護予防事業の大きな転機となるため、地域の特性・地域単位での介護予防を普及啓発していく。地域包括ケアシステムの構築のために、地域の関係機関との連携体制を強化していく。		
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民、居宅介護支援事業所等関係機関への日常生活総合支援事業（介護予防手帳含む）説明会の実施 コメント受付日の開催（月1回） センター及び委託ケースのケアプランチェック（随時） センター内のケアマネジメンの質の向上の為、内部研修の実施（年4回） 保健師職会議の開催（月1回、関係機関込みは年3回） 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活支援総合事業の開始に伴い、民生委員や地域住民に対しこやか講座やあんしん講座等で周知を図ることが出来た。またセンター分のケアマネジメンに関しては、センター内での情報共有や生活援助型サービス情報シート作成し、混乱がない様に対応することが出来た。委託分のケースについては随時情報提供を心掛けたが、個々のケースに対して生活支援ガイドやいきいき活動マップを配布し活用を促すことはできていなかったため、次年度はその部分の強化を図りたい。 センター内のケアマネジメンの質の向上を図る為、内部研修だけでなく三職種会議等でも随時ケース検討を実施していったことで、多角的な視野でケアマネジメンを実践できるよう働きかけることが出来た。 保健師職会議については高齢障害支援課も参加することとなり、改めて会議開催の目的等を見直す年となった。稲毛区として多職種との連携を図っていく目的を検討する機会となったため、次年度はより目的を明確にし会議の質を上げ、健康課や生活支援コーディネーターとの連携を図っていく。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 月2回以上の三職種会議、ケース会議の開催 個別地域ケア会議の開催（年4回程度） 稲毛地区地域ケア会議の開催（年3回） イオン稲毛店での周知広報活動、相談対応（月1回） 精神保健分野地域ケア会議の開催（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ケースの支援方法を決定するにあたり、三職種間で情報を共有した上で、専門性を持った視点からの提案や助言がなされていた。また、定例以外にも個別のケースについて検討を重ねることで、支援の方向性の見直しや修正が図れ、適切な支援につながって行ったと考えられる。 個別の地域ケア会議は実施されなかったが、見守りの目として関係機関に協力を依頼し、安全の確保につながった。個別の地域ケア会議をより有効に活用するためには、どれだけの関係者の協力が得られるかにもよるため、生活圏内にある個人経営の商店や配送・配達業者との関係性を築くことで、次年度は個別のケースを通じて更に地域の見守り役となる方へのアプローチも強化したい。 イオン稲毛店での出張相談を継続的に行い、あんしんケアセンターを知らなかった方知ってもらえるきっかけづくりになった。実際に、イオン稲毛店での出張相談に来場した方が介護予防教室へ参加したり、認知症の専門病院への受診につながったケースもあり、効果を生んでいる。継続していくことは認知度の拡大にもつながるため、次年度も継続的に実施する。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 区5センターで社会福祉士連絡会議を開催する（月1回） 地域ケア研修会を開催（年2回） 高齢障害支援課、生活自立・仕事相談センター、社協との連携会議の開催（年3回） 高齢者虐待ケースにおける積極的な介入と啓発活動（行政との連携、研修への参加） 高齢者虐待ケースにおいてコアメンバー会議の活用を行う 千葉市消費生活センターと連携し、消費者被害啓発講座を開催する（年1回） 成年後見人制度普及啓発活動（年1回） 認知症サポーター養成講座の開催（年4回） 認知症疾患医療センターとの連携 認知症初期集中支援チームへの参加、チーム員としての活動 圏域内に、認知症カフェ等の交流の場を構築する 	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士連絡会議が主催となり、地域ケア研修会を開催した。高齢者の消費者被害という社会福祉士ならではの視点から、被害防止に向けた関係機関への働きかけを行えた。また、地域の住民に向けた消費者被害防止の講座では、近隣で起こっている事例を紹介したことで、身近に起きている問題であるという認識が広がり、地域住民同士でお互いに注意を呼びかけあうことの重要性が伝わった。 虐待事例においては、通報の受理から本人の安全確認までの流れを、高齢障害支援課と連携しながら実施することができた。また、居宅支援事業所やサービス事業所の協力を得ることで、養護者自身へのアプローチも速やかに行えた。関係者間で支援方法を検討した後も、居宅支援事業所、サービス事業所、あんしんケアセンターが中心となり、複数の目で経過を観察しており、虐待の再発予防へとつながっている。 成年後見制度の普及啓発については、高齢者自身が制度そのものを理解することが難しい場合もあり、積極的な活用には至らなかった。平成30年1月24日から開始された特定援助対象者法律相談援助制度も活用しながら、必要としている方に理解が行き届くようにしていきたい。 平成29年12月より、月1度認知症カフェを開催している。センターで配布しているチラシを持ち帰る方がいるが、参加という形には結びついていない。来年度も継続的に実施し、認知度のアップを図りたい。
	包括的・継続的ケア マネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛区（千葉市あんしんケアセンター）の主任介護支援専門員の定例会（毎月）を設け、介護支援専門員に対しての事例検討会（年4回）や研修会（年4回）を企画する。また稲毛区の主任介護支援専門員と共に事例検討会の進行を行い、お互いに質の向上を目指す。 介護支援専門員同士のネットワークを構築や医療機関・介護サービス事業者等の連携を図れるよう交流会（年2回）を開催する。 介護支援専門員に対し支援困難ケースへの対応に関する相談や支援をし、情報誌としてケアマネ通信を発行（年4回）し介護支援専門員へ配布し後方支援を行う。 稲毛台町、黒砂台3丁目での地域ケア会議の定期開催、あかりサロン稲毛と共同し地域ケア会議の開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 稲毛台町地域ケア会議を定例的に開催し、地域のニーズを把握するとともに、日常生活支援事業等の情報を随時伝達することで地域の活性化を図ること、ネットワークの構築を図ることが出来た。 黒砂防災地域ケア会議と黒砂台3丁目の地域を定例的に開催することが出来、地域力の把握、ネットワークの構築へと繋げることが出来た。 年度当初の計画通り、ケアマネ向けの資質向上研修を実施することができた。総合支援事業への移行に伴い制度の変動がある中で、ケアマネに向けた情報を発信できるよう主任ケアマネとして情報収集を常に行っていくことが必要である。またケアマネの後方支援として相談体制が確立できるよう、相談体制の周知を行っていく。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動、総合相談での基本チェックリストの実施 稲毛公民館、黒砂公民館の活動の継続 あんしん新聞の発行（月1回） あんしん稲毛通信の発行（年4回） あんしん講座の開催 あんしんカフェの開催（月1回） あんしんランチの開催（週1回） センターを開放し介護予防教室の開催（随時） 地域資源マップの作成 稲毛区版情報シートの作成 	<p>介護予防普及啓発では、公民館や自治会館などで定期的な活動の場づくりを行い、地域住民に活動の場の提供ができた。地域住民の通いの場と、運動や活動の維持向上に向けた普及が出来た。また住民主体のボランティアによる活動作りも行い、参加型のコミュニティの形成を行った。介護予防教室でのいきいき活動手帳の交付や活用を行い、参加者のニーズに合う活動の展開が促進されるよう、ケアマネジメンのセルフケアができるよう推進した。</p> <p>また教室開催時、広報紙を配布し介護予防の視点や健康維持増進に繋がるよう情報発信や、参加者に対してのアプローチを行ない、個々に対する断続的な普及啓発を行った。</p> <p>今後は、魅力ある介護予防教室を実施し、参加者の増加と、介護予防と地域コミュニティの形成が促進するような集いの場の形成にも取り組んでいく。</p>
	地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> いきいきサロンの支援（年4回） 稲丘町老人会（稲寿会）での講座（年2回） 黒砂高灯会での講座（年2回） 黒砂文化祭・稲毛台町文化祭での体力測定（年1回ずつ） 稲毛台町シニア体操後方支援（月1回） あんしんカフェをモデル事業とし、自治会や老人会、民生委員等へ活用していただけるよう周知する あかりサロン稲毛活性化委員会に参加（月1回）、あかりサロン稲毛と共同し地域づくりのための会議の開催 黒砂防災地域ケア会議の開催（年1回） 	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体の活動の場として、シニアリーダーによる体操教室が稲丘自治会館、京成サンコーポの2カ所で新たに立ち上がった。自治会や民生委員の協力のもと、介護や介護予防給付者や元気高齢者の参加があり、地域の活性化に繋がった。今後運営や活動継続に向けた問題など適宜後方支援しながら、活動の場が効果的に実施できるよう支援を行う。 いきいきサロンや自治会の講座などでいきいき活用手帳の交付を行い、高齢者主体の活動や取り組みが継続されるよう普及を行った。活用の促進と共に資源の情報提供も併せて行い、今後も継続していく。また教室参加者が地域の見守りとしての情報発信が出来るよう、また地域のマンパワーとしての活用が出来るよう、周知活動を行っていく。 文化祭や講座での体力測定は定例化しており、毎年継続的に測定し健康評価する人が多く、介護予防情報や介護予防活動への参加を呼び掛けることができています。 あかりサロン活性化委員会を通じ、関係機関に対し広くセンターの周知を図るとともに、関係機関の幅を広くしていくなど助言し、活動の活性化を図ることが出来た。
その他	<ul style="list-style-type: none"> サービス事業所に偏りが無いよう、パンフレット等の資料を揃え、すぐ閲覧できるよう整理する。 居宅介護支援事業所の特徴や空き情報、ケアマネジャーの人数などを定期的に確認する。 年1回利用者満足度調査を実施し、分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公平・中立な対応を実践するための環境としてサービス事業所のパンフレットを整理するほか、居宅介護支援事業所の情報を随時更新し、センター職員が統一した対応で実践することが出来た。 利用者に対しても満足度アンケート等を実施し、不利益にならないよう配慮することが出来た。 	

※人口データは平成28年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター みつわ台		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(1) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	30,618	
	高齢者人口	7,327	
	高齢化率	23.93%	
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> 自治会の数が多く地域を細分化している。自治会の活動をする場が少なく、自治会活動に支障をきたしている。 昔から住んでいる居住者と新興住宅が混在している。 		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> 住民主体の多様なサービスを支援の対象とするとともに、NPO、ボランティア等によるサービス資源の開発を支援する。 地域ケア会議等で地域の課題を抽出し、課題解決の為に地域の支え合い活動を支援する。 		
センター 業務	項目	具体的な活動計画	自己評価
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員の連絡会を通して、利用者に介護予防・日常生活支援総合事業の周知活動を行う。 千葉市生活支援コーディネーターとの連携強化を図って、NPO、民間企業、ボランティアなど多様な資源を発掘する。 シニア体操、支え合い活動に直接、間接的に協力を行う。 健康課主催保健師職会議(4月、12月)5センターの保健師等と健康課との交流を図り、連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師がそれぞれの連絡会を開催し、連携の強化や資質向上を図った。 地域ケア会議を通して地域の自治会や民生委員及び住民の方々と連携を深め、総合相談の分析等で地域の課題を把握し、今後の支援に活用することができた。
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> より多くの相談を受けるために出張相談会を設ける。その為に町内会自治会に働きかけて行く。 若葉区多職種連携会議(年2回：7月、1月)事例を通して多職種の方との連携を強化する。 若葉区内のソーシャルワーカーの連携を図り、医療、介護の包括的なケアを行う。(年3回) 若葉区主任介護支援専門員会議(事例検討会、年3回)主任介護支援専門員及び介護支援専門員の連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民、自治会、民生委員、サービス事業所等に成年後見の研修会を開催した。また消費者被害、高齢者虐待の講座を開催した。
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 千葉東警察署との情報交換会(年1回)警察との連携を深める。 若葉区主任介護支援専門員会議(事例検討会、年3回)主任介護支援専門員及び介護支援専門員の連携を図る。 若葉区ソーシャルワーカー連絡会(年3回)若葉区内のソーシャルワーカーの連携を図り、医療、介護の包括的なケアを行う。 千葉市社会福祉協議会、NPO法人、法テラス等の連携を図り、成年後見制度・虐待の講座を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区5センター合同の会議、研修会に出席し、5センターの連携強化を図った。 介護支援専門員の連絡会を定期的に行い、情報提供や勉強会による資質向上を図り、また連携強化を図った。
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区地域ケア会議(年1回11月) 定例地域ケア会議(毎月) 若葉区多職種連携会議(年2回：7月、1月)事例を通して多職種の方との連携を強化する。 若葉区内あんしんケアセンター管理者会議に参加する。 若葉区支え合いのまち推進協議会(年4回)に参加する。 3ヶ月に1回圏域内の介護支援専門員に対し、事例検討会または研修会を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> わかば町づくりのカフェやケアカフェに参加し、地域住民や介護関係者との交流を図った。 若葉区支援コーディネーターや自治会、民生委員、ボランティア等に積極的に交流し、情報収集に努めた。
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区民祭り(11月5センター)血圧、握力測定を行い、パンフレット等をおおして介護予防の周知を図る。 都賀コミュニティセンター祭り(9月)の中で地域住民に基本チェックや健康相談に応じる。 都賀いきいきセンター祭り(1月)みつわ台、都賀、桜木の地域住民に接して健康相談に応じる。 地域住民に認知症サポーター養成講座を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区民祭り、都賀CC祭りに参加して、地域住民の方に介護予防の重要性を直接訴えた。
	地域介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関の会合等に参加し、介護予防活動状況を把握し、それらを育成・支援する。 認知症サポーター講座や成年後見の講演会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区地域支援コーディネーターと連携し、ボランティア活動の把握とボランティア活動を推奨した。 地域住民に認知症サポーター養成講座を行った。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を開催して、地域の課題を抽出し、その解決の為に地域の支え合いの会の発足を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の地域を対象に地域ケア会議を行い、支え合いの会の立ち上げを推奨した。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 都賀		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(2) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	33,549			
	高齢者人口	9,174			
	高齢化率	27.35%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担当圏域の高齢化率は約27%だが、駅周辺など高齢者率20%台の地区もある一方で、45～50%と高い地区が混在している状況である。 ・認知症、精神疾患、独居世帯、高齢者世帯等、複合的問題を抱えているケースもみられている。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の方に新しいあんしんケアセンターを周知し、総合事業や介護予防の周知徹底を図る。 ・既存のあんしんケアセンターから引き継いだ地域ケア会議を継続的に開催し、ネットワークの構築を図る。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフケア、セルフマネジメントが継続できるようにしていく。 ・課題分析に基づいた適切なサービスの導入等、自立支援を基本に制度や社会資源へ繋ぐ等の支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・センターの立ち上げと総合事業の開始が重なり、またケアマネジメントCや短期リハビリ型通所といった新しいサービスが始まり、利用者に社会資源や新しい制度を結びつける事だけで精一杯であった。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域マップ作りを行い、地域の現状を把握していく。 ・地域住民と触れ合う機会を持ち、民生委員、自治会、地区社協等関係機関との連携を図るため、地域行事への顔出しや会議など開催案内に向けては、積極的に参加できる体制とする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を把握する事で精一杯だったため、住民のニーズや地区の課題分析まで至らなかった。 ・地域のネットワークを構築する為に他職種連携会議や民生委員会議、ソーシャルワーカー連絡会に参加して少しずつ連携が取れるようになってきている。 ・地域の社会資源や行政サービスの内容の把握が不十分だったため、当初は相談をワンストップで対応できていない事があったが、1年が経過し、ようやく対応できるようになった。 ・総合相談に対してスクリーニングを行い、緊急レベルを分類してそれぞれに応じた対応ができるよう、3職種間で情報共有を図るようになった。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が権利擁護に関する研修に参加する。 ・医療機関と相談ができる関係を築く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・特定の圏域の民生委員や自治会ボランティアと接点ができ、連携する事が増えてきたが、連携出来ていない地域がある。 ・成年後見制度や高齢者虐待に関する普及啓発活動が行えていない。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・3ヶ月に1回、介護支援専門員に対し、事例検討会または研修会を開催する。 ・若葉区5センター合同で多職種連携会議を定期開催していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・若葉区合同での他職種連携会議や地域ケア会議を実施し、ネットワークの構築に努めた。 ・圏域のケアマネジャー支援としてネットワーク会議を開催し、個別の相談に対し、総合事業に関してのプラン作成・請求等の支援を行った。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・健康課や社会福祉協議会や既存組織の活動へ集積を申し入れ、介護予防やセルフケアの普及啓発を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症予防や認知症に対する正しい知識の習得に向けた取り組みは行っているが、介護予防に関する普及啓発は、体操教室等での講演程度で不十分。 ・若葉区5センター間で介護予防普及啓発についての情報交換は行っている。 	
	地域介護予防活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動、地域で行われている介護予防事業について情報を収集し、相談時に提供する。 ・既存の教室など継続していけるような支援と新規の体操教室など開催できるようにする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室では顔の見える関係は築けてきているが、新規の教室開催まで至っていない。 ・社会福祉協議会や生活支援コーディネーターと連携をとり、地域の活動内容の把握に努めている。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を捉えて地域に積極的に出向き、あんしんケアセンターの周知を図る。 ・センター内3職種での情報共有し関係機関との協力関係を作り特定のサービスに偏ることがないように注意していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や民生委員を訪問し、周知活動に努めているが、役割がわからない等と言われる事が多く、周知が足りていない。 ・少しずつ顔の見える関係は構築できてきている。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 桜木		主任介護支援専門員	(2) 人	社会福祉士	(1) 人	保健師等	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	31,539						
	高齢者人口	8,162						
	高齢化率	25.88%						
担当圏域 地区課題	圏域は、公営住宅も一部あるが、全体的には戸建ての住宅街である。町丁毎の高齢化率をみると18.51%～34.76%と差はあるが、平均は25.48%と若葉区の中で比較的低い地域が多い。地域住民の地域福祉に関する意識は比較的高いが、社会福祉協議会地区部会との連携には差がある。身寄りのない一人暮らしの高齢者や、介護者に精神疾患等問題がある等、複合的な問題を抱えているケースが多い。							
活動方針	社会福祉協議会地区部会の会議、民生委員さんの会議等に参加し連携を図る。今年度の圏域変更に伴い、若葉区全体の活動の取り組みと共に、法人理念に基づいた当センターならではの地域に密着した活動を展開する。							
センター 業務	項目	具体的な活動計画			自己評価			
	第1号介護予防 支援事業	<ol style="list-style-type: none"> 職員が地域の後援会やサロン、地域ケア会議等で説明する。事業対象者、利用者、委託先居宅介護支援事業者等にわかりやすく説明できるようにする。 センター内で介護予防ケアマネジメントケアプラン検討会を行い、他の職種からの意見を参考にし、若葉区内定例地域ケア会議での事例検討会で介護予防ケアマネジメントの検討を行えるよう、若葉区内の他のセンターと調整する。 生活支援コーディネーター（若葉区担当）と協働し、地域の把握や連携、住民主体の集いの場等への支援を行う。 新規の相談等で要支援が見込まれる方は、要支援（要介護認定）を勧めるが、基本チェックリストも実施する。 			<ol style="list-style-type: none"> 「千葉市介護予防ケアマネジメントの」手引きを作成。圏域内居宅介護支援事業所へ説明会は実施できなかった。次年度以降開催したい。個別には多くの相談にのった。 事例検討では、困難事例の検討が多く、介護予防及び介護予防ケアマネジメントの事例検討ができなかった。委託先事業所の提出書類の整備を実施した。ケアマネジメントC及び短リハの請求は2回返戻後請求ができた。請求が複雑になったので、正確な請求業務を行いたい。居宅、サービス事業所からの問い合わせにも千葉市に確認しながら回答した。 生活支援コーディネーターとは、各種会議等と一緒に参加し連携ができた。 基本チェックリストは機会を捉えて実施した。 			
	総合相談支援	<ol style="list-style-type: none"> 総合相談のスクリーニングを行い、緊急レベルを分類してそれぞれの緊急性に応じた対応を行う。 スクリーニングをし主担当は決めるが、朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会等で情報の共有を行い、他の職種の意見を聞きながら、チームとしての支援ができるようする。 様々なレベルでの地域ケア会議、多職種連携介護を開催する（包括的・継続的ケアマネジメントの項参照）。 総合相談の関係機関・関係者との個別レベルでの連携に加え、地域での連携を図る。特に民生委員、社会福祉協議会地区部会の会議等に参加する。総合相談記録を地域別に分析し地域課題分析の一助とする。 			<ol style="list-style-type: none"> 総合相談スクリーニング及び分類及び情報共有は年度を通して行った。 担当圏域変更により配置職員減となり、センター運営は工夫しながら対応した。支援経過記録の充実、情報の共有はできた。 社協地区部会毎の地域ケア会議は、加曽利地区以外では開催できなかった。次年度の課題である。 総合相談の分析は行っているが、その分析が必ずしも地域課題と一致するわけでもなく、地区毎の課題分析ができなかった。 			
	権利擁護	<ol style="list-style-type: none"> 虐待に関する施設内外の研修会に参加し、職員全員が適切に対応できるようにする。若葉保健福祉センター高齢障害支援課に虐待（疑い）事例を報告し緊急性の判断、対応の相談を行う。若葉区内5センター合同のソーシャルワーカー連絡会（年3回）で、権利擁護の事例を検討する。 千葉東警察署と千葉市老人福祉施設協議会との「高齢者の安全安心に関する協定」に基づき、若葉区内5センター合同で「東警察署と介護保険サービス事業者との情報交換会」を行う（5月）。地域ケア会議、多職種連携会議での連携を図る。その他人身安全関連事案等の連携体制に協力する。必要に応じて消費生活相談センターとの連携を図る。千葉市から送付される同センターからの資料はセンター内で共有すると共に、必要に応じて圏域内居宅介護支援事業所等へ送付する。 			<ol style="list-style-type: none"> 虐待に関して相談件数は増加傾向ではあるが、介入が難しいケースが多く、行政と相談しながら対応する必要がある。 警察署からの相談も多く、警察で保護したがその後の対応をどうするか緊急の相談が多く、対応が難しかった。 			
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ol style="list-style-type: none"> 若葉区5センター合同で若葉区地域ケア会議（11月）、定例地域ケア会議（毎月、年度末は若葉区高齢者保健福祉ネットワーク会議として開催する）、個別レベル地域ケア会議も積極的に行う。特に今年度は担当圏域が変更になったことにより、担当圏域、社協地区部会毎の地域ケア会議を開催する（年3回）。若葉区多職種連携会議（年2回）を開催する。担当圏域独自の多職種連携会議を開催する（年1回）。 シリーズ研修「ケアとケアの基礎固め」を引き続き開催する（年3回）。 個別の介護支援専門員の相談にのり適切に支援する。圏域内の（主任）介護支援専門員会議を開催する（年2～3回）。5センター合同で事例検討会を開催する（年3回）。 若葉区支え合いのまち推進協議会に参加し同計画に基づく地域作りを支援する。 			<ol style="list-style-type: none"> 圏域での多職種連携会議開催の準備ができなかった。 センター増設により、5センター合同での研修会はできなかった。圏域内の研修会を検討したい。 今年度定期的な開催ができなかった圏域内（主任）介護支援専門員会議を開催し、研修会を実施したい。 第4期計画のスタートの年なので、計画の周知活動と具体的な取り組みについて検討したい。 			
	介護予防普及啓発	<ol style="list-style-type: none"> 地域のサロンや活動サークルを訪問し、介護予防の普及啓発を図る。グループホームや地域密着型デイサービス運営推進会議等も活用する。介護予防手帳を効果的に活用し、セルフケア能力向上を支援する。 認知症サポーター養成講座を引き続き積極的に開催する。若葉区子どもカプロジェクトとして、若葉保健福祉センター、地域包括ケア推進課、社協地区部会と協力して、中学生対象に行う。 民生委員、生活支援コーディネーターと協働し、地域の課題分析・特性を把握し、地域の実情にあった地域ケア会議等を開催する。 			<ol style="list-style-type: none"> 様々な機会を利用して介護予防、認知症の啓発活動を強化する。総合相談の取り組みの中で、民生委員との連携を強化する。 若葉区子どもカプロジェクトとして、行政と連携して認知症サポーター養成講座を行いたい。 地域住民のみならず、地域の介護支援専門員及びサービス事業者にも認知症ケアパスの普及に努める。 			
	地域介護予防 活動	<ol style="list-style-type: none"> 地域の自主サークルで行っている体操教室を継続支援支援する（月2回、2グループ）。 ボランティアグループによる「歌声喫茶」「ワンコインランチ」等を継続して支援する。ボランティア団体と活動場所の紹介等を行う。 社協や生活支援コーディネーターと協力し、地域の多様なサービスの把握を行い介護予防ケアマネジメントに活かす。 			<ol style="list-style-type: none"> 自主サークルの体操教室が以前の会場に戻るので引き続き支援を行う。 地域の実情に合わせて、住民主体の通いの場開催の支援を行う。 引き続きケアプラン作成や総合相談において、住民主体の通いの場、シニアリーダー体操等紹介する。 			
	その他	<ol style="list-style-type: none"> 圏域変更となったため、円滑に移行できるよう資料等作成し、様々な機会を捉えて周知活動を行う。 利用者のアセスメントに基づいて適切なサービスが利用できるように支援し、その結果を市へ報告する。 			<ol style="list-style-type: none"> 定期的な情報の更新ができるように体制を整備する。 引き続き適切なアセスメントを行い、公正中立の立場から必要な支援を行う。 			

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 千城台		
	主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
	(2) 人	(2) 人	(3) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	36,667	
	高齢者人口	12,354	
	高齢化率	33.69%	
担当圏域 地区課題	担当圏域の総人口は減少傾向にあるが、高齢者人口、高齢化率ともには増加している。その中でも単身や夫婦のみの高齢者で地域との関係性が希薄化した世帯が多く、世帯の課題が潜在化しにくい。また、課題が表面化した場合は重度化、複合化している事も多く、地域におけるインフォーマルな社会資源も含めた関係機関での見守り体制の構築が課題となっている。		
活動方針	センターにおける地域高齢者の情報収集や、関係機関との連携を推進することにより、地域内の課題を把握、課題解決に向けて関係機関と協働を行いながら、地域包括ケアシステムの構築とその必要性・重要性を地域住民の方々や関係機関への啓蒙活動等を通じて推進する。		
項目	具体的な活動計画	自己評価	
	<p>第1号介護予防支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合事業利用対象者のケアマネジメントは、その心身の状況、環境やその他の状況に応じて、包括的、効果的に提供されるよう配慮する。 介護予防ケアマネジメント計画作成後も、高齢者やその家族、サービス事業者との連携を継続的にを行い、その実施状況や解決すべき課題を把握し、必要に応じて計画の変更や事業者との評価や調整を行う。 住民主体の場やインフォーマルサービス等多様なサービスの情報収集や情報交換、啓発活動の実施。 区健康課地域健康づくり支援連絡会への参加。 区介護予防事業に関する意見交換会への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業利用対象者に対し、常に「介護予防ケアマネジメントの質の向上」を意識しつつ支援や作成に努めることができた。 相談・支援の過程において、日常生活の見直しや健康の維持促進に必要な情報提供を行い、自立支援に繋がるマネジメントを心がけることができた。 地域の健康促進を目的とした活動団体の情報を、交流等の中でしっかりと把握し、又情報共有に努め、ケアマネジメント作成に活用することができた。 地域支え合い型通所支援事業開始に伴う「ケアマネジメントC」作成に際しては、参加者への負担軽減に配慮しつつ、参加意欲継続やセルフマネジメント推進のためいきいき活動手帳を交付し、活用のための支援を行うことができた。 「短期通所リハビリ」の開始に当たっては、介護予防支援利用者や事業該当者等、利用が効果的な方の選定・働きかけと共に、介護予防マネジメント・介護予防支援作成支援に努めることができた。 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の委託委託事業所ごとに担当化したことで連絡がスムーズになり、結果、利用者が質の高い支援に繋がる体制作りが行えた。 	
<p>総合相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域内の地域ケア会議開催に向け、民生委員定例会や社協サロンへの参加等、基盤作りを継続して行う。 若葉いきいきプラザの出張相談会(週1回 2時間) 総合相談困難事例検討会を開催(月2回)し、センター内での情報共有や、スーパービジョン機能として支援方法の見直しを行い三職種共同でチームアプローチを行う。 【区内センター合同】 区地域ケア会議の開催(年1回、11月) 区多職種連携会議の開催(年2回、7月、1月) 区区ソーシャルワーカー連絡会(年3回) 区内センターの社会福祉士会議開催(2ヶ月に1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より保健師が2名増員し、個別支援の過程で医療職と意見交換や同行訪問を行える機会が増えたことで、顕在化したニーズだけでなく、潜在化していたニーズを医療・介護両面から迅速に判断することができ、適切なサービスや関係機関の選別を行い繋げられるようになってきている。 専門職間の定期連絡会で、後期では専門性について触れることにより、専門知識の勉強ではなくソーシャルワーカーとしての価値観を再認識する機会となった。総合相談に関わる専門職種の価値観を、専門性と共通性として共有することで、より迅速に切れ目なく継続相談をつなげられる、そのような支援体制作りはまだ不十分であり、引き続き研修会の開催などにより努めていく必要がある。 地域ニーズの把握は、一部地域でケア会議を開催した際に実状を把握したが、他は相談支援業務等における個別的な把握に留まっており、実際の地域住民の個々のニーズ把握から、地域の全体的なニーズとして把握できるような働きかけが行えていないため、今後に向けて把握方法を検討し、地域と共有していきたい。 		
<p>権利擁護</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民や関係機関へ、成年後見制度や日常生活自立支援事業等の普及啓発活動として、簡易リーフレットの作成・配布や勉強会を開催(年1回以上)。 高齢者虐待の早期相談・発見に向け、関係機関や地域住民等に対し、権利擁護事業に関する情報交換会の開催や個別ケース等での周知を進める。 認知症サポーター養成講座の開催(年2回以上) 消費者被害の最新情報の把握をし、関係機関等への周知活動や地区部会サロン等訪問時に地域住民も対象に周知を行う。 【区内センター合同】 千葉東警察署と介護サービス事業者の情報交換会開催(年1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待の相談においては、高齢者の認知症疾患による判断力・生活力等の低下や、世帯構成員の判断力の低下等により、理解不足が相互作用して起きていることがあり、経済的な問題も相俟って複合的な問題を抱えている事例も多かった。高齢者に対する介護保険制度だけでなく、権利擁護制度の活用や、障害者支援の観点も必要となる場合もあり、専門職の相互相談が不可欠になっている。各連絡会や情報交換会の開催による顔の見える関係作りや個別支援過程での連携をきっかけに次の相談に繋がることも多く、今後も早期相談や円滑な支援を行うために丁寧な関係づくりに努めていく必要がある。 権利擁護の普及啓発活動については、認知症サポーター養成講座の開催や消費者被害の情報提供等により部分的な情報提供はできているが、虐待予防の観点や日常生活自立支援事業、成年後見制度等については周知できておらず、地域住民への働きかけが必要と感じた。 		
<p>センター業務</p> <p>包括的・継続的ケアマネジメント支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 千城台圏域主任介護支援専門員連絡会開催(年6回) 千城台圏域地域密着型サービス事業者連絡会(年3回) 圏域事業者情報交換会(年6回) 【区内センター合同】 区地域ケア会議の開催(年1回、11月) 区多職種連携会議の開催(年2回、7月、1月) 定例地域ケア会議(月1回) 区介護支援専門員連絡会の開催(年2回、9月、2月) 区支え合いのまち推進協議会への参加(年4回) 区内あんしんケアセンター主催の連絡会(年3回、6月、10月、12月)を開催し、総合的支援体制のネットワークを構築する。 区内センター管理者会議開催(随時) 	<ul style="list-style-type: none"> 従前から開催されていた千城台圏域主任介護支援専門員連絡会は、安定した開催回数と出席人数があり、顔の見える関係から、地域情報を共有するための関係機関とのコミュニケーション発展の場へと深化してきたと思われる。圏域の介護支援専門員等への後方支援については、ケースを通じて関係が強化された後は比較的相談を受けることも多く、都度対応ができたものの、研修会に不参加状態となりやすい居宅介護支援事業所とのコミュニケーションは不足していると感じている。介護支援専門員のケアマネジメント手法に関する意見交換は少なからず行う機会があったが、同時にアセスメント手法において、共通の認識や価値観の共有と社会資源等の情報量等のバラつきが多少あったと思われる。多職種連携を多問題ケースと捉え、他制度の仕組みやその整合性の把握など、アセスメント時に必要とされるソーシャルマネジメントの知識、これまでの事例などを通じて得た内容を、当センターでも今後も事例検討会などを通じて伝えていく必要性を感じた。 		
<p>介護予防普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加(千城台及び都賀コミュニティーセンター祭り/9月、若葉区民祭り/11月、都賀いきいきセンター健康相談/1月、若葉いきいきフェスティバル/2月等) センター直営のいきいきかがやきクラブ(千城台1・千城台2・小倉)の開催(各月2回)及び自主活動化の促進。 地区部会サロン訪問時に介護予防の情報提供。①小倉地区部会サロン訪問(1回/月)。②御成台千城台西北・御成台地区部会サロン訪問(1回/月)。③千城台東南・金親地区部会サロン訪問(1回/月)。④更科地区部会訪問。(開催時) 対象者を限定しないためにセンター主催の認知症サポーター養成講座を開催。 区内保健予防担当者における介護予防普及啓発についての情報交換。 	<ul style="list-style-type: none"> 千城台コミュニティー祭りなどの地域事業は、年齢層問わず不特定多数の住民の参加が見込まれることから、介護予防普及啓発の良い機会と考える。今年度は天候不良の日が多かったため参加者が少なく、またブースに立ち寄っていただく環境が作れなかった。そのため、より多くの住民に対し、介護予防普及啓発をできなかったことが反省点である。 区民まつりにおいては、あんしんケアセンターの認知度を計るためアンケートを行った。結果、年代が上がるほど認知度は上がり、80代においては100%に至った。これまでの周知活動の成果と評価できる。ただし、今後は、地域や家庭の一員でもある若年層への周知や、区民まつりなど地域事業に参加せず、気づかれぬ存在になりがち高齢者への周知とその評価が課題である。 総合相談や広報活動の場においても介護予防の普及啓発に努めた。具体的にはセンター直営のいきいきかがやきクラブへの参加を促進した。結果、いきいきかがやきクラブは参加者が多数増加し、内容に関しても満足度の高い感想をいただいている。 センター主催の認知症サポーター養成講座の開催により、認知症に対する正しい理解や認知症予防についての知識を普及することができた。 生活支援コーディネーターと連携し、圏域内の自主グループの把握ができた。今後はそれを周知・活用するための連携構築の必要性を感じた。 		
<p>地域介護予防活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 若葉いきいきプラザ連携事業 1)生きがい活動通所利用者等を対象とした教養講座開催。(2回/年、2時間/回) 2)一般向け講演会開催(年2回以上) 千城台西県宮住宅健康体操教室活動支援(月1回)と活動回数増加の検討支援。 千葉市いきいき体操教室の活動状況の把握と活動支援。 シニアリーダー体操教室の活動状況の把握と活動支援。 圏域内の地域活動担当者間における情報交換会の開催。 圏域内における「歩いて行ける通いの場」の新たな立ち上げ支援のために、自治会担当者等との連絡や連携。 千葉市広域リハビリ支援センターと圏域内介護予防教室の活動について情報共有を行うと共に活動内容の助言を依頼。 若葉区健康づくり支援連絡会への参加(年2回) 	<ul style="list-style-type: none"> 左記具体的活動の実施や継続的取り組みにより、健康増進や介護予防を目的とした団体に、コミュニケーションを密に取りながら、ニーズに即した助言や活動支援が行えたと考える。 圏域内の介護予防を目的とする団体の担当者間における情報交換会を開催したことで、まずは交流の機会や情報交換の場となり、モチベーションの維持にもつながったと思われる。 29年度より開始となった「市総合事業の地域支え合い型通所事業」としての登録・開始に際しては、随時相談・助言に努め、円滑に事業が開始できるよう、事業担当者のみならず、区内あんしんケアセンター担当や市地域包括ケア推進課・区介護保険室との連絡・連携・協力を努めたことで、参加利用者の不安や混乱もなく開始できたことは評価できると思われる。反面、登録を検討した団体の相談もあったが、登録等事務的な問題が大きな障害となり断念という残念な結果となった。このことは、登録等事務的なことについての支援不足を反省し、又、市地域包括ケア推進課へ登録等事務内容の確認や、今後の方法についての提案を検討していきたいと考える。 「新たな住民主体の活動の場」の必要性を感じている住民へ働きかけを行ったが、具体的な立ち上げまでには至らなかった。このことに、個人の思いはあっても、活動の仲間や場所の確保等の課題の多さを痛感した。 		
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 区民祭り、コミュニティー祭り、いきいきプラザフェスティバル、地域行事等への参加により、センター周知活動を実施する。 地域密着型サービス運営推進会議に参加し、高齢者福祉、地域福祉の専門職の立場から事業者、ご家族への助言を行うとともに、地域関係者とのネットワーク構築を図る。 関係団体や行政の主催する外部研修に積極的に参加し、専門職としての技能向上を図る。 	<p>前年度に引き続き、地域の催事等に継続参加し、あんしんケアセンターの周知活動等を実施。区民祭りで毎年行っている「あんしんケアセンターを知っている方」のアンケートでは、当センター担当圏域内に居住している60代以上の周知率がH28年の71.8%からH29年は82.1%と上昇が見られ、地域高齢者への周知が進んだことが伺えた。また、今年度は初めて訪問する自治会や老人会もあり、細部への周知活動を行う事ができた。各運営推進会議は欠席無く参加し、事業者のみならず地域住民との交流やセンター活動の周知機会として、有意義に活用する事ができた。</p>		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 大宮台		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	17,404			
	高齢者人口	7,816			
	高齢化率	44.91%			
担当圏域 地区課題	高齢化率40%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症（疑い）の方が増えている。圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くないため、生活に支障が出ている。集落が点在している地域特性があり、何らかのニーズを持っていてもサービスにつながっていないなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。				
活動方針	各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組みます。				
セ ン タ ー 業 務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協や民生委員等の関係団体や生活支援コーディネーターなどと連携し、住民主体の集いの場やインフォーマルサービス等を把握し、情報の周知に努める。 適切なアセスメントを実施し、個々のニーズに合った活動につなげる。 健康課や若葉いきいきプラザ、大宮いきいきセンターと連携を図る。 【区内センターとの合同開催】 <ul style="list-style-type: none"> 健康課主催保健師職会議に出席する（4月・12月）。 		<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動に参加して、介護予防や認知症の啓蒙活動を行った。シニアリーダーの育成が進んだ。 シニアリーダー講座修了者による自主グループは5箇所が増え、少しずつではあるが地域に定着しつつある。参加者は健康意識が上がり、好評だった。 若葉区健康課や区内センターと連携し、介護予防活動に取り組むことができた。 訪問型・通所型サービスB、通所型サービスCの利用者はいないが、一般介護予防事業や自主サークルにつなげた。事業対象者の把握やアセスメント、アプローチが適切に行えているか検討していきたい。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 3職種が連携し、適切に対応する。迅速対応を心掛け、複数人で関わるように取り組む。 必要に応じて適切な専門機関や制度、サービス等につなげる。その後の経過を把握しフォローする。 認知症疾患医療センターと連携を図る。 地域密着型サービスの運営推進会議に出席する。 【区内センターとの合同開催】 <ul style="list-style-type: none"> 若葉区多職種連携会議を開催する（年2回/7月・1月）。 若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）を開催する（年2回/9月・2月）。主任介護支援専門員会議を開催（随時）。 若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催する（年3回/6月・10月・2月）。社会福祉士会議を開催（随時）。 		<ul style="list-style-type: none"> 相談には迅速対応を心掛け、3職種が連携し、複数人で関わるように取り組んだ。必要に応じて適切な専門機関や制度、サービス等につなげ、その後の経過を把握しフォローした。 地域密着型サービス運営推進会議には出来る限り出席するように努めた（グループホーム9事業所/計25回・デイサービス6事業所/計9回）。 若葉区多職種連携会議や若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）、若葉区ソーシャルワーカー連絡会は計画通り開催することができた。若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）や若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、講師を招いて内容の充実を図った。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 地区社協や民生委員、自治会等に向け、権利擁護について普及啓発活動を行う。 高齢者虐待の予防と早期発見・対応に努める。高齢支援班や他関係機関とそれぞれの役割を明確にし連携を図る。「千葉市高齢者虐待防止マニュアル」に従い適切に対応する。 成年後見制度や日常生活自立支援事業について、成年後見支援センターやNPO法人など関係機関との連携を図る。 消費生活センターや千葉東警察署と連携を図り、消費者被害情報の把握や対応を行う。 【区内センターとの合同開催】 <ul style="list-style-type: none"> 千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会を開催する（年1回/5月）。 若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催する（年3回/6月・10月・2月）。社会福祉士会議を開催（随時）。 		<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護については、社会福祉士が中心となり対応しているが、必要に応じて保健師や主任介護支援専門員が同行訪問するなど、協働して取り組んでいる。高齢支援班とは相談しやすい関係が築けており、連携して対応できている。今年度は市長申立ての支援も行った。 高齢者虐待については施設やサービス事業所、介護支援専門員など、様々なところから相談が入っており、周知は進んでいると感じる。 若葉区内介護サービス事業者対象に、今年度も「千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会」を開催することができた。 若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、区内センターの社会福祉士等と協力し、計画どおり開催できている。生活支援コーディネーターや中核地域生活支援センター、精神科ソーシャルワーカーを講師を招き、内容の充実を図った。 定例会や講演会などの機会に、権利擁護に関して話をするようにしているが、積極的に普及啓発を行えているとは言えない。啓発活動として、今年度はケアマネ茶話会において振り込め詐欺の情報提供を行ったが、地域ケア会議や地域活動などの集まりの場において普及啓発を行っていきたい。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 困難事例について地域ケア会議を開催する（随時）。ケアマネジメント支援のための地域ケア会議を開催する（年1回）。 圏域（地区）毎の地域ケア会議を開催する（年1回）。 圏域内介護支援専門員に茶話会を開催する（年3回）。 【区内センターとの合同開催】 <ul style="list-style-type: none"> 若葉区地域ケア会議を開催する（年1回/11月）。 定例地域ケア会議を開催する（月1回）。 若葉区多職種連携会議を開催する（年2回/7月・1月）。 介護サービス事業者向け研修会「ケアとケアの基礎固め」を開催する（年3回/6月・10月・12月）。 若葉区介護支援専門員連絡会（事例検討）を開催する（年2回/9月・2月）。主任介護支援専門員会議を開催（随時）。 管理者会議を開催する（随時）。 若葉区支え合いのまち推進協議会に出席する（年4回）。 		<ul style="list-style-type: none"> 圏域内の介護支援専門員に対する茶話会については計画通り開催することができ、介護支援専門員からの相談が増えている。 担当圏域における、「ケアマネジメント支援のための地域ケア会議」の開催はなかった。 白井地区における地域ケア会議の開催に向け、社協地区部会の方々と話し合ったが、今年度の開催に至らなかった。来年度、白井地区におけるネットワークの構築、課題の分析・共有に向けた地区ケア会議を開催する。 若葉区地域ケア会議と若葉区多職種連携会議、定例地域ケア会議、研修会等については、区内センターと連携して実施できた。若葉区地域ケア会議については、今年度事務局として関係機関と連携を図った。 若葉区介護支援専門員連絡会については、千葉県介護支援専門員指導者や精神科医師を講師に招き、事例検討をより専門的に行うことができた。 介護サービス事業者向け研修会「ケアとケアの基礎固め」を開催することができなかった。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や中学生等に向けた認知症サポーター養成講座を開催する。 地域の高齢者に向け、あんしんケアセンターにて「お達者カフェ」を開催する（月1回）。 民生委員定例会や自治会活動、ふれあい・いきいきサロン等に参加し、講演会や説明会を開催する。 大宮いきいきセンター生きがい活動支援通所事業の参加者に対し講演会を行う。 【区内センターとの合同開催】 <ul style="list-style-type: none"> 若葉区民まつりに参加し、介護予防の普及啓発を行う（11月）。 		<ul style="list-style-type: none"> 中学生に向けて、寸劇等を用いた認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する理解を深めることができた。中学校職員や社協地区部会の方々、高齢障害支援課、千葉市と協力して行った。 地域住民に向けての認知症サポーター養成講座の開催がなかったため、地域や団体を検討する必要がある。 「お達者カフェ」の参加人数が減少傾向にあったが、町内のブロック毎にチラシを配布したことで新規の参加者が増えた。 昨年度、大宮地区での取り組みが少なかったため、民生委員や自治会役員に向けた説明会を開催したり、一般高齢者向けに講演会を開催したり、積極的に取り組んだ。大宮いきいきセンターの生きがい活動支援通所事業の参加者に対する講演会（教養講座）も、今年度は開催することができた。 その他の地域においても、いきいきふれあいサロンや地域行事に出向き講演会を実施した。健康課や生活支援コーディネーターと協力して行うことができた。 若葉区民まつりについては、区内センターと協力し周知活動を行った。 	
地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者に向け、大宮いきいきセンターにて「元気アップOB会」（月2回）と「にこにこクラブ」（月2回）を開催する。今後も自主サークルに向けた支援を継続する。 シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークル、大宮地区の「あやめ会」、白井地区の「シニア体操白井」を支援する。 新たに大宮町と新宮田地域で自主サークルを立ち上げる。 自主サークルの立ち上げや継続的な活動支援を行う。 地域でリーダーとなる人材を発掘する。 		<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンター主催の「元気アップOB会」、「にこにこクラブ」は計画通り開催できた。参加者は「元気アップOB会」が延べ169名、「にこにこクラブ」が延べ115名と、多くの参加が見られた（平成29年4月～30年2月19日時点）。 シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークルは5団体に増え、定期的に訪問して後方支援を行っている。参加者は「あやめ会」が延べ75名、「シニア体操白井」が延べ89名、「大宮町親睦会」が延べ91名、「シニア体操高根」が延べ83名、「スマイル大宮台」が延べ32名だった（平成29年4月～30年2月19日時点）。 新宮田地域については、月1回ふれあいサロンが開催され、体操や脳トレなど自主的な活動を行えているので、引き続き後方支援を行うこととした。多部田町地区については検討中。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案する。 特定のサービス事業所の利用を不当に誘引しない。 サービスごとにファイルを作成し、事業所のパンフレット等を整理する。 		<ul style="list-style-type: none"> あんしんケアセンターの運営費用が、税金や介護保険料によって賄われていることを理解し取り組んだ。 適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。 自己決定できるように、複数のサービス事業所を紹介した。 特定の種類又は特定のサービス事業者に偏ることなく、公正・中立性を確保することができた。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 鎌取		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
	担当圏域	圏域人口	60,524		
担当圏域 地区概況	高年齢者人口	9,106			
	高齢化率	15.05%			
担当圏域 地区課題	<p>1. 地域特性は鎌取駅を中心とした繁華街、住宅街、古くからの農村地帯、昭和50年から60年代に建設された公営住宅5か所など多岐に渡る。</p> <p>2. 高齢化率は千葉市内で最も低く14.8%だが、高齢者人口は8,900と多く、市内では11番目である。呼び寄せ高齢者が多く、今後も増加の傾向にある。(平成28年12月時点)</p> <p>3. 独居高齢者、高齢者世帯、地域との関係が希薄化した世帯の増加により、サービスの導入が遅くなり状態の悪化や、重篤化する恐れがある。</p> <p>4. 家族介護や地域の連帯感の意識はバラつきがある。地域における見守りや支援体制にも地域により、差が生じている。</p>				
活動方針	<p>1. 圏域の人口は6万人と非常に多いため、より詳細に各地区の特性と課題の把握に努め、地域包括ケアシステムの構築を目指す。手段として地域課題に応じた地域ケア会議を開催する。</p> <p>2. 後期高齢者の割合は6%と低いため、要介護状態に陥らないよう外出の場やサロン、体操教室等をアプローチするほか、健康への関心を高めていく。</p> <p>3. 認知症サポーターの養成を進めて、地域全体で認知症に対する理解を深める。権利侵害を予防するため、成年後見制度の啓発活動も行っていく。</p> <p>4. 地域ケア会議の開催を通して、新たなネットワークの形成やケアマネジャーの後方支援、自立支援に資するケアマネジメントの実践を図る。</p>				
セ ン タ ー 業 務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<p>①生活支援コーディネーターや住民主体の活動団体、関係者らとの連携を図り、健康への意識を確認し、予防的な介入、自立支援に向けた支援方法を働きかける。</p> <p>②対象者に介護予防を意識付け、自主的に「参加」「活動」できるよう関わっていく。制度の移行や対象者の状態変化時にも、一連の支援が継ぎ目なく継続されるように努める。</p>		<p>①生活支援コーディネーターや地域の活動団体など関わる中で、地域についての豊富な情報を得る事ができ、それぞれの地域のアセスメントができた。そのアセスメントをもとに、地域への介入方法について考えることはできたが、地域住民の自立に向けた支援が十分にできていなかった。従って、次年度は今年度のアセスメントを踏まえ、具体的な活動へ繋げられると考えられる為、生活コーディネーターや地域の団体などと連携を図りながら、活動していく。</p> <p>②今年度は要支援者に対するサービスの一部が総合事業への移行期であった。スムーズな移行のため、今後のサービス充足が課題となっている。短期集中型サービスにおいても終了者の受け皿がないため、住民主体サービスの拡充は、継続した介護予防に取り組むため、訪問、通所共に必要であるが、その必要性について地域住民に対する動機付けをいかに行うかが課題となる。地域資源の開発を目的に、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会など、関係機関との連携を強めていきたい。</p>	
	総合相談支援	<p>①3職種で課題整理、リスク、方針を共有する。困難事例に関しては、関係機関とのネットワークを活かしながら、状況を判断して個別のケア会議を開催し、適切な相談対応を行う。</p> <p>②緑保健福祉センター各課や各関係機関・地域資源となる団体を把握し、関係者とのネットワークを構築する。</p> <p>③民生委員の定例会やサロン等へ参加し、日頃より相談しやすい関係を作ると共に、生活不安のある高齢者宅を訪問し、早期支援につなげる。</p> <p>④総合相談内容を分析するほか、地域代表者等からも、地域の情報を収集して特徴をつかみ、更に地域の関係者や住民、ケアマネジャーなどへの情報発信に努める。関係者と共に地域課題に取り組んでいくための地域ケア会議を年2回開催する。</p>		<p>①適切な相談対応を行うため、知識・技術の向上に努めるほか、三職種間での情報共有を図りながら対応に関する標準化を心がけた。次年度介護保険改正も行われるため、適宜情報収集を行いながら、適切な支援ができるよう努めていく。</p> <p>②日常の相談対応での連携のみならず、地域ケア会議や事例検討会など、お互いに顔を合わせながら課題解決に向けた話し合いを行うことで、地域包括ケアシステムの構築に努めた。特に、地域の障害福祉サービス事業所を交えた地域ケア会議を通じ、個別事例から導き出される地域課題について、その課題に応じた専門職と協議することが新たなネットワーク構築に繋がるということを改めて感じる事ができた。今後も同様の手法にて地域包括ケアシステム構築に向けた専門職間の連携強化を図っていきたい。</p> <p>③自治会長会議や民生委員児童委員協議会及びその他の地域活動に参加してきた結果、センターの周知が進み相談件数の増加に繋がったと考えられる。圏域においては介入が不足している地域もあることから、周知活動等の範囲を広げ、適切な支援に繋がるように努めたい。</p> <p>④今年度得られたリハパートナーの協力は、地域リハビリテーションという観点から今後も必要と考えられる。地域介入についても多職種連携を意識し、様々な専門職の意見を取り入れるとともに、専門職と地域住民とを結びつけながら、地域共生社会の実現に向けたネットワーク構築を目指す。</p>	
	権利擁護	<p>①緑区高齢支援班と緑区あんしん3センターの社会福祉士との虐待対応連絡会は毎月開催する。3センター3職種が出席する虐待勉強会は年3回開催し、対応のスキルアップを図る。虐待について地域住民に継続して啓発を行うほか、3センター社会福祉士が企画した虐待勉強会を緑区内サービス事業所に対し行う。</p> <p>②認知症にかかわる支援を行う際は、常に権利擁護の意識を持ち、成年後見制度の利用も視野に入れた対応を心がける。</p> <p>③消費者センターなどから定期的に情報収集を行い、サロンや訪問先などで注意喚起を行う。警察や消費生活センターの協力を得て、高齢者の権利侵害についてサービス事業者や地域住民へ啓発する体制を整える。</p>		<p>①高齢者虐待に関する対応では、緑区高齢支援班との連携を密に、迅速な対応に心掛けている。毎月開催している虐待連絡会においても、対応案件に関する情報共有をはじめ、対応に関する検討や意見交換を行うことで職員のスキルアップに繋がっている。</p> <p>②成年後見制度や日常生活自立支援事業など権利擁護に関する市民の関心は高まっており、窓口での相談も徐々にではあるが増えてきている。総合相談では、常に権利擁護の意識を持ち、制度が有効に活用できるよう説明をするとともに、必要に応じて成年後見支援センターに繋ぐことで、判断能力が不十分となっても住み慣れた地域で安心して暮らしているよう支援を行っている。また、昨年度に引き続き、成年後見支援センターとの共催で権利擁護に関する講演会を開催したところ、参加者が1.5倍と増加した。また、改めて講演会の開催を望む声も寄せられていることから、来年度の講演会の開催についても検討をしていく。</p> <p>③地域サロン・イオン鎌取イベントスペースでの講演会など様々な機会を捉え、消費者被害に関する注意喚起等を行ってきた。今後も千葉南警察署や千葉市消費生活センター等との連携を通じ、地域の情報を把握し、消費者被害を未然に防げるよう情報発信を行っていく。</p>	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<p>①多職種連携会議や地域ケア会議の開催により、各機関の役割の確認や情報共有を行い、連携を強化する。また、緑区あんしん3センター共催で緑区合同講演会を開催し、介護サービス事業所職員のスキルアップを支援する。更に民生委員や自治会に対し総合事業など新たな制度に対しての情報を発信する機会を作り、地域の支援体制を充実させる。</p> <p>②事例検討会をあんしん菅田と共催で年4回、鎌取圏域ケアマネ連絡会を年2回、緑区あんしん3センターで緑区合同ケアマネ勉強会を年2回、緑区主任ケアマネ連絡会を年3回実施する。更に新人ケアマネ向けの研修会の運営等を通じ、居宅主任ケアマネの意識及び実践力向上を図る。圏域の居宅支援事業所のケアマネジャーに対しアンケート調査を行い、課題等を把握し、その内容を研修会の企画及び地域ケア会議へ反映していく。</p>		<p>①地域包括ケアシステム推進のための専門職に関する支援は、研修の機会などを通じ他職種を繋ぐ役割を担い、新たな関係作りの一助となっている。それにより職種ごとの役割の違いや連携することにより得られる効果などの理解が徐々に深められている。</p> <p>②介護支援専門員等に対する研修は年間を通じ予定通り開催できた。介護支援専門員の抱える課題については研修時のアンケート結果や、介護支援専門員の声を汲みとることにより把握している。それを活かし研修会の企画・運営を行い、課題に対応できる実践力を養う機会とした。居宅主任ケアマネの責務に関し啓発の機会を設け、事例検討会の企画・運営などあんしんケアセンターの主任ケアマネと協働することにより負担が増大しないように配慮しながら機会を重ね、研修会の講師など協力が得られ意識向上が図れている。</p>	
	介護予防普及啓発	<p>①健康度が自身で把握できるよう、緑いきいきプラザや健康課などと連携し、身体測定会の開催やセルフケアについてアドバイスする機会を年1回設ける。</p> <p>②介護予防の必要性について、町内自治会や老人会・サークルなどへ出張して講演する。民生委員、町内自治会長へ出席して、地域のキーパーソンへの説明会を実施する。必要な情報提供を行うため、あんしん主催の講演会や相談会を行う。</p>		<p>①センター主催の健康測定会では基本チェックリストを実施するだけでなく、健康講座を併せておこなうことで、参加者の介護予防に対する意識づけを図った。その結果、健康意識を高めることに繋がったと考えられるが、今後もセルフケアについて各自で取り組めるような働きかけが必要と考えられる。そのため、効果的かつ継続的にセルフケアに取り組んでもらうためにはどのような方法があるかを地域住民やそれに関わる専門職と話し合い、圏域内における介護予防活動が活発に行われるよう支援していく。また生実県営住宅で企画した健康測定会の取組みは地域介入における多職種連携の一例として、千葉県千葉リハビリテーションセンター主催の地域リハ・フォーラムにてポスター発表を行った。このことにより地域に携わるリハビリテーション専門職に、広くあんしんケアセンターの活動を周知することができたと考えられる。</p> <p>②講演会やミニ講座を実施したことで、地域における介護予防や健康増進について考えるきっかけとなったが、今後の具体的な活動には繋がられなかった。今後は、地域の問題点を把握し、そこから地域に何が必要であるかをアセスメントし、実施可能な具体的方法を自治会長や民生委員、関連する専門職などと考えていく必要がある。また昨年と比較すると介護予防に関する講演会やミニ講座の開催を望む声が増えた。地域住民の介護予防に対する関心の高まりと考えられるがその都度対応した結果、介入について地域差が生じる結果となった。次年度以降の課題として、他の地域でも介護予防に関する啓発を積極的に行っていきたい。</p>	
地域介護支援	<p>①社会福祉協議会緑区事務所を窓口とし民生委員や自治会、サロン、各種サークル、また見守り活動等の関係者に住民主体の活動の必要性の理解をすすめて、互助活動の促進を図る。</p> <p>②既存のサロンやサークル・シニアリーダー教室や千葉市いきいき体操などに出席し顔の見える関係を構築する。元気高齢者は活動の場でその個人の特性を生かした役割がもてるよう、活動の場に向き共に考える。活動団体と連携を図りながら継続した支援を展開する。</p>		<p>①地域のサロンや見守り活動団体と顔の見える関係性を構築するため会合に参加し、介護予防や権利擁護、地域活動に関する情報の発信に努めてきた。今後はあんしんケアセンターからの情報発信は基より、地域課題が発信される生きた情報源であるとの認識に立ち、更なる連携を進めていきたい。また、民生委員や地域自治会等の集まりにも参加し、地域の情報収集や実態把握を行い、地域包括ケアシステムの構築に向けた連携を進めていく。</p> <p>②地域住民との関係性は徐々に築けてきているが、地域住民が個々に抱く思いや今後の希望などを踏まえた地域ニーズの把握が十分にできなかった。また様々な健康測定会に関わった中から、改めて住民主体の介護予防の必要性を感じているが、関係性の希薄さが課題となる地域もあることから、地域特性に応じた対応を行っていく。</p>		
その他	<p>①予防プランの委託やサービス事業所の選定に当たり相談者の希望やニーズを把握し、公正・中立を意識する。個人情報保護マニュアルの確認を継続する。</p> <p>②28年度に実施した利用者満足度アンケートを基に、内部研修を行い、質の向上を目指す。</p> <p>③3職種がみかんの会に参加し、活動する。認知症サポーター養成講座を学校、各種団体等に向け開催する。</p>		<p>①公正・中立・個人情報保護の徹底を図り、公的機関としての適切な事業運営に努めた。</p> <p>②業務の効率化と、相談対応の標準化を図るため、施設リストや福祉用具事業所マップを作成した。またそれらを相談者にお渡しすることで、利用者の選択に基づいたサービス利用に繋げることができた。</p> <p>③様々な団体に対し、認知症サポーター養成講座を開催したことで、認知症に対する理解者を増やすことができた。今後はみかんの会で取り組んでいる認知症徘徊模擬訓練を実施し、地域で認知症を支援できるような仕組みづくりに努めたい。</p>		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 誉田		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(1) 人	(1) 人	(2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	22,517			
	高齢者人口	6,092			
	高齢化率	27.06%			
担当圏域 地区課題	1. 圏域は誉田中学校区と同一の4町で構成され、緑区中心部から離れていて行政の窓口（出張所含め）が遠い 2. 駅周辺を除くと、交通の便が悪く、元気な高齢者であっても外出がしにくくなる 3. 社協や町内会の活動は続いているが、新しい活動やNPOが育ちにくい				
活動方針	1. 複数の課題を抱えた住民の課題解決に向けて、包括的な支援を行う 2. 介護予防の啓発や活動支援を行い、自立した生活が維持できるような環境を作り出す 3. より多重的・多面的な支援を提供できるよう、連携機関を増やしていく				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	1-1. 地域の資源や情報を的確につかむ。 2-1. 利用対象者に対して、その人らしい暮らし・活動ができるように、介護予防支援・インフォーマル支援を活用し、マネジメントする。		自立支援を目指してケアプラン作成を行っているが、充分であるかどうかの評価は難しい。地域に、今後住民主体のサービスが増えていくのかどうか、難しい現実があると考えられるが、住民とともに考えて行けるようにしたい。	
	総合相談支援	1-1. 相談窓口としての広報を、地域全体にさらに進める。自治会や民生委員・イベント等で働きかける。 2-1. 誉田あんしんネットワーク会議での検討や地域ケア会議の充実を図る。 2-2. 民生委員との連携を増やすため、会合等へ参加する。 2-3. 認知症の心配のある方は「認知症初期集中支援チーム」との連携を図る。		1. マンパワー不足もあり、業務全体では前年度からステップアップできなかったように思う。ただそのような中でも、これまでになく困難なケースへの対応を、住宅管理会社やスーパーなど多機関のチームで対応することができたことは良かったのではないかと。 2. 誉田あんしんネットワーク会議での事例検討は、参加者が地域などで支援を提供する（あるいは支援の必要な人を発見する）力を高められていると思う。 3. 多職種連携会議で「外出支援」について検討した。「地域課題についての検討は面白い」とか「さらに議論を深めるべきだ」などの声が寄せられ、予想以上に反響があった。	
	権利擁護	共通-1. 高齢者の子供世代への広報活動を行う。 1-1. 地域ケア会議を開き、関係者の理解を統一して対応にあたる。 1-2. 虐待対応連絡会のように顔のみえる関わりができる会議を継続する。 2-1. センターで担当している要支援の方に対して、訪問時などに、必要に応じて成年後見制度について周知する。 3-1. 虐待対応研修などを受講していない介護支援専門員と勉強会を開く。		1. 日常生活自立支援事業から成年後見制度の利用に移る方が数名おり、成年後見支援センターとの連携が多かった。申し立てにあたり、司法書士や弁護士、サービス事業所などと連携を取りながら制度の利用に結び付けている。センター3職種がかかわったため、センター内での理解も深まった。 2. 高齢者虐待の相談は少ない。毎月緑区高齢支援班との連絡会で事例検討を行っていたが、事例紹介にとどまっていたため、来年度はもう少し深めていきたい。また今年度初めて緑区3センター合同で講演会を行ったが、住民向けへの周知ができていないため、来年度は周知に向けた取り組みを実行したい。	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	1-1. 事例検討会や勉強会ではエコマップやジェノグラムを活用してアセスメント力を高める。 1-2. 民生委員・自治会との協働が図れるよう、顔を合わせる機会を多くする。 2-1. ケアマネジメント支援のための地域ケア会議などにおいて、助言者としての役割をもって参加に協力を仰ぐ。		1. 民生委員や自治会とケアマネが顔を合わせる場を作れなかったため、次年度はそのような場を作ろうと思う。またケアマネと地域住民との距離を近くするような企画も実行できなかったため、次年度は実施していきたい。 2. 圏域の居宅事業所が少なく、また事実上自法人サービス利用者みでのケアプランしか担当しない事業所もあり、ケアマネの力量を平均的に向上させることができなかった。 3. 業務に追われ、権威域内のケアマネ一人一人と丁寧に向き合うことができなかった。	
	介護予防普及	1-1. イベントへの参加、自治会やサロンへの訪問を増やす。体力測定・健康チェックなどを行って、喚起する。		イベントや集まりに参加する高齢者は、全体から見ると多くはないと考えられる。広報紙を回覧することや個別のアンケート調査によって、少しでも啓発できていくようにする。	
	地域介護予防支援	1-1. シニアリーダー養成講座を受ける人を探す。 1-2. 地域での教室が増えるように自治会・老人会等へ広報活動を行う。 2-1. 認知症サポーター養成講座を開き、地域での支え合いを育てる。 2-2. オレンジカフェを継続して、憩いの場の提供とボランティア育成をする。		住民主体の活動の場を増やしていくことを目指しているが、この地域で新しく活動の場を作っていくことは、なかなか難しいと思われる。自治会・老人会・サロン等の活動を、より活発にしていく支援を地道に行っていくことが必要だと思われる。	
	その他	1. 地域ケア会議の必要性和効果の周知を図る。 2. 事業所の情報を提供する。		1. 地域ケア会議は、もっと開催したかったが、民生委員やケアマネは忙しく、「度々声をかけられても…」との声もあり、躊躇することがあった。もっと小規模で、気軽に意見交換のできる会議としていくことが必要だと感じた。 2. 「中立・公正な立場に立つ」という意識は常に持つことができているが、圏域には事業所が少ないうえに、総合事業に対応する事業所が極端に少ないことなどから、偏りも見られた。	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 土気		主任介護支援専門員	社会福祉士	保健師等
			(3) 人	(2) 人	(1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	45,361			
	高齢者人口	11,981			
	高齢化率	26.41%			
担当圏域 地区課題	一部の地区は近年宅地開発され、子育て世代が移り住み、高齢化率が10%に満たない地区もあるが、圏域内の多くの地区で高齢化が進行し、高齢化率が45%を超える地区が複数ある。一人暮らしまたは高齢者のみの世帯も増加し、空き家も目立ってきている。孤独死の事例や老々介護をしている世帯も多く、介護保険や認知症に関する相談件数も増加をしている。また、支援が必要な高齢者の同居家族が精神障害や疾病等を抱えていたり、経済的に困窮していたり等複合した課題を抱える世帯の相談も増加している。世帯全体を支援していく体制の整備や地域で高齢者等の見守りや互いに助け合える地域づくりが必要となっている。圏域内に入院可能な医療機関が一家所しかなく、総合病院ではない為、他区や市外の医療機関へ入院や通院をしなければならない状況にある。圏域全体に交通手段の利便性が悪く、通院や買い物等移動に困っている高齢者が多い。				
活動方針	医療・介護関係機関や保健福祉センター等の行政機関、地域の活動団体と連携し、地域包括ケアシステムの構築、推進を図る。				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	利用対象者に対してアセスメントを実施し、適切で効果的なサービス利用に繋げる為に、関係者間での情報共有、評価を行う。地域の中での孤立や閉じこもり予防、社会参加、生きがいづくり等についても配慮し、住民主体の集いの場やその他地域のインフォーマルサービス等の情報収集、発信を行い、個々のニーズに合わせて活用し、マネジメントをしていく。ケアマネジメント実施にあたり一連の流れについてセンター内で再確認を行い、介護予防支援と一体的に提供ができるように配慮するとともに、住民主体の通いの場の情報収集を行い、利用を推進する。		<ul style="list-style-type: none"> 総合事業への移行に伴い、年度当初はセンター職員及び委託している居宅介護支援専門員の制度理解があまりできておらず、混乱することもあったが、その都度確認しながら対応し、制度理解を深めている。 圏域の介護支援専門員に対し総合事業に関する説明やプランの立て方等、勉強会を2度開催しており、総合事業や介護予防プランについて理解を深める活動を行った。 生活援助型訪問サービスについて対応が可能な事業所が限られており、今後受け入れが困難となる可能性があるため、対応を検討していく必要がある。 	
	総合相談支援	民児協の定例会や自治会や社協地区部会の会合等地域の関係者が集まる場へ出向き、顔の見える関係づくりを継続して行い、相談しやすい体制をつくる。これまで蓄積した相談データについて地区別の相談件数、相談内容等の分析や地区診断を行い、地域の関係者へフィードバックし、地域の現状や課題を共有し、課題の解決に向けた地域ケア会議開催していく(年11回)総合相談についてはセンター内ミーティングで共有し、緊急性の判断や支援方針を検討し、チームで支援をしていく。必要に応じて関係機関と連携し、個別ケース会議や地域ケア会議を実施し、課題解決に向け取り組む。警察や消防等の専門機関やスーパーや商店、コンビニ等様々な関係者とのネットワーク構築を図る。		<ul style="list-style-type: none"> 圏域内4つの民児協定例会へ出席し、センターの周知と活動報告を行うとともに意見交換を行うことができ、民生委員との顔の見える関係づくりが継続的に進められた。 スーパーへの訪問については一部実施でき、今後の事業への協力等いただけることになり、つながりができた。 総合相談においては、65歳未満の方の相談や複数の課題を抱える高齢者も多く、相談支援に関して、センター三職種複数職員での対応等チームでの支援を心掛け、対応した。 ケースの状況に応じて保健福祉センター関係課や警察、医療機関、民生委員等地域の関係者ともケース会議や地域ケア会議等実施し、課題解決の為に協働し対応している。 認知症や精神疾患が疑われるが医療に繋がっていないケースや、医療や介護サービスには繋がっていても精神症状が不安定な高齢者の支援等対応に苦慮するケースも増えている。 	
	権利擁護	高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止について、民生委員や介護支援専門員等地域の関係機関に対し啓発活動を行う。高齢者虐待の早期発見・対応に努め、相談を受けた場合には千葉市高齢者虐待防止マニュアルに沿って、区担当者や連携を図り、迅速かつ適切な対応を行う。区担当者や緑区内あんしん社会福祉士で虐待対応連絡会を開催し、虐待ケースの情報共有と対応方法を検討する。(年12回)緑区内あんしん三職種合同で権利擁護に関する勉強会(年3回)居宅サービス事業所向けの高齢者虐待に関する研修会(年1回)高齢者の状況に応じて、区担当者や成年後見支援センター等と連携し、成年後見制度や日常生活自立支援事業利用に繋げる。消費者被害を発見した場合には消費生活センターや警察等と連携し対応する。		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止について民生委員等の地域の関係者が集う会議や地域の介護支援専門員や居宅サービス事業所に対して研修会を企画し、啓発活動を実施した。 高齢者虐待に関する相談に対し、区高齢障害支援課担当者や連携し情報収集及び事実確認の為に訪問、個別ケース会議を実施し、対応方法を検討し対応を行った。緊急性が高く、保護分離が必要と判断したケースについては一時保護し、高齢者の安全を確保したケースもあった。対応の中で保護の判断が遅くなってしまったケースもあり、緊急性の判断を行うための根拠となる事実の確認を丁寧に行っていく必要がある。 区高齢障害支援課と月1度虐待連絡会を実施し、ケースの情報共有を行い、日頃から連携がとりやすい体制がとれている。 成年後見制度についてはスクリーニングし、必要と思われる対象者について申立て等の助言や働きかけを行うが、申し立てまでに繋がらないケースが多い。 金銭管理が難しいが、判断能力がある方に対しては、日常生活自立支援事業に繋げている。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	地域ケア会議、多職種連携会議を開催し、医療・介護の連携強化及び関係機関、多職種協働による支援ネットワークを構築する。圏域地域ケア会議の開催(年11回)民生委員、区社協、社協地区部会、生活支援コーディネーター、介護支援専門員等と地区分析を行い、マップ等で可視化し、地域課題共有と資源開発に向け取り組む。地域の防災訓練等へ参加し、関係者との関係づくり及び災害時の対応や非常時の体制について学ぶ。ケアマネジメント支援の為に地域ケア会議(年1回以上)緑区多職種連携会議(年2回)圏域での開催に向けて検討。医療機関ソーシャルワーカーとの意見交換会(年1回以上)介護支援専門員、主任介護支援専門員を対象とした連絡会(研修会)や事例検討会の開催(年10回程度)居宅サービス事業所を対象にした研修会の開催(年2回)		<ul style="list-style-type: none"> 圏域の連絡会や勉強会、緑区3センター合同での勉強会や講演会など毎月1回は行い、スキルアップする意識のあるケアマネジャーは包括主催の勉強会などに積極的に出席されている。その反面、全く出席しない介護支援専門員に対してどのように底上げを行っていくのが常に課題である。 総合事業について、圏域では今年度5月と7月の2回に分けて勉強会を行い、混乱のないように圏域の介護支援専門員に理解してもらうようにした。現段階ではほぼ周知されている。 事例検討会については今年度は5回行っており、司会・進行等、圏域居宅の主任介護支援専門員にお願いしているが、あんしんがすべて段取り、準備をしているので来年度からは居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員2事業所ずつぐらいで企画運営できないか検討していく。 2月に圏域のケアマネ連絡会にて、区の障害支援班や千葉市障害福祉課にも参加して頂き、相談支援専門員と介護支援専門員とで障害福祉についてグループワークを行い、介護保険制度、障害福祉制度それぞれの制度に理解を深めることができた。1回限りで終わるのではなく、来年度も継続して障害の相談支援専門員と介護支援専門員が交流できる機会を作りたい。 	
	介護予防普及啓発	健康相談会の開催(年12回)そのうち2回は足指力測定・骨密度測定を行う予定。体操教室の開催(年12回)介護予防や健康増進に関するミニ講話も併せて行う。いきいきサロンへ訪問し、健康づくりや介護予防に関する講話や体操など参加者のニーズに合わせて実施する。圏域内にある二か所のいきいきセンターで介護予防等に関する講演会を開催予定。(内容については担当者と検討予定)緑区ふるさとまつりへの参加。ラジオ体操週3回を継続実施。広報誌を作成、地域住民へ介護予防に関する内容について普及啓発を図る。(年2回)社協、生活支援コーディネーターと連携しサロンや自主グループ等の地域資源を情報収集し、住民に提供できる体制を整える。		<ul style="list-style-type: none"> 健康相談はなじみの顔ぶれが増え、交流の場にもなってきている。しかし総合相談の件数も年々増加している状況であり、健康相談会の途中にも相談が入ることも増えてきたため、時間帯によっては手狭な事務所内での開催場所の確保・職員の対応に苦慮している。サロン訪問時にあんしんケアセンターの紹介を行った際、場所はわかっている中に入りにくい、という意見が多く聞かれたため、健康相談会をあんしんケアセンター事務所内で実施することにより、中に入るきっかけづくりや職員の顔を知ってもらうことも大きな目的の一つとしている。健康相談も継続でき、総合相談の場所の確保もできるような方法を検討していきたい。 一方で健康相談会に来られる方は土気駅周辺の方が中心であり顔ぶれも固定化してきている。さらにあんしんケアセンターの周知や介護予防普及啓発ができるよう、人の多く集まる場所での出張健康相談会の実施を検討中である。 今後短期リハビリ型通所介護が継続して行われることとなった場合、期間終了後の外出や運動の機会となる場が地域の中にもますます必要となる。土気地区はそういった場が駅周辺に集中しており、住宅街の中にはほとんどない現状である。新たな場の立ち上げへの支援を行ってほしい。 	
	地域介護予防活動支援	緑区支え合いのまち推進協議会への参加や、見守り活動や助け合い活動を行う団体の会合へ参加し、連携体制を構築する。千葉市いきいき体操を行う自主グループの活動のサポートを行い、地域で広がっていく仕組みづくりについて検討する。学校や地域の関係団体と連携し、認知症サポーター養成講座を行う。認知症の人やその家族(介護者)が気軽に集える場づくり。「カフェたんぼぼ」の運営支援を継続して行う。(年12回)「介護カフェ」の運営支援(年6回)地域のお寺等と連携し、歩いて行ける通いの場の創出を検討。ちばしいいきいき体操やシニアリーダーなどのツールが活用できるよう健康課やシニアリーダーとも連携を図っていく。		土気圏域内には他地区と比較すると社協土気地区部会が運営するサロンが多くあり、すでに活動が10年を越えているところも多く、内容は各サロンによって様々。各々工夫をされ参加者のニーズに合わせた企画を取り入れておられる。しかし、新しい参加者がなかなか増えない、ボランティアの高齢化、新しいボランティアも増えない等の課題がある。シニアリーダー教室は土気地区で5か所開催、うち一か所はサービス付き高齢者住宅の食堂での開催が開始した。入居中の方のみではなく、近隣の住民も参加できる形で施設を利用。こういった取り組みは土気地区では初めてであるため、今後の参考にしていきたい。その他多くの集いの場があり、それぞれに悩みや課題を持ちながら工夫をされている。今後そのような団体がお互いの活動について知り、様々な取り組みや工夫を共有することで、それぞれの場に活用できるようなアイデアにつながるのではと思われる。来年度以降で、集いの場を運営している方が集まれる場の開催を検討していきたいと考えている。当センターへの認知症に関する相談件数も年々増加している。認知症対策として認知症カフェ運営の後方支援を継続。またさらに認知症への理解を深める目的で土気地区内でも高齢化率の高い大椎台地区において認知症徘徊模擬訓練の実施を検討中。大椎台自治会・福祉委員会と実施に向けて準備を行っている。	
	その他	居宅介護支援事業所やサービス提供事業所の紹介にあたっては利用者のニーズ、希望を最優先に考え、不当に偏ることがないようにする。紹介台帳を作成し、職員が可視化できるようにすることで公平性を保てるようにする。相談内容が複雑、多様化してきており、職員個々の業務知識習得や相談援助技術の向上の為に、各種研修に積極的に参加する。		<ul style="list-style-type: none"> 市の委託機関であり公的な機関であることを常に意識し、公平中立性を保つようとしたが、利用者の希望やニーズを優先し、一部利用する割合が多くなった事業所があったため、引き続き公平性を意識し業務にあたりたい。 各種研修会等に積極的に参加し、業務知識の習得と、スキルアップを図ることができ、職員の資質向上につながった。 	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 真砂		
	主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	24,861	
	高齢者人口	7,630	
	高齢化率	30.69%	
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居・高齢世帯が多く、その中でも新しく転入する人（呼び寄せ高齢者・外国人等も含む）が増えてきている。このため近隣との交流が希薄なため問題が潜在化しやすい。 ・ エレベーターのない高層住宅が多数あり、外出が困難となり高齢者の閉じこもりが問題となっている。 ・ 圏域に医療機関及び介護サービス事業所が少ないため、在宅医療や自立支援に向けた社会資源の選択に懸念がある。 		
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な高齢者の早期発見に努め、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援につなげる。 ・ 地域包括ケアシステムの推進に向けて、新たな社会資源の発掘や地域の関係機関や関係団体とのネットワーク構築を図る。 ・ 総合事業利用対象者に対し、適切なサービスが効果的に提供されるよう必要な援助を行う。 		
項目	具体的な活動計画	自己評価	
センター業務	第1号介護予防 支援事業	<p>①基本チェックリストを活用し、介護予防事業や住民主体のサービスやインフォーマルサービス等、個々のニーズに合わせたサービスを提案し利用に繋げる。</p> <p>②行政・生活支援コーディネーター・社会福祉協議会等と連携し住民主体の活動の場やインフォーマルサービスについての情報収集を行いネットワークを構築し、高齢者が地域活動に参加できるよう情報を提供する。</p> <p>③市や関係機関が開催する総合事業に関する研修会に参加し、制度への理解を深めると共に、地域住民や介護支援専門員、サービス事業所へ勉強会などを通じて情報提供、周知を行う。</p>	
	総合相談支援	<p>①朝礼時のミーティングで、相談ケースの情報を共有すると共に、必要に応じて個別ケース会議を行い、早期の問題解決に取り組んでいく。総合相談機能の向上を図るため、市や関係機関が主催する研修や勉強会に積極的に参加する。また事業所内で伝達研修を行いセンター職員全員が内容を共有する。</p> <p>②相談の多い地域の課題を把握し、必要に応じて地域ケア会議を開催。関係機関と連携し、課題解決に取り組んでいく。</p> <p>③地域の様々な社会資源を把握し連携する。地域の高齢者への個別訪問や住民や民生委員からの情報収集等により、地域の実態把握を行う。</p>	
	権利擁護	<p>①美浜区内あんしんケアセンター社会福祉士主催で権利擁護に関する勉強会を開催し、あんしん職員のスキルアップを図る。</p> <p>②美浜区高齢障害支援課や警察・消防署と連携し、千葉市高齢者虐待防止マニュアルに準じ、タイミングを逃さず適切な支援を行う。</p> <p>③地域住民やサービス事業所に対し、成年後見制度の講座を開催し周知に努める。</p> <p>④消費者被害を未然に防止するために、警察や消費生活センターと連携し、被害に関する情報を把握し、サロンや個別訪問において消費者被害に関わる内容と防止策についての情報を提供する。</p>	
センター業務	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<p>①10月に個別事例を通じて、高齢者の抱える問題について地域ケア会議を開催し、住民や各団体、専門職が「自分たちが今出来ること」について話し合い、課題を共有することができた。虐待の可能性についての気付き、支援窓口への通報等、色々な立場から柔軟な考え方で関わることが可能であり、地域の温かい見守りが必要であるとまとめられた。</p> <p>②圏域のCM連絡会を後期は10・12・3月と3回実施することができた。11月にあんしん4センター主任CMにより美浜区CM研修会を開催した。CM連絡会の開催回数は計画していたが、今回のテーマについては連絡会の中でCMに意見を求める形であった。圏域のCMにアンケートを実施して、CM連絡会、研修会についての希望、要望を把握し、事前に圏域のCMの意向を踏まえた年度の事業計画とした。</p> <p>③介護予防ケアマネジメント手引きを基に委託先CMへ助言を行うことで、要支援者のケアマネジメントに関するCMの疑問解消や書類作成に関して統一感を得ることができた。</p> <p>④1月に行政・障害福祉サービス・介護サービスの関係機関で横断的な連携会議を開催し、障害者が高齢になり介護保険に移行する過程の課題や相談支援専門員の置かれている状況についての課題を共有できた。次年度も同様の連携会議を開催することになり有意義な取り組みであった。今年度3月の美浜区多職種連携会議の事例提供に繋がった。</p> <p>⑤介護支援専門員、サービス事業所、医療機関とのネットワーク構築が十分でなかった。あんしんとの関係は構築出来ていても、同業、多職種間のネットワークは緊密でない。住民関連においても自治会や民生委員の組織とのつながりは薄く、あんしんケアセンターから積極的な関わりを持っていない。住民組織との連携を深める為、今年度2月から新たに「真砂地区地域運営委員会」へ委員として定期的に参加し、地域の課題把握、取り組みについて理解、協働を進める。また地域の社会資源ネットワーク構築を推進するためのテーマ、素材として地域の社会資源マップの作成を次年度の取り組みとしたい。あんしんケアセンター単体で作成するのではなく、圏域の居宅介護支援事業所(有料老人ホームのCM含む)、介護サービス事業者、医療機関から委員を募り、マップ作成委員会を立ち上げ、作成の過程がネットワークの構築に繋がる取り組みに繋がりたい。</p> <p>⑥次年度は美浜区多職種連携会議の担当として地域包括ケアシステムの推進に寄与したい。</p>	
介護予防普及啓発	<p>①自治会・老人会・自主グループ等に向けて介護予防講座を実施し、介護予防に関する情報を提供する。また生活支援コーディネーターと連携し、それぞれの自治会の助け合い活動を把握し、地域の高齢者につなげていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あんしんケアセンター主催の体操教室の実施 ・ サロンぐるりの運営を行い、地域の高齢者との交流を図る ・ 4センター合同で美浜区フェスティバルに参加し、健康作りや介護予防の啓発を行う ・ 真砂いきいきセンターと連携を図り、認知症予防講座を開催する 	<p>①自治会・老人会・自主グループ等に向けて介護予防講座を実施し、介護予防に関する情報を提供することができた。生活支援コーディネーターと連携し、介護予防活動、助け合い活動を把握し、地域の高齢者につなげていくことができた。</p> <p>②あんしんケアセンター主催の「サロンぐるり」を10月体操会、1月新年会として開催し介護予防への普及啓発を行う。次年度は真砂第一団自治会と「誰でも、いつ来ても、いつ帰っても良い、参加費無し」で共催することが決定している。閉じこもりや繋がりを自ら拒否している方へ「出合い、集い」の場の一つとしての効果を期待したい。年間6回程度の開催を計画、体験・参加型のものを中心に、防災・防犯、健康に関する講和、お楽しみイベントなど自治会とも相談してテーマを企画する。いずれは自治会が自主的に運営できるよう働きかけを行う。</p> <p>③前期には千葉市の「美浜区民フェスティバル」へ美浜区あんしん4センターで参加し、健康づくり、介護予防をテーマに、後期は生活支援コーディネーターによる「美浜区ウエルフェスタ」に参加し、高齢者の相談窓口についてのミニセミナーと相談ブースを設置して真砂だけでなく、美浜区の住民に対して広く普及啓発活動を行うことができた。</p> <p>④真砂いきいきセンターと連携を図り、お元気高齢者に対して健康や介護予防の他、施設サービスや認知症講座を開催した。今後、加齢による機能低下や認知症などで介護が必要になることを知り、より介護予防の重要性についての理解を深めることができた。</p> <p>⑤あんしんケアセンター職員が直接、介護予防に関する普及啓発活動を行うだけでなく、地域におけるネットワークを活用した講師依頼や派遣をコーディネートすることが出来た。ネットワーク同士をつなぐという意味でも評価できる点である。特に、医療職との連携がとれたことも大きな収穫であると考えている。</p>	
地域介護予防活動支援	<p>①生活支援コーディネーターと協力し、介護予防に資する地域活動組織を発掘し、自主的に行われるよう育成・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ささえあいまさこ情報交換、共有を行い、活動に協力していく。 ・ ぐるり体操教室・美浜ますます元気体操会の後方支援を行う。 ・ シニアリーダー養成講座修了者の活動状況の把握を行い、必要に応じて後方支援を行う。 <p>②地域住民、団体、企業、学校を対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の正しい理解を深めながら、認知症になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせるまちづくりをすすめる。</p>	<p>①既存の介護予防活動団体の支援の他、新規に立ち上がった活動団体、計14団体への関り、交流が深まり、会話の中から総合相談支援に繋がるケースも増えている。後期に介護予防団体の活動支援に関して、看護師が中心となり行っていた体制を見直し、他の専門職にも分担した。あんしんケアセンターの職員が幅広く関ることが出来て、ネットワーク構築に効果があった。</p> <p>②マリンタウンの認知症カフェの立上げ、活動支援として行った認知症講座（3回シリーズ）がカフェのスタッフだけでなく、マンション住民やその他の活動団体へ認知症ケアの普及啓発に繋がった。</p> <p>③シニアリーダー体操の活動に参加し助言を行った。シニアリーダー連絡会へ参加し、他の団体の活動状況や課題を把握することで活動支援や助言に活かすことができた。</p> <p>④イオン検見川浜店と連携し、様々なイベントへの協力を行ったが、地下のカフェスペース、4階のイベントスペースを活用した新たな介護予防活動団体の立ち上げ支援にはつながっていない。次年度は新たな活動団体の発掘と併せ、イオンのフリースペースを活用できる団体のコーディネートを行いたい。</p> <p>⑤1年を通じて認知症サポーター養成講座を様々な業種、対象者に対して行うことができた。当初はキャラバンメイトが2名のみであったが、後期にキャラバンメイト講習にて専門職全員が有資格となり、次年度はより多くの団体に講座の開催が可能となった。またKids認知症サポーター養成講座ではあんしんケアセンター幸町と共に行い、他センターの取り組みを学ぶことができ、大変有意義であった。</p>	
その他	<p>①利用者のニーズに視点をおいた介護サービス事業所の選択を行い、特定のサービス事業者に偏ることのないよう、公正・中立を確保しながら支援を行う。</p> <p>②新しい運営法人として今後、顔の見える関係づくりと連携、協働体制構築のため定期的な会議開催する。また美浜区保健福祉センター各課とも情報共有を行い、良好な連携体制構築を図る。</p>	<p>①利用者のニーズに視点をおいた介護サービス事業所の選択を行い、特定のサービス事業者に偏ることのないよう、公正・中立を確保しながら支援を行うことが出来た。</p> <p>②美浜区の他のあんしんケアセンター管理者及び各専門職が定期的に会議を行い、顔の見える関係と連携協働体制が構築された。美浜区あんしん4センター合同の研修会や行政・多職種の連携会議の開催を行うことができた。個別の支援を通じて美浜区保健福祉センター高齢障害支援課、健康課、援護課各課とも情報共有を行い、良好な連携体制がとれている。</p> <p>③あんしんケアセンター及び指定介護予防支援事業の運営に関しては都度、地域包括ケア推進課、介護保険事業課、管理課と連携をとり行うことができた。</p>	

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター一運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 磯辺		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (2) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	57,460			
	高齢者人口	11,968			
	高齢化率	20.83%			
担当圏域 地区課題	地区により高齢化率や地域特性にも大きな差がある。高齢化率の高い地区にはエレベーターのない中層団地が多く外出困難となってくる。圏域内には医療機関、介護事業所などの社会資源や、高齢者が歩いて行ける範囲の商店なども少ない。				
活動方針	各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会等との連携を深め協働して取り組む。また関係機関との連携を取りながら、地域で住民主体となる活動の促進を図る。				
センター業務	項目	具体的な活動計画	自己評価		
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防日常生活支援総合事業の計画作成に関して、適切に実施できるようセンター内での検討、研修などを行う。 利用者に対して、制度変更での契約内容やプラン内容の変更の説明を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活援助訪問型サービスを受けてくれる訪問介護事業所が少なく、また、基準緩和のサービスが充実していない中、来年度以降の対応について、随時職員間で情報を共有していく必要がある。 委託先の居宅介護支援事業所一覧を作成し、共有を図っているが、要支援認定者を担当してくれる事業所が少なく苦慮している。 訪問調査の日程が遅く、認定結果に時間がかかっている。 		
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> 民生委員の改選もあり、各地区の定例会等へ計画的に参加し、センターへの相談に繋がる連携を図る。 地域のサロンへ計画的に参加できるようにし、センターの周知を継続して行う。 個別ケース対応において、センター内でのケース検討を実施し、対応方針を明確に行える体制を整える。 相談受付の内容を集計し、地区ごとの分析を行い地域への情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 3職種会議を活用し、総合相談での経過を共有できるようにしたが、十分な活用までに至っていない。相談後の継続した支援の中で漏れがないようにしていく。 民児協やサロン、体操教室に定期的に参加できた事で、顔の見える関係作りが構築され、相談ルートの拡充が出来ている。 依頼された講座はなるべく受けられるよう配慮した事で、センターの周知も進んでいると思われる。 総合相談の集計をするも、地域課題を分析するまでに至らず。 総合相談にて基本チェックリストの活用が上手く実施できなかった。 		
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> 区内センターの社会福祉士、区高齢障害支援課の連絡会の定期開催。 地域のサロンへ計画的に参加、また認知症サポーター養成講座の開催時に、権利擁護の内容を含めた啓発を行う。 総合相談の対応の中で権利擁護のニーズを適切に把握し、後見支援センター、消費生活センターを始め、支援団体等との連携に努めて相談対応をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 区内センターの社会福祉士連絡会の定期開催を通じて、他センターの状況を知ることができ、また資源の共有が図れたことで、総合相談での実践に活かす事が出来ている。 未就労の子どもを抱えた高齢者は増えていくと予想されるので、引き続き、支援団体との連携に努めていく必要がある。 		
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員からの個別困難ケースの相談へ適切に対応する。 圏域内の居宅介護支援事業所へ計画的に訪問し、介護支援専門員個々の状況把握と支援を実施。 地域の支え合いや見守りの団体と介護支援専門員との交流、合同の研修を実施。 多職種連携会議の開催。 美浜区連携の会への運営委員としての参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 区内のケアマネ連絡会を定期的を開催することが出来た。 圏域内の居宅介護支援事業所へのアプローチを行うも、あんしんケアセンターについての理解も含め、対応に苦慮している現状あり。 美浜区連携の会での繋がりが実践の中で役立っている効果みられる。 幕張西地区の地域ケア会議を開催した事で、社協から情報が小まめに頂けるようになった。住民の活動の場が一つ出来た。 		
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 幕張西公民館でのセンター主催の体操教室の開催。 地域のサロンへの計画的な参加にて住民への各種講座の開催。 住民向け認知症サポーター養成講座の開催の中で、介護予防に関する内容も含めた啓発を行う。 美浜区認知症キッズサポーター養成講座の実施協力。 	<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区に関しては百歳体操の普及が進み、ほぼ全ての自治会で実施されるようになり、通いの場が出来上がった。 地域のサロンへの計画的な参加が出来た。ミニ講座は健康課と協働して実施。認知症サポーター養成講座に関しては、前期のみとなってしまったので、年間を通しての計画を来年度は実施していく。 		
	地域介護予防活動	<ul style="list-style-type: none"> 磯辺地区の支え合い活動準備委員会への協力。 幕張西地区の見守り活動への協力。 うたせ認知症を考える会への協力。 地域の自主的な体操教室、センター主催から自主化した体操教室などへの継続的なフォロー。 既存の活動している住民団体への総合事業を含めた介護保険制度等の講座開催での啓発。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度自主化した体操教室においては、中心となってくださっている方の努力があり、定期的なフォローだけで維持する事が出来ている。 打瀬地区部会での講座（介護保険・認知症・運動をテーマ）を実施した事で、繋がりが強くなった。 社協から情報が頂けるようになり、幕張西地区の見守り活動への協力をどのような形でやっていくかを来年度の取り組みとして検討をしていく。 		
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 市で実施する公正中立調査の他、サービス種別の項目を増やしてのチェックを行う。 介護支援専門員の紹介に関して、日々の紹介状況を職員間で情報共有し、偏りの防止を行う。 	公正中立な業務実施として、各職員で紹介する事業所に偏りが無いように業務にあたっている。介護支援専門員の紹介数についても普段からセンター内での状況を把握できるようにしている。		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 高洲		主任介護支援専門員 (2) 人	社会福祉士 (3) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	46,132			
	高齢者人口	12,103			
	高齢化率	26.24%			
担当圏域 地区課題	<p>当地域における高齢者像を大別した場合、</p> <p>①当地において以前より暮らされる、コミュニティーをもった方々</p> <p>②他県・他地域より新たな環境を求めて転入された、健康面・経済面に恵まれた方々</p> <p>③同じく他県より転入されたが身寄りが無く、コミュニケーションツールもない、引き籠もりがちな方々</p> <p>④高齢者世帯や、同居者がいながらも疾患等を抱える世帯の増加により、対象者の支援が困難になっている方々</p> <p>当センターとしては、引き続き③、④に該当される方々の状況把握と課題解決に向け、積極的に関与していく。認知症高齢者、身寄りのない住民からの相談が増えており、外国人高齢者の相談が増えていくことが今後の課題と考えられる。</p>				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が住み慣れた地域で安心した生活が過ごせるように積極的に関与していく。 ・総合支援事業開始にあたり、地域の社会資源の把握に努め、対象者に適切なケアマネジメントを行っていく。 ・地域で起こる問題に対してワンストップ窓口となれるように引き続き努める。 ・住民に対して所在を明確化し、行政の担当部署に対し積極的関与を促すための連携を図っていく。 ・各種会議への参加、開催により他機関との連携強化に努める。 				
センター 業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・日常生活支援総合事業利用者の自立支援に向けたケアプラン作成 ・基本チェックリストの活用、適切なアセスメントにより、ケアマネジメントの質を高めていく。 ・地域活動をしている機関との連携を図り情報共有をしていく。 ・社会資源の情報収集をし、資料作成し提供していく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源、住民型のサービスの活用という面では成果をあげられているものの、支え合い型サービスや短期リハサービスはつながらず、今後の課題となりそうである。まずはどのような運営、特色があるかといったものの把握から始めていきたい。 ・介護保険サービス同様、その方のアセスメントに応じた対応を目指していく。 ・基本チェックリストに関しては今まで通りの利用を継続している。予防手帳は渡しているが、継続した活用結びつくのは困難であるため、今後の課題としていく。 ・適切なケアマネジメントにより、住民に各種予防を位置づけていく。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報共有 ・地域ケア会議の開催 ・多職種連携会議の開催 ・データ分析における実態、社会資源の把握に努めていく。 ・在宅医療や介護に関する情報収集に努め、連携体制づくりに取り組んでいく。 ・美浜区見守りネットワークの推進 ・外国人高齢者の相談対応の体制をつくっていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性としての独居率の高さを改めて感じた年度であった。権利擁護にからむケースが多く解決までに長期間費やし、チーム複数で活動することも頻繁で、総合相談が占める割合が多くなった。そのことで今後他業務における改善等が必要となっている。 ・相談件数が増えているということは、地域包括が周知されたということ、そのことに関しては普及啓発活動が実を結んでいると思う。しかし、地域包括の対象外となるケース、自身の機関で出来ることをせず、丸投げしているケースが多かった。この問題に対しては、来年度以降改めて、関係機関との関わりの中で役割を確認していきたいと思っている。 ・新規の相談が多い中、当然過去に受けた相談も多々みられ、ケースの整理を行いスムーズに対応できるよう心がけた。分析も随時行い、講義等にも利用し住民に地域を理解してもらう機会があったので、引き続き行っていきたいと思った。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携会議や担当者会議開催における情報共有 ・地域住民、自治会、民生委員等を対象とした、啓蒙のための講演会の実施（認知症 後見 虐待 消費者被害） ・成年後見チェックシートの活用（現状→予防→介護→終末）のプロセスを伝える ・虐待事例ケースにおける区との連携 ・認知症サポーター養成講座の実施 ・区、区内あんしんケアセンター社会福祉士の連絡会の実施 ・各教室、サロンに消費者被害の情報提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・後見制度の普及がみられてきているが、これまで多く関わってきた機関が件数の関係で対応が難しくなってきたため、新たに機関を探すことが多くなった。その方その方に応じ利用状況、経済面等含め、新しい機関との連携を図れた。区の社会福祉士会においては、活動内容等の説明を受け関係を築け、問題解決に向け多々相談している状況である。今後もより多くの機関と関わりをもっていきたい。 ・虐待においては、要介護の方が殆どだったので、ケアマネジャーからの報告が多かった。単純に支援というわけではなくアセスメントの確認から始まり、会議、方法を促す支援を行っており、解決もそうであるが、ケアマネジャーの質の向上につながれば良いと思った。 ・今年度は警察からの相談、確認の連絡が多く、消費者被害も多い地域ということから、得た情報を周知し犯罪被害の予防に努めた。今後も継続して行っていきたいと思う。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント 支援	<ul style="list-style-type: none"> ・関連機関との連携、担当者会議開催における情報共有 ・介護支援専門員事業所との連絡会を開催 ・社会資源を記した「サポートブック」の更新を随時行い配布する。 ・地域のケアマネジャーを対象とした連絡会の開催 ・地域の居宅介護支援事業所への訪問 		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ連絡会は計画通り実施。総合事業の開始年であり、自分達が理解しないと何も伝えられないということで、市への積極的相談や勉強会を行い、それを連絡会に活かした。まだまだ総合支援事業に相談、質問が多い中、対応できるよう日々学んでいきたいと思った。 ・相談件数の多さに比例するかのようには、ケアマネジャーからの相談も多かった。書類の説明、プラン、総合事業、困難ケースと様々相談があった中で、経過をみながらフォロー体制も作って行けたと思う。 ・関係機関とのネットワーク作りに関しては、障害支援事業所との関わりをもち、情報交換や互いの困惑していること等を話すことが出来、いい関係が築けたと思う。今年度に限らず来年度以降も関わりをもち、ケアマネジャーとの関わり、法改正等で連携を図っていく予定である。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防イベントを定期的に行い、各機関で行われる体操教室の普及啓発にあたる ・地域住民の方々を対象とした講演会 ・民生委員連絡会、自治会への参加 ・高洲夏祭りの参加 ・地域の幼稚園との合同納涼祭 ・地区食事会への参加による社会福祉協議会との連携（1回/月） ・ふれあい体操の実施（1回/月） 		<ul style="list-style-type: none"> ・計画していたイベント、予防活動は出来ており、地域の方々との関わりも増えている。ただ、地域包括としての業務を多く抱えている中で、自センター主体の活動が難しく、他の業務に影響している。来年度においては業務の改善を話し合っており、本来の目的である自主的な活動に切り替え、見守りを行っていきたくと思う。現在行っているものをどう代替えしていくか参加者と話し合い、既存のサロンや教室を周知していく方向である。 ・地域の活動の場を把握していく事で、相談対応の内容も変わってきている。今までは介護保険を主に考えていた部分もあったが、即座の対応、参加しやすい環境、融通のきく状況等において、地域にある資源のほうに合っている方が多いというのを理解した。今後もその方に合わせた各種サービスを相談の中で紹介していきたいと思う。 	
	地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・シニアリーダー体操等の活動を出来る場所を確保し、地域の予防の場を増やしていく。 ・リサイクルを活用した福祉用具等の情報提供及び貸出 ・ラジオ体操への継続、見守り、その中でのUR職員との情報共有 ・脳トレ教室へのサポート ・社会福祉協議会との連携におけるボランティア養成講座 ・いきいきプラザと連携を図り、自主ボランティア活動をしていく機関への支援を行っていく。 ・シニアリーダーとの連携会議 ・地域サロンへの支援 		<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と開始したサークルを1年通して継続出来、参加者も増え、いい評価を得ている。各催し物との合同企画、各機関が違ったものを予防として実施。工夫があつて成功に結び付いているのだと思う。これらの活動の中で他者を勧誘したり、他の予防場所を紹介したり、周知の場にもなっており、地域の発展につながっていると思う。 ・商業施設での予防イベントに関しても毎月多くの参加がみられ、リピーターや相談も多くなってきている。周知はある程度行っているが、日常生活の中で人が集まる所での活動は効果がみられている。 ・年度初めの、予防活動の場を増やしていくという目標はある程度達成出来たが、今後も増えていくと思われるこのような場に、効率よく関わっていく事を考えていきたい。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・区内4センター合同の事業を計画実施していく。 ・区、区内4センターとの連携を図り、小中学生を対象とした認知症キッズサポーター講座を計画通り実施していく。 ・特定の居宅介護支援事業所へのプランの委託、サービス事業者数を随時調査していくことで公正・中立を図る。 ・苦情対応の書式、マニュアルの見直しを図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・区4センターにおいては合同での企画を実施しており、何かあつた際には随時集まる場をもうけ連携は図れている。 ・今年度は総合支援事業の開始ということで、市への相談が多々あつた。説明会においても講師を務めていただいたり、随時ケース、業務の相談を行った中で、今後も運営方針に沿った活動が出来れば良いと思う。 ・公正中立においては総合支援事業や、地域柄難しくもなっているため、今後相談していきたい。 		

※人口データは平成29年6月30日現在

平成29年度千葉市あんしんケアセンター運営事業実績報告書

センター名	千葉市あんしんケアセンター 幸町		主任介護支援専門員 (1) 人	社会福祉士 (2) 人	保健師等 (1) 人
担当圏域 地区概況	圏域人口	20,106			
	高齢者人口	5,695			
	高齢化率	28.32%			
担当圏域 地区課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢独居世帯の孤立化や孤独死の問題、消費者被害、賃貸住宅の退去、認知症、アルコール依存症、精神疾患、障害等、権利擁護の絡む複合的な問題にも取り組む必要がある。 ・若年層支援の必要性も多く、ネットワークの構築が必要。 ・エレベーターのない5階建ての団地では、上層階に住む高齢者の外出問題もある。 				
活動方針	<ul style="list-style-type: none"> ・千葉市あんしんケアセンターの運営方針に基づき、市と連携を図りながら地域包括ケアシステムの構築、強化に取り組む。 ・精神疾患や認知症などの疾患を抱えていたり、外部との接触を拒否する住民の存在に対し、状況把握と課題解決に向け取り組んでいく。 ・既存のネットワークと連携を図り、高齢者の外出の場づくり、見守り、声かけを実施する。 ・今後急増すると予測される高齢独居世帯などに対して、健康教室や勉強会などへの参加を促し予防的な視点(地域リハビリテーションの構築も含む)での関わりを強化する。 ・家族関係や地域との関わりが希薄化する中で、高齢者の現状だけでなく将来的な問題を見据え、子どもの頃から地域の福祉力の向上を図る。 				
センター業務	項目	具体的な活動計画		自己評価	
	第1号介護予防 支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防、日常生活支援総合事業の理解を深めるために研修を行う。 ・自立支援のために、介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指す。 ・地域リハビリテーションの視点で、介護予防教室を行う。 ・対象者に適した事業参加の推進を行う。 ・健康課や区内のセンターと計画的に連絡会を開催し、連携を図る。 ・専門職である理学療法士等と協働し地域課題に合わせ、介護予防の取り組みを検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の健康意識向上のために生きがいづくりに取り組んだが、活動意欲の高い方の参加にとどまった。 ・日常生活支援総合事業に関し、センター内で連携を図りながら取り組むことができた。 ・理学療法士等リハビリ専門職と協働し、地域の高齢者の健康課題に合わせ、年間計画で介護予防の取組みを実施した。 ・自立支援のために、介護予防ケアマネジメントの質の向上を目指し、研修に参加し職員のスキルアップを図った。 ・事業対象者がいなかったこと、住民主体の事業がないことで、いきいき活動手帳が活用できなかった。 	
	総合相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各関係機関との地域ケア会議や連絡会を開催し、多職種連携を図る。 ・地域資源の把握及びマップ等の作成を行う。 ・地域住民と共働で見守りを行う体制を強化し、課題や問題の早期発見に繋げる。 ・高齢者にとってより身近な機関(郵便局、スーパー、コンビニ)等と連携を強化する。 ・継続支援が必要なケースを抽出。各関係機関と連携を図り、フォローしていく。 ・若年層を含め年代での縦割りにならない支援を行えるように、ネットワークを構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・縦割りで支援がストップしないように、各機関と連携を図り、状態把握及び適切な支援先へ繋いだ。 ・精神障害の方のニーズが多く、新たに支援体制を構築するための取組みを行った。 ・地域組織との連携体制がスムーズになってきている。 ・個人情報保護で民生委員に負担がかかったケースがあった。 ・区保健福祉センター各課、こころの健康センター、引きこもり支援センター等のそれぞれの機関の役割、業務内容の理解が必要。 ・日々の相談対応に追われ、自主的なアウトリーチができなかった。 ・複合的な困難事例を解決するために、他機関との研修会に参加しスキルアップを図った。 	
	権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ・対応に時間を要する複合的なケースの早期解決に向け、多職種との連携を強化する。(特に行政) ・地域に向けて、高齢者虐待防止、成年後見制度、消費者被害防止、エンディングノートや遺言等の講座を開催する。 ・虐待の早期発見に向け、気付きの意識が高められるよう関係機関や地域住民に対し啓発活動を行っていく。 ・高齢障害支援課や区内のセンターと定期的に勉強会や事例検討を行い、情報の共有を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・独居、高齢者世帯で親族不在の方などの支援が増えており、対応に支障が出ている。地域組織と緊急時の連絡体制などを整えていく必要がある。 ・消費者被害防止等の講座を計画的に開催することができたが、成年後見制度や高齢者虐待の啓発があまり実施できなかった。 ・成年後見制度や虐待の相談に関してセンター内で事例検討等を行い、対応力を強化する取り組みが必要。 	
	包括的・継続的ケアマネジメント支援	<ul style="list-style-type: none"> ・介護支援専門員からの相談に適切に対応するため、体制を整備する。(職員の役割分担や育成) ・圏域内の介護支援専門員の連絡会を開催し、抱えている悩みや課題、ケアプランの現状等を把握する。 ・支援困難ケースへの相談に対応し、各関係機関やインフォーマルなサービスを含め地域のネットワークを構築していく。 ・幸町2丁目高齢者等見守りネットワーク会議を継続的に開催。2丁目全戸アンケートの結果を分析し、住民のニーズを把握。今後の地域活動に繋げる。 ・医療連携のためのネットワークを構築する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域のネットワークの構築を図り、支援困難ケースへの多方面からのアプローチ拡充に努めた。 ・困難事例に対応する介護支援専門員に対して、センター内で検討しながらより良い支援、適切な対応ができるよう支援を行った。 ・介護予防 日常生活支援総合事業等が自立を目指したプランになっているかを確認した。 ・退院後に見守りが必要と思われるケースの対応依頼が増えた。 ・在宅介護を支えるための情報提供に難色を示す医療機関との連携が図れなかった。 ・医療と介護の連携課題に関して、介護支援専門員と医療関係者での認識の相違があることを痛感した。 	
	介護予防普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校、圏域内の事業所、地域住民に向けて認知症サポーター養成講座を行う。 ・地域に認知症サポーターのPRを行い、知名度を高める。サポーターの活動支援を行う。徘徊模擬訓練等、地域の認知症対応力の向上を図る。 ・センター主催の体操教室を継続する。 ・地域リハビリテーションの視点で、介護予防教室を行う。 ・区健康課と協働し、いきいき体操の普及を行う。 ・地域のサロンに出向き、参加者の実態やニーズ把握に努める。 ・ふれあい交流館でのミニ講座を専門機関と協働し、計画的に実施する。 ・生活支援コーディネーターと協働し、地域のサークル等の一覧を作成し、随時情報を更新する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症になっても安心して暮せるまちづくり」を目指し、認知症サポーター養成講座を開催。自助力、共助力の強化を図った。 ・Ki d s 認知症サポーター講座も骨組みができているので、取組みやすかった。圏域内の学校に関しては特に今後の取組みに繋げられるよう考えていきたい。 ・閉じこもりや社会参加の少ない高齢者、生きがいをなくしている方へのアプローチ方法を検討したが、支援が困難。 	
地域介護予防活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・体操教室や地域ボランティア、シニアリーダー養成講座参加者が自主的に活動ができるように働きかけを行う。 ・住民の自主サークルの立ち上げ、居場所づくりを支援する。 ・幸町2丁目一人暮らし高齢者等見守り支援事業(みまも〜れ幸町)を見直し、現状の地域課題に合わせて、方向性を検討する。 ・区内の関係機関(NPO法人、UR都市機構、生活支援コーディネーター等)と連携を図り、地域の特性に必要な資源を調査し、運営支援を行う。 ・地域活動の広報、支援を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・住民の自主活動立ち上げに向けた働きかけを行ったが、主体的な活動には進展しなかった。 ・介護予防活動支援を通し、参加者の傾向を知ることで、今後の介護予防普及啓発の在り方を見直す機会となった。 ・地域づくりの担い手の確保が難しい。 ・地域のボランティアの会議で地域課題の報告、検討ができた。今後の地域づくりに繋げていきたい。 ・関係機関のネットワーク会議を開催し、地域課題の共有化を図り地域での支援体制を強化できた。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・公正中立な組織運営を行う。 ・個人情報の取り扱いに留意する。 ・職員の資質向上の為、育成計画を作成する。 ・効率的な組織運営を検討する。 ・広報誌の作成、配布。 ・マニュアル作り ・地域イベントへ積極的に参加する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・公正中立な組織運営を行った。 ・個人情報の取り扱いに対し、センター内で検討。業務の適正化を図った。今後、持ち出し台帳を活用する。 ・職員の資質向上の為、研修に参加した。 ・広報誌の作成、配布を行った。 ・業務の優先順位を意識して業務に取り組んだ。 		

※人口データは平成29年6月30日現在